

琵琶湖博物館業績目録

第 29 号

2024 年度(令和 6 年度)

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2025 年(令和 7 年)6 月

Performance Records of the Lake Biwa Museum, No. 29

From April 2024 to March 2025

Edited by the Lake Biwa Museum (Chief editor: SATO, Kanon)

Published by the Lake Biwa Museum

Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan

© Lake Biwa Museum, Jun 2025

All rights reserved

目 次

収録内容		3
館長		
亀田 佳代子	KAMEDA, Kayoko O.	5
副館長		
山川 千代美	YAMAKAWA, Chiyomi	10
上席総括学芸員		
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi	14
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki	18
環境史研究係		
林 竜馬	HAYASHI, Ryoma	20
橋本 道範	HASHIMOTO, Michinori	23
楊 平	YANG, Ping	27
妹尾 裕介	SENOO, Yusuke	31
大久保 実香	OKUBO, Mika	34
田畑 諒一	TABATA, Ryoichi	38
加藤 秀雄	KATO, Hideo	42
島本 多敬	SHIMAMOTO, Kazuyuki	45
半田 直人	HANDA, Naoto	48
生態系研究係		
大塚 泰介	OHTSUKA, Taisuke	52
榎永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro	57
大槻 達郎	OHTSUKI, Tatsuo	60
スミス, ロビン J.	SMITH, Robin James	64
濱口 貴仁	HAMAGUCHI, Takahito	66
米田 一紀	YONEDA, Kazuki	68
鈴木 隆仁	SUZUKI, G. Takahito	71
川瀬 成吾	KAWASE, Seigo	74
西川 真里奈	NISHIKAWA, Marina	78
奥田 岬	OKUDA, Misaki	80
菅原 巧太郎	SUGAWARA, Kotaro	82
博物館学研究係		
金尾 滋史	KANAO, Shigefumi	85
芦谷 美奈子	ASHIYA, Minako	91
桑原 康一	KUWAHARA, Koichi	94
松岡 由子	MATSUOKA, Yuko	96
渡邊 俊洋	WATANABE, Toshihiro	99

今田 舜介	IMADA, Shunsuke	102
*中村 久美子	NAKAMURA, Kumiko	
会計年度任用職員		
小山 勝	KOYAMA, Masaru	105
細川 眞理子	HOSOKAWA, Mariko	106
山岡 眞澄	YAMAOKA, Masumi	107
名誉館長		
高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi	108
名誉学芸員		
中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo	110
前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi	111
用田 政晴	YODA, Masaharu	112
グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark Joseph	113
特別研究員		
天野 一葉	AMANO, Hitoha	115
井内 美郎	IUCHI, Yoshio	116
池田 勝	IKEDA, Masaru	118
岩木 真穂	IWAKI, Maho	119
上中 央子	UENAKA, Hisako	120
大久保 卓也	OKUBO, Takuya	121
柏尾 珠紀	KASHIO, Tamaki	122
柏谷 健二	KASHIWAYA, Kenji	124
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki	125
新海 拓郎	SHINKAI, Takuro	127
小林 亮平	KOBAYASHI, Ryouhei	128
小松原 琢	KOMATSUBARA, Taku	130
辻川 智代	TSUJIKAWA, Tomoyo	132
寺本 憲之	TERAMOTO, Noriyuki	133
戸田 孝	TODA, Takashi	135
中井 克樹	NAKAI, Katsuki	136
根来 健	NEGORO, Takeshi	142
廣石 伸互	HIROISHI, Shingo	145
藤岡 康弘	FUJIOKA, Yasuhiro	146
増田 敬祐	MASUDA, Keisuke	148
八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro	149
山本 綾美	YAMAMOTO, Ayami	151
山本 充孝	YAMAMOTO, Michitaka	153
総合研究・共同研究による印刷物		154
2024年度の研究活動をふりかえって		155

収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および会計年度職員、名誉学芸員、特別研究員等の2024年4月から2025年3月までの内容が収録されています。
2. *の学芸職員は、次年度に報告します。
3. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

一年間の研究

印刷物

- 【学術論文】（査読を受けて掲載された論文）
- 【専門分野の著作】（査読を経ないが、専門性の高い内容の著作）
- 【一般向けの著作】
- 【これまでの業績目録に掲載されていない著作】

研究活動に関する業績

- 【学会・研究会での発表等】
- 【インターネットページでの公表】
- 【研究プロジェクト等への参加】
- 【学会等の役職・運営、論文の査読など】
- 【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】
- 【受賞など】

博物館事業に関する業績

- 【交流・サービス事業】
 - 琵琶湖博物館の主催行事
 - 他の博物館・機関等の主催行事
 - 視察等への対応
 - メディアへの協力
- 【情報整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他の博物館・機関等の活動（地域連携を含む）
- 【資料整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他の博物館・機関等の活動
- 【展示活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他の博物館・機関等の活動

- 【企画調整活動】
- 【広報営業活動】
- 【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

- 【館内の人事】
- 【海外渡航】
- 【館外の活動】

館長

2024 年度より館長を拝命し、博物館全体の運営に気を配りながら、博物館の活動発信や外部機関・団体との連携にも務めた。

4 月には、水族展示のトンネル水槽と「よみがえれ！日本の淡水魚」が全面再開し、ご支援いただいた皆さまを招いて内覧会を行った。ビワコオオナマズ水槽とコアユ水槽の工事も始まり、前年度に引き続いて水族展示再生のためのクラウドファンディングの実施や企業・団体からの寄附のお願いに務めた。おかげさまで多くの方々からご協力と支援をいただくことができ、クラウドファンディング終了後には、ご支援いただいた皆さまへのリターンやお礼にも力を注いだ。

外部との連携については、コロナ禍以降再開した韓国国立洛東江生物資源館との合同セミナーおよび今後の連携活動に関する協議のため、韓国を訪問した。研究協力や資料交換のほか、2025 年度の生物資源館の企画展示、2026 年度の当館の企画展示において、相互に協力を行うこととなった。また、新たに地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所と連携協定を締結し、琵琶湖と淀川の双方の希少淡水魚の保全について、より一層協力を進める体制をつくることができた。

DX 事業では、昨年度に引き続き地理情報システム (GIS) を用いた生物分布マップ「びわはく GIS」の構築に携わり、他の学芸職員や委託職員などとともに、鳥類標本情報や日本野鳥の会等の探鳥会情報の入力および使いやすいプラットフォームの構築を行い、鳥類分布情報の公開を行った。

2024 年度は、おかげさまで多くの方々にご来館いただき、第 32 回企画展示「湖底探検Ⅱ-水中の草原を追う-」では、43,492 人の来場者を迎えることができた。また、2 月には開館以来の累計来館者数が 1,300 万人、3 月には年間来館者数が 50 万人となり、記念セレモニーを行った。

研究においては、総合研究のとりまとめに向けて研究調査報告の目次案を作成し、研究会で共同研究者と検討を行い、最終年度である 2025 年度末までに編集作業を終えるための行程を提示した。専門研究に関わる鶴飼の研究については、7 月に生き物文化誌学会、1 月に国際学会 (水鳥学会と汎太平洋海鳥グループの合同大会) で口頭発表を行った。3 月には、国立民族学博物館の共同研究の成果として「鶴飼いの日本史」が出版された。

館外からの依頼では、県内外のカワウ対策や管理に関する助言のほか、千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会の委員として、基本計画や実施計画、施設整備計画等に意見を述べた。また館長として、日本動物園水族館協会の総会や近畿ブロック園館長会議への出席、日本博物館協会の参与・滋賀県博物館協議会の理事として総会や会議に出席し、他園館の現状や最新情報を把握するとともに、各園館長とも交流を深めることができた。

これらの活動をもとに、多くの方々のご協力や応援を励みとしながら、今後の琵琶湖博物館のさらなる発展と魅力発信に務めていきたいと考えている。

印刷物

【専門分野の著作】

亀田佳代子・加藤秀雄・大槻達郎 (2024) 地理情報システム (GIS) を用いた生物分布マップ「びわはく GIS」による鳥類分布情報の蓄積と活用. In: 全国科学博物館協議会 (編), 第 32 回全国科学博物館協議会研究発表大会資料, pp. 113-119.

亀田佳代子 (2024) 第一章 ウミウ・カワウ-その行動と生態からみた鶴飼. In: 卯田宗平 (編) 鶴飼の日本史-野生と権力、表象をめぐる 1500 年, 昭和堂, 京都市, pp. 21-39.

【一般向けの著作】

亀田佳代子 (2024) 7-16 鳥類. In: 津田洋 (監修) 琵琶湖ハンドブック四訂版. 滋賀県, pp. 184-185.

亀田佳代子 (2024) 地理情報システム (GIS) を用いた生物分布デジタルマップ「鳥類 WebGIS (試作版)」の紹介. In: 日本野鳥の会滋賀 (編), におのうみ (78), pp. 2-3.

亀田佳代子 (2024) あいさつ. In: 芳賀裕樹・芦谷美奈子(編) 第32回企画展示「湖底探検II-水中の草原を追う-」
琵琶湖博物館, p. 1.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

亀田佳代子 (2024年7月14日) ウミウ・カワウの行動と生態からみた鶺鴒, 生き物文化誌学会第21回学術大会
(生き物文化誌学会), 国立民族学博物館 (大阪府吹田市), [口頭発表].

Kameda, K. O. (2025年1月8日) Why are Cormorants Used for Fishing? Ecological Characteristics of Cormorants
and Knowledge and Techniques of Cormorant Catchers and Masters, Waterbird Society and Pacific Seabird
Group 2025 Joint Meeting (Waterbird Society and Pacific Seabird Group), コスタリカ・マリオット・ホテ
ル・アシエンダ・ベレン (コスタリカ), [口頭発表].

亀田佳代子 (2025年2月13日) 地理情報システム(GIS)を用いた生物分布マップ「びわはくGIS」による鳥類分布
情報の蓄積と活用. 第32回全国科学博物館協議会研究発表大会(全国科学博物館協議会), 兵庫県立人と自然
の博物館(兵庫県三田市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 研究
代表者 (2019年度~2025年度).

岐阜市長良川鶺鴒習俗総合調査委員会・関市小瀬鶺鴒習俗総合調査委員会「全国鶺鴒習俗基礎調査」(事務局: 岐
阜市教育委員会・関市協働推進部), 調査者 (2019年度~2024年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

一般社団法人日本鳥学会, 代議員, 2024年1月~2025年12月.

日本鳥学会員近畿地区懇談会, 世話人, 2000年1月~.

日本生態学会, 近畿地区会自然保護専門委員, 2008年1月~2025年12月.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, 11件.

質問対応, 琵琶湖博物館, 3件.

2024年11月16日, 開会あいさつ, びわ博フェス2024 博物館の新たな可能性一つながることで できることー,
琵琶湖博物館.

2024年12月8日, 淡海こどもエコクラブ絵日記・壁新聞コンクール, 琵琶湖博物館, 審査委員長.

2025年2月8日, 水鳥を観察しよう!, わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事 (地域連携を含む)

2024年4月18日, READYFOR presents オンラインシンポジウム「ミュージアムの未来をつくる 新時代のファンド
レイジング戦略」テーマ3: 公立博物館のクラウドファンディング (READYFOR), オンライン, 登壇.

2024年8月5日, カワウと森と人の過去・現在・未来. 令和6年度近畿2府8県議会議長会議 (近畿2府8県議会
議長会議), 琵琶湖ホテル, 講師.

2024年11月10日, あいさつ. 日本トンボ学会公開シンポジウム「「みんなでつなごう! ひろげよう! トンボのい
る自然~トンボでつなぐ近江の水辺~」 (日本トンボ学会), 琵琶湖博物館, あいさつ.

2024年11月30日、森をめぐるカワウと人とのかかわりと古代湖 琵琶湖。TEDxDoshishaU Regacy 2024 (TEDxDoshishaU), 同志社大学今出川キャンパス (京都市), 講師。

2025年1月18日、カワウを通して見る現代の琵琶湖の環境問題と古代湖 琵琶湖～生き物と人とのかかわりを中心に～。自由民主党青年部会の視察 (自由民主党青年部会), 琵琶湖博物館, 講師。

2025年2月16日、あいさつ。野生動物研修会一般市民講座「伊吹山の野生動物～ツキノワグマとイヌワシ～」(公益社団法人 滋賀県獣医師会), 琵琶湖博物館, あいさつ。

視察等への対応

2024年5月22日, あいさつ, 韓国地方行政研究員 (韓国)。

2024年5月30日, 展示案内, 湖南省人民政府副省長 (中国)。

2024年5月31日, あいさつ, 湖南省科学技術庁 (中国)。

2024年6月12日, あいさつ, 湖南省江新区管委會 (中国)。

2024年7月18日, あいさつ, 東京都中央区議会。

2025年1月28日, あいさつ, 中国科学院水生生物研究所 (中国)。

2025年3月4日, あいさつ, 在ニカラグア特命全權大使。

メディアへの協力

産経新聞 2024年8月28日「滋賀県立琵琶湖博物館の水槽 C Fで完全復活へ、亀田佳代子館長が考える究極の博物館とは」対面取材, (2024年8月27日取材対応)。

NHK 天津放送局 2024年10月20日 さわやか自然百景「滋賀 西の湖」, 鳥類種の確認, メール取材, 2024年10月5日取材対応)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

鳥類資料の受入, 11件。

鳥類資料の製作, 7件。

鳥類資料の利用, 本剥製標本, 企画展示, 2点。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義「おとなのディスカバリー鳥類コーナー」, 1回 (4日)。

展示交流員と話そう, 内容指導, 1人。

【企画調整活動】

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所との連携協定締結式, 協定書署名, (2024年10月8日・琵琶湖博物館)。

自然史系博物館長懇談会, 出席, (2024年10月9日・国立科学博物館筑波研究施設)。

累計入場者数1,300万人達成記念セレモニー, あいさつ, (2025年2月12日・琵琶湖博物館)。

2024年度来館者数50万人達成セレモニー, あいさつ, (2025年3月16日・琵琶湖博物館)。

記者発表, 県立5館ミュージアム合同記者発表会, (2025年3月21日, 県庁)。

クラウドファンディングリターン, 学芸員の研究体験 (プランクトン), あいさつ, (2024年4月13日)。

クラウドファンディングリターン, トンネル水槽オープン内覧会, あいさつ, (2024年4月21日)。

クラウドファンディングリターン, 水族バックヤードツアー, あいさつ, (2024年6月16日)。

クラウドファンディングリターン, 水族バックヤードツアー, あいさつ, (2024年7月20日)。

クラウドファンディングリターン, オンラインツアー, あいさつ動画撮影 (2024年8月2日)。

クラウドファンディングリターン, 水族バックヤードツアーフルコース, あいさつ, (2024年10月18日)。

クラウドファンディングリターン, C展示室大掃除 (哺乳類), あいさつ (2024年12月25日)。

クラウドファンディングリターン, C 展示室大掃除 (鳥類), あいさつ・清掃対応 (2024 年 12 月 26 日).
クラウドファンディングリターン, 水族バックヤード一通りツアー, あいさつ, (2025 年 1 月 29 日).
クラウドファンディングリターン, 水族展示 DEEP ツアー, あいさつ, (2025 年 2 月 4 日).
クラウドファンディングリターン, 保護増殖センターツアー, あいさつ, (2025 年 2 月 24 日).
クラウドファンディングリターン, A 展 DEEP 解説ツアー, あいさつ, (2025 年 3 月 6 日).
クラウドファンディングリターン, 保護増殖センターツアー, あいさつ, (2025 年 3 月 21 日).
クラウドファンディングリターン, 保護増殖センターツアー, あいさつ, (2025 年 3 月 23 日).
クラウドファンディングリターン, 保護増殖センターツアー, あいさつ, (2025 年 3 月 29 日).

【広報営業活動】

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル, びわこのちからチャンネル, 「館長就任あいさつ」, (2024 年 4 月 1 日).
琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル, びわこのちからチャンネル, 「年末年始あいさつ」, (2024 年 12 月 27 日).
記者発表, クラウドファンディング第 2 弾開始, (2024 年 8 月 28 日, 琵琶湖博物館).
企業訪問 8 件 (2024 年 4 月 9 日、11 日、12 日、16 日、23 日、24 日、11 月 5 日、3 月 7 日).
株式会社 SCREEN ホールディングス, 就任あいさつ (2024 年 6 月 5 日).
水族展示再生支援寄附感謝状贈呈式・トンネル水槽オープン内覧会, あいさつ・感謝状贈呈, (2024 年 4 月 21 日).
東レエンジニアリング株式会社, 感謝状贈呈式, あいさつ・感謝状贈呈 (2024 年 6 月 6 日).
住友電工プリントサーキット株式会社, 感謝状贈呈式, あいさつ・感謝状贈呈 (2024 年 6 月 20 日).
株式会社パールライス、株式会社堀場製作所、叶匠寿庵, 感謝状贈呈式, あいさつ・感謝状贈呈 (2024 年 6 月 27 日).
日野精機株式会社、森島商事株式会社、日本黒鉛工業株式会社, 感謝状贈呈式, あいさつ・感謝状贈呈 (2024 年 10 月 22 日).
株式会社 SCREEN ホールディングス, 日本大学 校友会滋賀県支部, 感謝状贈呈式, あいさつ・感謝状贈呈 (2024 年 11 月 6 日).
株式会社ダイフク, 感謝状贈呈式, あいさつ・感謝状贈呈 (2024 年 11 月 12 日).
近江鍛工株式会社, 感謝状贈呈式, あいさつ・感謝状贈呈 (2025 年 2 月 25 日).
日本メンテナンスエンジニアリング株式会社, 巖本金属株式会社, 第一工業製薬株式会社, 日本ソフト開発株式会社, 株式会社藤田, 長兵衛造船所, レンゴー株式会社, 感謝状贈呈式, あいさつ・感謝状贈呈 (2025 年 3 月 6 日).

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会, 委員長.
2025 年 1 月 25 日, 開講あいさつ. 新琵琶湖学セミナー, 琵琶湖博物館, あいさつ.
2025 年 3 月 29 日, 閉講あいさつ. 新琵琶湖学セミナー, 琵琶湖博物館, あいさつ.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2024 年 8 月 20 日, 令和 6 年度デジタル人材育成研修 (幹部職員対象), オンライン受講.
2024 年 10 月 30 日, 令和 6 年度 キャリア形成支援研修, 対面受講.

【海外渡航】

2024 年 9 月 11 日～13 日, 韓国 (国立洛東江生物資源館), MOU 協力活動協議.
2025 年 1 月 6 日～13 日, コスタリカ共和国 (サンホセ市), Waterbird Society and Pacific Seabird Group 2025 Joint Meeting への参加と発表.

【館外の活動】

京都大学生態学研究センター，協力研究員（1997年4月1日～2026年3月31日）。

滋賀県生きもの総合調査委員会鳥類部会，専門委員（2006年8月1日～2027年3月31日）。

農林水産省滋賀森林管理署「伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ」，委員（2006年7月12日～2026年3月31日）。

滋賀県カワウ総合対策協議会，委員（2010年7月21日～2025年3月31日）。

滋賀県カワウ総合対策協議会個体数調整部会，委員（2010年7月21日～2025年3月31日）。

関西地域カワウ広域管理計画の推進に関する検討委員会，委員（2014年1月6日～2025年3月31日）。

環境省カワウ保護及び管理に関する検討会，委員（2015年9月1日～2025年3月25日）。

岐阜市長良川鶺鴒習俗総合調査専門委員会，委員（2016年2月1日～2025年3月31日）。

関市小瀬鶺鴒習俗総合調査委員会専門部会，委員（2016年2月1日～2025年3月31日）。

兵庫県コウノトリ野生化対策懇話会，構成員（2016年8月1日～2026年7月31日）。

京都市環境影響評価審査会，委員（2023年6月12日～2025年6月11日）。

千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会，委員（2023年11月10日～2025年3月31日）。

琵琶湖環境研究推進機構，研究推進顧問（2024年4月1日～）。

滋賀県博物館協議会，理事（2024年4月1日～）。

日本博物館協会，参与（2024年4月1日～）。

海と日本プロジェクト in 滋賀実行委員会，委員長（2024年4月1日～）。

副館長

「新生代の大型植物化石」を研究対象とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析による当時の植物相とその変遷、古植生の復元や古環境を明らかにする研究を行っている。

2023～2024 年度の共同研究「鮎河および綴喜層群産化石群による前期中新世後期の古環境について」（代表者：山川千代美）では、琵琶湖誕生以前に堆積した鮎河層群および綴喜層群から産出した化石群に基づき、琵琶湖周辺地域の約 18-17Ma 前の古環境を明らかにすることを目的としている。琵琶湖博物館の収蔵標本や、新産地による寄贈標本データを加え、化石群の組成を捉え直し、総合的に海域・陸域の古気候・古環境を示す。海域では貝類、海棲哺乳類、魚類、陸域では植物化石（材、大型、花粉）、哺乳類の化石を中心に、今年度は標本の確認、クリーニング、同定作業を進めた。来年度以降は新規の共同研究として受け継ぐ予定で、2026 年度には琵琶湖博物館研究報告としてまとめる予定である。また、この研究に関連して、近畿地域に分布する中新統の植物化石群として、二上山博物館所蔵の二上層群産の植物化石群を対象に同定作業を行なった。

専門研究「滋賀県多賀町四手の下部更新統産植物化石群におけるブナ属とスギ属」は、多賀町立博物館が行っている古代ゾウ発掘プロジェクトの発掘調査第一次から第十次まで、産出した大型植物化石のデータをまとめる過程で、注目する分類群の研究となる。この古代ゾウ発掘プロジェクトによる約 180 万年前の古植生・古環境の研究は、琵琶湖博物館はしかけグループ「古琵琶湖発掘調査隊」とともに植物化石資料の同定や整理を進めており、現地による目視の採取データだけでなく、定量分析による洗い出し法による種実化石の検出データも加え、多産するブナ属の総苞と種子の形態観察を行によるブナタイプとイヌブナタイプの区別を試みている。関連して、発掘場所の上位層となる富之尾火山灰層層準から産出している大型植物化石群集の組成も踏まえ、古環境・古気候の考察を行うこととなる。

そのほか、科研（基盤研究 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合研究（代表 高橋啓一）」分担者（2018 年～2021 年）の成果として、古琵琶湖層群の植物化石相の特徴についてと、後期鮮新世末の大型植物化石群集から復元した古植生について、論文にまとめた。また、古琵琶湖層群と同じ時代に堆積した上総層群のうち、昭島市田中町の多摩川河床に分布する加住層から産出した化石林について調査を行い、樹種同定を行なった。その結果の一部が、2025 年 3 月 30 日、むさしの化石塾、東京都立大学地形・地質学研究室とともに東京都の昭島市民図書館にて報告会と展示会が実施された。

印刷物

【学術論文】

山川千代美・矢部 淳・植田弥生・林 竜馬・里口保文（2024）関東平野西縁部更新統上総層群加住層産化石林にもとづいたメタセコイア属 (*Metasequoia*) が優占する湿地林の復元. *化石*, 116, 5-18.

山川千代美・百原新（印刷中）大型植物化石の産出記録に基づいた鮮新—更新統古琵琶湖層群の植物化石相の特徴. *琵琶湖博物館研究報告*, No. 38, 32-44.

百原 新・山川千代美・斎藤 毅（印刷中）古琵琶湖層群の後期鮮新世末の大型植物化石群集から復元した古植生. *琵琶湖博物館研究報告*, No. 38, 45-54.

【専門分野の著作】

山川千代美・亀田佳代子（2024）博物館活動への参加と理解を促進する仕組みとしての外部資金活用制度. *全科協 NEWS* (全国科学博物館協議会), vol. 55, No. 1, 4-6.

【一般向けの著作】

山川千代美（2024）琵琶湖博物館情報誌「びわはく」Vol. 8「太古の水辺を彩る」特集担当, 研究最前線「鮮新—更新世フローラの変遷からみる世界」掲載記事, 1-4.

山川千代美 (2024) 5-7 植物の化石. In: 琵琶湖ハンドブック改訂検討チーム (編), *琵琶湖ハンドブック四訂版*, 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課, 大津, 128-129.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

矢部淳・齊藤毅・山川千代美 (2025 年 1 月 25 日) 京都府宇治田原町の下部中新統綴喜層群の植物化石群集. 日本古生物学会第 174 回例会発表, オンライン [口頭発表].

山川千代美 (2025 年 2 月 22 日) 約 24 万年前の伊吹山山麓の植生について. 2024 年度滋賀県植物研究会講演会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

山川千代美・植村和彦・林田明・同志社大学地学研究会・小枝弘和 (2024 年 8 月 16 日) 歴史的な自然史標本の紹介—新島襄採集の神戸層群産植物化石標本—. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「滋賀県多賀町四手の下部更新統産植物化石群におけるブナ属とスギ属」(研究代表者: 山川千代美), 研究代表者 (2023~2024 年度).

琵琶湖博物館共同研究「鮎河および綴喜層群産化石群による前期中新世後期の古環境について」(研究代表者: 山川千代美), 研究代表者 (2023~2024 年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024 年度博物館実習, 「琵琶湖博物館の設置理念等について」, 講師 (2024 年 8 月 21 日).

博物館事業に関する業績

全体活動

【クラウドファンディング】

水槽再生事業「みんなで作る水槽」クラウドファンディング第 2 弾の運営補助, 業者打ち合わせ, メッセージ回答.

クラウドファンディング返礼 参加証書授与対応.

クラウドファンディング返礼「A 展示室ディーブツアー」(2025 年 3 月 6 日) 対応.

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, 13 件.

はしかけグループ「古琵琶湖発掘調査隊」担当.

2024 年 11 月 16 日 17 日, びわ博フェス, 挨拶.

他の博物館・機関等の主催行事 (地域連携を含む)

2024 年 4 月 27 日, 2024 奥びわ湖・山門水源の森 現地交流会 春本番、湿原を白く染めるミツガシワ, 山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会「奥びわ湖・山門水源の森の氷河期から今日までの植物の移り変わり」西浅井まちづくりセンター, 講師.

2024 年 11 月 9 日講演「太古の琵琶湖と当時の動物や植物たち」近江八幡市八幡学区まちづくり協議会, 八幡コミュニティセンター.

視察等への対応

2024年4月23日, セジョン市議員団.
2024年5月22日, 韓国.
2024年6月12日, 湖南省視察団.
2024年7月7日, 関西大学学部生.
2024年7月12日, 台湾看護大学生.
2024年7月18日, 東京都中央区議員団.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

地学収蔵庫・冷温収蔵庫, 担当.
古琵琶湖層群産化石標本, 受け入れ対応・標本整備推進・研究利用対応.
琵琶湖バレイ (旧琵琶湖自然科学博物館) 標本, 受け入れ対応.
新川 教標本, 受け入れ対応.
尾形家 (芳則) 標本, 受け入れ対応.
文化庁イノバート・ミュージアム事業: 橋本忠太郎さく葉標本デジタル画像データ作成委託業務対応.

他の博物館・機関等の活動

愛知県陶器美術館 植物材化石標本同定作業.
香芝市二上山博物館 植物化石標本整理・同定作業.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ギャラリー展示「鉱物・化石展 2024 大地に夢を掘る」2024年4月20日～6月2日, 企画展示室 運営補助等.
A展示室: 変わる気候と森コーナー, 植物化石標本管理.
モーニングレクチャー, 講義「変わる気候とメタセコイアの森」, 1回(4日).

他の博物館・機関の活動

「多摩地域の化石—可視化展」2025年3月30日, 主催: むさしの化石塾、東京都立大学地形・地質学研究室、昭島市民図書館.

【企画調整活動】

マネジメント会議, 構成員.
琵琶湖博物館協議会, 出席.
企業連携: 水族展示再生プロジェクトCF第2弾実施広告・集積車ラッピング (株)木下カンセー.
トンネル水槽再生寄附 感謝状贈呈式 出席.
びわ博サポーター制度にかかる応援寄附等 感謝状贈呈式 出席.
企業訪問: 副館長就任挨拶, 水槽サポーター更新説明, メンバーシップ・寄附お礼等.
You Tube 動画作成対応: はしかけ活動の紹介 (古琵琶湖発掘調査隊).
県立文化施設5館連携協議: 2024年10月15日, 県立美術館.
県立美術館ワークショップ・モニターインタビュー: 2024年12月20日 Zoom 対応.
日本動物園水族館協会主催飼育員技能職資格試験対応(試験監督): 2025年1月15日 京都水族館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

新規学芸員採用試験 面接.

会計年度任用職員採用試験 面接対応 (2024年6月28日, 29日) (2025年2月28日).

広報委託プロポーザル審査員.

【館外の人事】

守山市埋蔵文化財審議員 (2023年4月～).

西日本自然史系博物館ネットワーク, 理事 (2020年2月～).

西日本自然史系博物館ネットワーク 標本救済ネット, ケースワーカー (2020年2月～).

文化庁イノベート・ミュージアム事業推進担当 (2024年6月～2025年2月).

地層から過去の堆積環境の解析や、地層中の火山灰層から、地層の年代決定、水系の変化推定、爆発的火山噴火活動の変遷の検討を中心に研究を行っており、これらの研究は、現在の琵琶湖が形成されてきた地史を解明する研究に結びついている。また、現在の琵琶湖の堆積物から、過去 1000 年程度の時代における環境変遷の研究についても実施している。

過去の湖があった時代から現在までの数百万年オーダーの変化、現在位置での琵琶湖があった時代の数万年オーダーの変化、人が関係している時代の数千～数百年オーダーの変化を対象として研究を行っている。数百万年オーダーでは、琵琶湖地域を中心とした近畿・東海地域における止水域分布や水系変化の検討を行っており、今年度は琵琶湖地域における止水域分布の変化を、古琵琶湖層群～現在の堆積時期全体について議論し、琵琶湖博物館研究調査報告書の原稿として執筆した。数万年オーダーについては、国際プロジェクトである IODP の expedition386 において、乗船して国内外の研究者と共に日本海溝付近の堆積物を対象とした研究を行い、特に火山灰層に着目して、海溝部の平面的な堆積物の広がりについて検討を行った。このプロジェクトの関係者が集まる国際会議で発表し、現在の進捗状況の情報交換を行い、層序・年代に関する共著論文の執筆担当部分の原稿を提出した (未投稿)。数百年オーダーについては、琵琶湖南湖を対象に、湖内植物生産量の変化を解明することを目的としたボーリング調査を、当館の共同研究で行っており、それを発展させた南湖・北湖の比較研究を行う事で、人為的な影響を因る検討を実施している。現在まとめを行っており、論文投稿準備中。

博物館の研究発信として出版されている琵琶湖博物館研究調査報告書について、J-STAGE での公開を過去の号も含めて公表することを進めている。事業では、今年度から事業部長として、事業部全般の調整と推進を行った。第三次中長期基本計画の後半 5 年間の事業計画策定にあたって各担当へ議論の方向性の意見を行った。また、水族展示室における大型水槽破損に伴う水族展示再生についての事業調整などに関わる事業を行った。今年度の業務は大部分の時間をこれらの業務に当てざるを得ない状況であり、専門分野の学芸業務の運営も危うい状況となっている。博物館業務全体の見直しが課題と思われる。

担当しているはしかけグループでは、地域の岩石調査やグループ内の勉強会などのサポートを行った。その他、化石や鉱物の調査をされている地域の人々が主体となって行うギャラリー展示「鉱物・化石展 大地に夢を掘る」を 12 年ぶりに開催するサポートを行った。毎年、当館の地学関係者が事務局として行っている地域の方々との研究発表会は、3 年ぶりの開催を実施した。

印刷物

【学術論文】

Strasser, M., Ikehara, K., Pizer, C., Itaki, T., Satoguchi, Y., Kioka, A., McHugh, C., Proust, JN, Sawyer, D. and IODP Expedition 386 Expedition Management Team (2024) Japan Trench event stratigraphy: First results from IODP giant piston coring in a deep-sea trench to advance subduction zone paleoseismology. *Marine Geology*, 477: 107387. //doi.org/10.1016/j.margeo.2024.107387

【専門分野の著作】

里口保文 (2024) 琵琶湖博物館第 3 期リニューアル前後におけるアンケート調査結果について. In: 佐々木亨(編), 「ミュージアムの新たな評価手法構築に関する実践研究」調査報告書, 科研費実施報告書: 113-117.

【一般向けの著作】

里口保文 (2024) 琵琶湖の成り立ち. In: 藤岡康弘・川瀬成吾・田畑諒一 (編), *琵琶湖の魚類図鑑*, サンライズ出版, 彦根市: pp. 8-11.

- 里口保文 (2025) 湖底地形. In: 琵琶湖ハンドブック改訂検討チーム (編), *琵琶湖ハンドブック四訂版*, 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課, 大津, pp. 118-119.
- 里口保文 (2025) 生い立ち. In: 琵琶湖ハンドブック改訂検討チーム (編), *琵琶湖ハンドブック四訂版*, 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課, 大津, pp. 126-127.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- Satoguchi, Y., Nagahashi, Y. and Ikehara, K. (2024年7月8・9日) Tephra correlations between the sites under the Japan Trench. IODP Expedition 386 2nd Post-Cruise Meeting (IODP expedition 386), University of Alaska (Anchorage), [ポスター発表].
- 池原 研・板木拓也・長橋良隆・里口保文・石澤堯史・金松敏也・StrasserMicheal (2024年8月31日) 日本海溝堆積物に記録された過去の海溝型巨大地震. 日本第四紀学会 2024年大会 (日本第四紀学会), 東北大学 (仙台市), [口頭発表].
- 森野泰行・増田太郎・森蒼葉・里口保文・林竜馬・山川千代美 (2025年3月19・20日) 耳川・百瀬川における谷中分水界の堆積物と水系変化. 2025 春季学術大会 (日本地理学会), 駒澤大学 (東京都世田谷区), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖南湖堆積物中のアルカンによる水生植物生産量と陸上植物流入量の推定に関する基礎的研究」(研究代表者: 里口保文), 研究代表者 (2021年度~2024年度).
- 琵琶湖博物館専門研究「古琵琶湖層群中部~上部の火山灰層露頭の現状調査」(研究代表者: 里口保文), 研究代表者 (2024年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本地質学会, 代議員 (地方区), 2022年5月~2026年4月.
- 日本地質学会近畿支部, 幹事長, 2016年5月~2026年4月.
- 日本地質学会, 生涯教育委員, 2022年7月~2024年7月.
- 地質学雑誌 (日本地質学会), 査読, 1件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2024年度前期集中講義, 滋賀県立大学, 地球科学 II.
- 2024年度博物館実習, 博物館事業の役割説明, 琵琶湖博物館 (2024年8月19日).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 10件.
- 2025年1月18日, おとなナイトミュージアム, クラウドファンディング返礼, 琵琶湖博物館, A展示室展示解説.
- 2025年3月6日, A展示室 Deep 解説ツアー, クラウドファンディング返礼, 琵琶湖博物館, 全体調整・A展示室解説.
- 大津の岩石調査隊, 担当学芸員.

他の博物館・機関等主催行事 (地域連携を含む)

- 2024年5月16日, 「琵琶湖の生い立ち」, 膳所歴史サークル, 膳所歴史サークル例会, 膳所市民センター, 講師.

2024年10月15日、「琵琶湖の成り立ち」, 野洲市コミュニティセンターみかみ, 楽しく学ぶ歴史教室, 野洲市コミュニティセンターみかみ, 講師.

2025年3月8日、「琵琶湖の生い立ちを探る」, 読売テレビ 24 時間テレビチャリティー事務局, びわ湖プロジェクト 2025, 琵琶湖博物館, 講師.

視察等への対応

2025年3月4日, 在ニカラグア日本国大使来県にかかる琵琶湖博物館視察, 在ニカラグア日本国大使, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

不明, フジテレビ「世界の何だコレ!?これミステリー」, 琵琶湖の北上について電話取材, (2024年4月19日取材).

2024年4月30日, びわ湖放送「ニュース滋賀」, ギャラリー展示「鉱物・化石展 大地に夢を掘る」の説明, (2024年4月30日取材).

2024年12月13日・17日, NHK-BS「につぼん百低山」, 滋賀の山の成り立ちについて電話取材, (2024年8月～12月の複数回取材).

2025年1月, NHK 大津「おうみ発 630」, 世界湖沼の日制定記念展示取材対応, (2025年1月9日取材).

2025年1月, 中日新聞「世界湖沼の日制定記念取材対応」, (2025年1月9日取材).

2025年1月22日, ZTV コミュニティチャンネル「おうい!かわら版(滋賀)」, 世界湖沼の日制定記念展示取材対応, (2025年1月17日取材).

未定, 京都新聞(未定), 信楽焼きの原料になる土と琵琶湖の関係解説, (2025年3月19日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

岩石標本寄贈対応, 受け入れ等, 2件.

岩石鉱物標本・堆積物標本整備.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2024年4月1日～9月29日, A 展示室地域の人びとによる展示「滋賀県でとれる化石&鉱物」, 展示者との調整・展示対応.

2024年4月20日～6月2日, ギャラリー展示 鉱物・化石展 2024 大地に夢を掘る, 副担当.

2024年10月6日～2025年4月8日, A 展示室地域の人びとによる展示「鮮新—更新統大阪層群産の非海生生物化石」, 展示者との調整・展示対応.

2025年1月4日～3月31日, 世界湖沼の日制定記念展示「琵琶湖博物館と海外とのつながり」, アトリウムでのトピック展示, 展示制作・設置.

モーニングレクチャー, A 展示室の展示, 1回(4日).

【企画調整活動】

新任職員研修, 事業部の解説, 2024年4月16日, 琵琶湖博物館.

新任職員研修, A 展示室の説明, 2024年4月18日, 琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

J-STAGE への琵琶湖博物館研究調査報告掲載, 過去号掲載調整, 3件, 2025年3月.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2024年12月、子どもエコクラブ絵日記・壁新聞コンクール審査、審査員。

【海外渡航】

2024年7月7日～7月12日、アメリカ合衆国アラスカ大学、IODP Expedition386 国際ミーティング参加・発表。

2024年9月11日～9月13日、大韓民国・国立洛東江生物資源館、MOUを締結している韓国国立洛東江生物資源館との機関長会議および共同セミナー。

2024 年度は引き続き南湖の水草繁茂状況のモニタリングを行うとともに、総合研究「琵琶湖と集水域の過去 50 年間の環境変遷の解明」で水位・水質・水草に関する情報収集と整理を行った。特に 2024 年度前半は第 32 回企画展示「湖底探検 II-水中の草原を追う-」の開催準備に精力を注ぎ、2002 年から 22 年間にわたって行ってきた南湖の水草繁茂に関する研究の成果と、総合研究で得られた明治～昭和初期の藻採り（肥料利用のための水草採取）に関する知見をあわせて人と水草の関係に関する歴史的・総合的な展示を行った。さらに、展示の内容をさらに詳しく説明した企画展示解説書（前 128 頁）を刊行した。この企画展は 4 万人余が入場するなど、十分な研究成果の還元の間となった。

印刷物

【一般向けの著作】

- 芳賀裕樹（編著）（2024）琵琶湖博物館第 32 回企画展示「湖底探検 II-水中の草原を追う-」展示解説書，琵琶湖博物館，滋賀県，pp. 127.
- 芳賀裕樹（2025）南湖の沈水植物繁茂．In: 琵琶湖ハンドブック改訂検討チーム（編），琵琶湖ハンドブック四訂版，滋賀県琵琶湖環境部環境政策課，大津，pp. 166-167.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 菅原巧太朗，鈴木隆仁，根来健，川瀬成吾，岡野邦宏，芳賀裕樹（2025 年 3 月 18 日）「琵琶湖博物館屋外展示の生態観察池での池干しによる環境改善効果の評価」，第 59 回水環境学会年会，北海道大学（札幌市），[ポスター発表].
- 芳賀裕樹（2024 年 4 月 19 日）藻採りは南湖の沈水植物の繁茂を抑制していたのか？～統計資料の検討による定量的な採藻（泥）量の推定～．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」（研究代表者：亀田佳代子）研究分担者（2019 年度～2027 年度）.
- 琵琶湖博物館共同研究「池干し前後の水質・底質・食物網解析による適切なため池管理に関する研究」（研究代表者：菅原巧太郎），研究分担者（2024 年度～2026 年度）.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2024 年 8 月 27 日，龍谷大学特別講義（琵琶湖博物館共催），びわ湖・滋賀学「暮らしとつながる自然（1）琵琶湖の 150 年といま」，講義.
- 2024 年 8 月 30 日，龍谷大学特別講義（琵琶湖博物館共催），びわ湖・滋賀学「C 展示室見学・課題学習」，展示解説と課題提示.
- 2024 年 8 月 31 日，龍谷大学特別講義（琵琶湖博物館共催），びわ湖・滋賀学「企画展示見学・課題学習」，展示解説と課題提示.
- 2024 年度博物館実習，講義「琵琶湖博物館の研究活動」，琵琶湖博物館会議室（2024 年 8 月 19 日）.
- 2024 年度博物館実習，講義・実習「企画展示の作り方」，琵琶湖博物館会議室（2024 年 8 月 22 日）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク，10 件.
- 2024 年 10 月 19 日，「環境・ほっと・カフェ 水草について知ろう！【水草のしおり作り】」，烏丸半島湖岸・琵琶湖博物館実習室，水草観察指導.

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

- 2024年8月3日，環境学習会「感じよう！考えよう！楽しもう！目に見えない微生物たちのパワー」（株式会社村田製作所安事業所），琵琶湖博物館実習室，プログラム開発支援・共催。
- 2024年8月10日，環境学習会「台所の水はどこに行くの？」，（株式会社環境創研・琵琶湖博物館），琵琶湖博物館実習室，プログラム開発支援・共催。
- 2024年10月31日，第3回MLGsと私たち（滋賀経済同友会），リオ・グランデ（湖上），講師。
- 2024年12月15日，「南湖の沈水植物をモニタする」，びわ湖と人々を支える 令和6年度滋賀県試験研究機関研究発表会」（滋賀県試験研究機関連絡会議），琵琶湖博物館アトリウム，発表者。

メディアへの協力

- 2024年7月31日，びわこ大津経済新聞社，琵琶湖博物館で琵琶湖の水草展「水草は良い物なのか悪い物なのか」，企画展内容説明。
- 2024年8月21日，京都新聞社，水草と琵琶湖 考える 南湖の繁茂問題など紹介，企画展内容説明。
- 2024年8月23日，中日新聞社，琵琶湖博物館で企画展 江戸時代の「藻採り」再現，企画展内容説明。
- 2024年8月24日，毎日新聞社，湖底の草原から琵琶湖の環境学ぼう，企画展内容説明。
- 2024年8月28日，NHK 関西ラジオワイド，出演（2024年8月28日生中継）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 第32回企画展示「湖底探検 II - 水中の草原を追うー」（2024年7月20日-2024年11月24日） 主担当。
- 水族トピック展示「水草展」（2024/7/20-8/31）展示用生体資料（水草）採取。
- モーニングレクチャー，講義「企画展示について」，1回（4日）。

他の博物館・機関等の活動

- 福井県立年縞博物館（2024年9月24日-11月24日），琵琶湖博物館企画展示「湖底探検 II - 水中の草原を追うー」の出張展示、展示素材提供。

【企画調整活動】

- 新任職員研修，「琵琶湖博物館の研究活動について」，2024年4月16日，琵琶湖博物館。
- 新任職員研修，C展示室の説明，2024年4月18日，琵琶湖博物館。

【研究部関連事業】

- 研究部長。
- 化学物質取扱主任者。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

- 2024年9月11日-9月13日，韓国慶尚北道尚州市 韓国国立洛東江生物資源館，MOU 機関長協議および合同セミナーの開催。

【館外の活動】

- 滋賀県，琵琶湖環境科学研究推進機構，幹事（2024年4月1日-2025年3月31日）。
- 滋賀県環境部琵琶湖保全再生課，魚たちのにぎわいを協働で復活させるプロジェクト会議，参加メンバー。
- 滋賀県環境部琵琶湖保全再生課，水草対策チーム会議，参加メンバー（2024年4月1日-2025年3月31日）。
- 滋賀県環境部環境政策課，琵琶湖ハンドブック四訂版作成委員会，委員，（2024年4月1日-2025年3月31日）。

琵琶湖の湖底堆積物を中心とした花粉分析に基づいて、東アジア地域における過去数十万年間の森林植生の変遷と気候変動、さらには人間活動との関連についての研究を進めている。

本年度は、科学研究費基盤研究（C）に関連して、琵琶湖堆積物および日本海堆積物を用いた花粉分析や定量的植生復元手法の開発を目指した花粉生産量に関する研究を継続して実施した。また、定量的な植生景観復元モデルの応用に関する研究も公表に向けた作業を進めた。本年度は、これまでにフィールド調査を実施してきた山形県立谷川、関東平野上総層群、森吉山麓における研究成果が公表された。

琵琶湖博物館総合研究の中では、琵琶湖周辺における過去 150 年間の森林景観の復元を行うことを目的として、琵琶湖堆積物の花粉分析を中心に研究を進めた。また、琵琶湖博物館共同研究として、ドローン空撮を活用した植生の季節変動モニタリングについて、天然林や人工林、ヨシ群落において定期的にフィールド調査を行った。さらに、琵琶湖博物館共同研究として継続的に研究を進めてきた滋賀県の遺跡での花粉分析結果の集成と解析の成果とそのデータ資料を、琵琶湖博物館研究調査報告において公表した。琵琶湖博物館専門研究では、日本海堆積物の花粉群集組成との比較を目的に、鳥取県における遺跡での花粉分析データの収集と整理を進めた。これらの研究成果の一部については、琵琶湖博物館研究セミナーや大学講義などをおして、一般に向けた紹介にも努めた。

博物館事業に関しては、展示係の展示交流員担当として、展示交流事業に関する運営に取り組んだ。学会での活動としては、日本花粉学会の編集委員長と第四紀学会評議委員の業務を行った。

印刷物

【学術論文】

- 池田重人・志知幸治・岡本 透・林 竜馬・芳賀 和樹（2024）森吉山麓の花粉記録にみる中世以降の秋田スギの衰退. *日本森林学会誌*, 106, 206-213.
- 山川千代美・矢部 淳・植田弥生・林 竜馬・里口保文（2024）関東平野西縁部更新統上総層群加住層産化石林にもとづいたメタセコイア属 (*Metasequoia*) が優占する湿地林の復元. *化石*, 116, 5-17.
- 大江新一・林 竜馬・出穂雅実・百原 新・大脇航平・佐々木尚子・高原 光・植田弥生・山川千代美・山野井 徹（2024）山形県立谷川河床埋没林から復元する最終氷期最盛期の植生. *植生史研究*, 32, 41-58.

【専門分野の著作】

- 林 竜馬（2024）琵琶湖地域の気候の変化. In: 藤岡康弘・川瀬成吾・田畑諒一（編）, *琵琶湖の魚類図鑑*, サンライズ出版, 彦根, pp. 12-15.
- 林 竜馬（2024）滋賀県遺跡花粉データベースと湖南地方平野部における植生景観復元に向けた試み. *琵琶湖博物館研究調査報告* (37) 15-32.
- 林 竜馬（2024）資料：「滋賀県遺跡花粉データベース（APPALE-Shiga データベース）」. *琵琶湖博物館研究調査報告* (37) 95-124.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- Hayashi, R., Sasaki, N., Takahara, H., Sugita, S. (2024 年 5 月 29 日) Testing REVEALS-based vegetation reconstruction with absolute pollen productivity estimates around Lake Biwa, western Japan. the XV IPC/ XI IOPC (Prague, Czech Republic). [口頭発表].

- Takahara, H., Sasaki, N., Saito, T., Hayashi, R., Nakamura, T., Sugita, S. (2024年5月29日) Pollen productivity estimates in Japan: Use of flower traps for major Pinaceae and Betula trees. the XV IPC/XI IOPC (Prague, Czech Republic). [口頭発表].
- 林 竜馬 (2024年7月19日) 遺跡・湖沼・海洋堆積物から琵琶湖-日本海にかけての花粉化石の時空間分布を考える. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 林 竜馬 (2024年9月16日) 山門湿原の成立と古環境変遷. 関西自然保護機構シンポジウム「自然共生サイト滋賀県山門湿原の保全活動と課題」, 西浅井運動広場体育館 (滋賀県長浜市), [シンポジウム講演].
- 林 竜馬・板木拓也・宮川歩夢・福富友馬・齋藤明美・押川千恵・児塔栄子・岸川禮子 (2024年11月9日) 自動スライドスキャナと人工知能を用いた空中花粉自動計測システムの検証と課題. 日本花粉学会第65回大会, 東京慈恵会医科大学 (東京都調布市), [ポスター発表].
- 林 竜馬・渡邊千隼・山田 桂・入野智久・佐竹 渉・多田賢弘・鈴木健太・多田隆治・Nurcan Küçükarslan・香月興太・唐 双寧・松村公仁・大村幸弘 (2025年3月10日) 樹種同定・微粒炭分析からみる前期青銅器時代～鉄器時代における カマン・カレホユック遺跡での木材利用と火災史の復元. 第31回トルコ調査研究会, 東京国立博物館 (東京都台東区), [口頭発表].
- 林 竜馬・入野智久 (2025年3月14日) KR07-12 PC-07 コアの花粉分析からみる日本海暗色層堆積時の陸域植生と気候パターンの推定. 2024年度 MRC 研究発表会, 島根大学 (島根県松江市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「遺跡・湖沼・海洋堆積物の花粉分析に基づく琵琶湖-山陰-日本海にかけての花粉化石の時空間分布の解明」, (2024年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「ドローンを活用した琵琶湖生態系のモニタリング-植生・河川・土地利用の時空間変動解析-」(研究代表者: 奥田 岬), 共同研究者 (2023年度～2025年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 共同研究者 (2019年度～2024年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤 C) 「過去50万年の琵琶湖・海洋花粉分析からみる温暖期の森の脆弱性と日本海効果の評価」研究代表者 (2023年度～2026年度).
- 科学研究費助成事業 (国際共同研究加速基金(海外連携研究)) 「トルコアナトリア地域の遺跡と湖沼における気候・環境変化と文明との関係」(研究代表者: 山田 桂), 研究分担者 (2023～2027年度).
- 産業総合研究所コア技術育成支援プログラム 「「砂粒」自動鑑定技術の実用化」研究分担者, (2022～2024年度).
- 北海道大学低温科学研究所共同研究 (一般研究) 「気候変動に対する北方林の脆弱性評価のための定量的・効率的な古植生復元手法の開発」, 研究代表者 (2024年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本花粉学会, 日本花粉学会会誌 編集委員長, 2024年～.
- 日本第四紀学会, 評議委員, 2023年～.
- Vegetation History and Archaeobotany, Ecological Research, Journal of Paleolimnology, 第四紀研究, 査読, 4件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2024年7月1日, 龍谷大学深草キャンパス, 里山学「花粉で探る過去の里山環境」.
- 2024年7月22日, 龍谷大学瀬田キャンパス, 里山学「花粉で探る過去の里山環境」.
- 2024年8月28日, 龍谷大学瀬田キャンパス, びわ湖・滋賀学「琵琶湖の自然と生い立ち 森の歴史といま」.
- 2024年8月30日, 琵琶湖博物館, びわ湖・滋賀学「A展示室見学」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，12件.

はしかけグループ「森人」，担当.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

地学標本整備，収蔵庫維持管理，担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員，主担当.

ユニバーサルデザイン，主担当.

モーニングレクチャー，講義「樹冠トレイルと屋外展示について」，1回（4日）.

「湖と人間」との関係性総体の歴史を琵琶湖地域に即して諸学統合的に把握するために、地球環境史や一国環境史に対置する「地域環境史」という枠組みを提起し(橋本道範 2016d、2022b、2023b)、17世紀に地域の基礎単位として確立した「ムラ」(現在の大字、地域の言葉でいえば「在所」)をめぐる二つの仮説①非力の村論(橋本道範 2004のち2015に収録、2016e)と②生業の稠密化論(橋本道範 2015、2023c)、そして、消費の場における嗜好の変化、加工時期の変化や調理・加工体系の転換などの解明から‘逆照射’して生業の変化、環境利用の変質を究明する③環境史的消費論(橋本道範 2020a、2022a、2023a)、魚類等の自然のコード化とその脱構築から生業や消費の変化を解明しようとする④第三の自然観論(橋本道範 2021、2022b)の都合四つの仮説からその具体化と統合を目指している。かつて「環境史は歴史学の一分野史なのか」といった議論があったが(篠原徹 2004など)、環境史は学際的研究であると定義し(橋本道範 2022b)、歴史学は環境史に積極的に参画するべきであると明確に主張している(橋本道範 2022c)。

I、今年度の大きな成果は、2024年度歴史学研究会大会全体会「個別史と全体史の往還—マスターナラティブを編みなおすために—」において、「日本産淡水魚消費論—全体史に向けた試み—」と題して報告し、その要旨を『歴史学研究』増刊号(1054号)に掲載したことである。これは、1996年に琵琶湖博物館が開設された当初に始まった総合研究「東アジアの中の琵琶湖：コイ科魚類を展開の軸とした環境史に関する研究」(1996年度～2006年度：研究代表者中島経夫)に参画して以来、およそ30年にわたって続けてきた淡水魚消費研究を総括したもので、戦後歴史学による「近代になる」という「大きな物語」(キャロル・グラッグ 1995)を乗り越えるため、自然もその一部である人間も主役とする「環境史」という新たなマスター・ナラティブを編みなおすことを目的に、日本産淡水魚に注目し、「生態系—自然観—消費—流通—生業—生態系」の連鎖の中で、消費がどのような影響を与え、影響を受けているのかを解明することを試みたものである。報告では、まず、サケの資源量の周期的変動、レジーム・シフトを前提に、少なくとも14世紀以降、王権にとっての「干鮭」の価値付け(自然観)が常に動揺していたことを明らかにした。次に、15～16世紀のシル料理の流行(消費)を取り上げ、16世紀に王権が「水田利用魚類」(金尾滋史 2020)であるドジョウを初めて捕捉したことを明らかにした。最後に、現在琵琶湖・淀川水系の固有種とされているワタカが、16世紀に大和地域で漁獲・消費されたことを指摘し、それらは19世紀までに絶滅して、琵琶湖地域の名産品化するものの、いま現在は、列島各地に人為により分布が拡大して「国内外来種」として駆除されていることに注意を促した。一方で無限の消費のため資源として徹底的に漁獲して絶滅させるが、一方で保護する、かと思えば、人間によって移動させられた種には「よその」の烙印を押して駆除するも、完全に絶滅しそうになると擁護する。こうしたご都合主義的な関わり方が人間の自然との歴史的な関わり方の本質であり、「前近代＝共生」というステレオタイプな言説は再検討しなければならないと主張した。

II、環境史的消費論を構築するために、元禄2年(1689)の料理書『合類日用料理抄』に記載された「江州鮎の鮓」(本研究では、「古フナズシ」と呼んでいる)の製法(厳寒期に塩切せずに糯米の玄米で漬け込む)の再現実験に取り組んだ。これは、共同研究「フナズシの歴史的な位置付けについての研究II—「古フナズシ」の再現実験—」(2022年度～2024年度：研究代表者橋本道範)の資金で行っているものであるが、幸い、サントリー文化財団2022年度研究助成「学問の未来を拓く」「ナレズシはいかに「洗練化」したのか—乳酸菌分析にもとづく環境史へのアプローチ」(2022年8月～2023年7月：研究代表者橋本道範)の助成を得たため、県内27か所の市販フナズシを購入し、微生物叢解析及び成分分析等を行った。その結果、*Lactobacillus acetotolerans*、*Lentilactobacillus buchneri*の2種の乳酸菌が優占種となるサンプルが多く観察され、近江八幡市で製造されたフナズシは全て*L. buchneri*が優占種であった。以上の結果により、市販フナズシに含まれる微生物叢には製造地域による特徴があり、優占種となる乳酸菌種が一部の微量元素や有機酸の含有量に影響を及ぼす可能性が示された。また、簡易鮎寿司製造装置を利用して第5回目の再現実験(最終実験)を行ったところ、*Companilactobacillus alimentarius*が優占種として検出され、乳酸桿菌が増殖しており、現代のフナズシと同様に乳酸発酵が進行したと考えられた。これらの成果は、2025年3月15日(土)に開催した研究報告会「江戸時代のフナズシに、挑戦する」(琵琶湖博物館ホール)において市民の皆さんに向けて発表した。当日は110人の参加者があり、活発な議論が行われた。

以上をもって31年6ヵ月にわたる滋賀県での研究を終了した。ご支援をいただいた皆さまに感謝申し上げます。

印刷物

【学術論文】

塩田隆, 吉山洋子, 後藤美帆, 加藤早也花, 佐藤咲, 塩入ヶ谷郁, 島純, 田邊公一, 橋本道範 (2024) 市販鮎寿司に含まれる微生物叢解析と成分分析. *食品・臨床栄養*, e2024, 1-10.

橋本道範 (2024) 日本産淡水魚消費論—全体史にむけた試み—. *歴史学研究*, 1054, 12-21.

【一般向けの著作】

橋本道範 (2004) 名品手鑑Ⅲ15 滋賀の博物館・美術館探訪 琵琶湖博物館 室町時代の手紙 伝わる作法 横川宗興書状 「切封」そのままに. *毎日新聞*, 5月30日朝刊.

橋本道範 (2024) 参加することでより学びあう. *琵琶湖博物館フィールドレポーター掲示板*, 琵琶湖博物館, 104, 1-2.

橋本道範 (2024) 江戸時代の琵琶湖のふなずしを再現—疑問を解き明かす再現実験—. *月刊ウエンディ*, 合人社計画研究所, 424, 5.

橋本道範 (2004) フナズシはいつからあるのですか?. *フィールドレポーター* だより, 琵琶湖博物館, 58, 3.

橋本道範 (2005) ナレズシ研究の新展開. *研究報告会「江戸時代のフナズシに、挑戦する」要旨集*, 琵琶湖博物館, pp. 4-5.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

橋本道範 (2024年4月19日) ドジョウ・ワタカと人間—新しいナラティブの創造に向けて—. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

橋本道範 (2024年5月25日) 日本産淡水魚消費論—全体史にむけた試み—. 2024年度歴史学研究会大会全体会「個別史と全体史の往還—マスターナラティブを編みなおすために—」, 青山学院大学(東京都渋谷区), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金基盤研究(A)「中近世「菅浦文書」の公開促進と史料学的・文理融合的研究」(研究代表者: 滋賀大学経済学部・青柳周一), 研究分担者(2021年度~2025年度).

京都大学人文科学研究所研究班「生きる営みと環境問題」(班長: 京都大学人文科学研究所・岩城卓二), 班員(2023年度~2024年度).

琵琶湖博物館共同研究「フナズシの歴史的 position 付けについての研究Ⅱ—「古フナズシ」の再現実験—」(研究代表者: 橋本道範), 研究代表者(2022年度~2024年度).

琵琶湖博物館専門研究「地域環境史の理論的構築」, 研究代表者(2024年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年度秋学期, 佛教大学, 日本古代史史料講読2A・京都学文献研究2A・日本史史料講読(古代・中世)1A. 史料講読.

2024年8月29日, 龍谷大学, びわ湖・滋賀学, 講義.

2024年9月9日~12日, 就実大学, 吉備地方文化特論3, 講義.

2024年4月27日, 京都華頂大学, 日本文化学とは—和食から考える—, 講師.

2024年6月12日, 公立鳥取環境大学まちなかキャンパス, 東鯉人カフェ(第2回)—ナレズシと鯉: アジア史と郷土史, ナレズシの起源—拡散から琵琶湖のフナズシの洗練化まで—, 講師.

2024年6月23日、京都華頂大学、第14回華頂公開講座、日本の「ムラ」の成り立ちをめぐって一国宝・菅浦文書を中心に、講師。
2024年11月13日、琵琶湖博物館、比叡山高等学校2024年度企業訪問、歴史学は創造の学問だ、講師。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー、10件。

フィールドレポーター調査「生き物供養碑調査」、担当。

「びわ博フェス2025～博物館の新たな可能性～つながることでできること」、担当。

橋本道範、2025年3月15日、ナレズシ研究の新展開、研究報告会「江戸時代のフナズシに、挑戦する」、琵琶湖博物館、講師。

橋本道範、2025年3月29日、ナレズシ調査にみる調査票調査の醍醐味と課題、令和6年度（2024年度）新琵琶湖学セミナー「みんなで調べる！みんなで伝える！市民科学の最前線！」第3回「SNSで！調査票で！みんなで調べるいろいろな方法」、琵琶湖博物館、講師。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

橋本道範、2024年7月30日、湖の道、日本財団 海と日本PROJECT 食卓から未来のうみを守り隊4、琵琶湖博物館、講師。

橋本道範、2024年8月27日、「どっこい生きてる」とわかったふなずし、これからの進化に期待！、平和堂マイ・デイリー・ライフ「生活お役立ち情報」、e-radio（生放送）、講師。

メディアへの協力

2024年5月30日、鮎ずし味わい方 世につれ 食べたことある76% 酒のあて楽しむ傾向 琵琶博アンケート、読売新聞、取材対応。

2024年5月31日、近江のなれずし製造技術 国登録文化財 県民4分の3「食べた」、京都新聞、取材対応。

2024年6月2日、琵琶博「フィールドレポーター」交流会 学芸員「駆除活動に生かせる」、京都新聞、取材対応。

2024年6月2日、「食べた」76% 30年前より減少 ナレズシ県民大調査 報告会、中日新聞、取材対応。

2024年6月13日、鳥取のナマズ食に光 環境大教授が研究発表、山陰中央新報、取材対応。

2024年6月23日、「フナズシ食べた」76% 琵琶湖博物館フィールドレポーター「県民大調査」 「おいしい」、でも「高い」…、滋賀民報、取材対応。

2024年12月24日、「生き物供養碑」地域の情景伝える、産経新聞、取材対応。

2025年1月1日、「和のチーズ」おいしい冒険 ふなずし（滋賀）、朝日新聞、取材対応。

2025年2月5日、ふなずし 快腸導く乳酸菌 「長期発酵一因 風味に影響か」 龍谷大農学部など分析、読売新聞、取材対応。

2025年2月14日、ふなずし風味 乳酸菌で変化、龍谷大や琵琶博研究、種類影響、地域差も、中日新聞、取材対応。

2025年2月23日、ふなずしの味 乳酸菌で差？ 県北部は爽やか 近江八幡は酸味強く 琵琶博・龍大グループ、27種類分析、京都新聞、取材対応。

2025年3月8日、ふなずし最新研究一堂に 塩漬けなし 江戸の製法再現 15日、琵琶博で報告会、京都新聞、取材対応。

2025年3月16日、江戸期のふなずし再現、読売新聞、取材対応。

2025年3月16日、江戸期のふなずし 再現研究発表 琵琶博、京都新聞、取材対応。

2025年3月16日、ふなずし変身 若者や海外を意識、チーズと組み合わせ、産経新聞、取材対応。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

歴史資料整備，特別収蔵庫維持管理，副担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2024年5月21日（火）～2024年7月28日（日），第23回学芸員のこだわり展示「重要文化財・琵琶湖博物館所蔵 東寺文書展 室町時代のお手紙の作法—礼紙（らいし）と封紙（ふうし）—」，B展示室，担当.

2024年7月9日（火）～7月12日（金），モーニングレクチャー，講師.

【研究部関連事業】

研究セミナー運営，担当.

研究最前線，担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

神奈川大学日本常民文化研究所，客員研究員（2024年度～2025年度）.

佛教大学，非常勤講師（2024年度）.

就実大学，非常勤講師（2024年度）.

滋賀県博物館協議会研修委員会委員（2024年度）.

琵琶湖ハンドブック四訂版改訂検討チーム員（2024年度）.

研究部及び事業部における主要な活動実績は次のとおりである。

「自然資源と人との関わり」というテーマで自然資源の利活用および地域再生のありかたについて研究調査を行っている。琵琶湖地域を中心としたフィールド調査においては、川や湧水など水をめぐる資源の利活用や地域運営の仕組みについて、湖西と湖東に分けて現在の地域組織や地域活性化の在り方に関する研究調査を行った。これについては、International Conference「International Conference on Water Management」において、研究発表を行った。共同研究では、赤野井湾を中心に研究調査を推進することができた。これまでの研究成果として、1冊の冊子を完成したほか、国際シンポジウムや研究会などにて発表を行うことができた。琵琶湖ハンドブック四訂版に執筆の機会や国際シンポジウムなどで意見交換や議論を行ったことは、研究を進める一助となった。

また、社会学的研究の一環として、地域連携や組織運営のありかたについての研究推進にあたって、文化庁や国立博物館が主催するシンポジウムや記念フォーラムに参加する機会を通じて、地域と博物館連携活動や博物学的研究における博物館活動のあり方について情報を得ることができ、今後の課題解決に向けて引き続き推進していく必要がある。

事業部では、環境学習・交流系の統括として事業推進を行った。今年度は、特に「みんなで学びあう博物館へ」や、交流イベントであるびわ博フェス、子どもエコクラブ発表会の総括推進のほか、新たな連携の仕組みとして「フェスとも」を創設した。種々の交流事業や交流会等を通じて、博物館との連携の仕組みであるはしかけ制度、フィールドレポーター制度などといった連携系事業及び交流サービス系事業とあわせて検討や議論を重ねた上で改善策を講じつつある。特にみんなで学びあう場であるびわ博フェスやエコクラブ交流会等の交流事業を通じて、これまで以上に対話型のニーズ把握といった方法の有効活用を図ることができた。また、様々な連携を重視した環境学習や体験学習等の交流イベント系事業のほか、多様な地域団体などの参画による博物館連携系事業を盛り込んで実施することで、博物館利用者層の拡大につなげた。琵琶湖地域におけるフィールド調査地の方々や地域団体やはしかけの方々との意見交換会などの実施をきっかけに、「みんなで学びあう博物館へ」を進める一助となった。

また、今年度もはしかけの水と暮らし研究会の主担当として調査活動や地域との連携活動の推進のほか、びわ博フェスなどの博物館の交流事業にも貢献した。また、はしかけ「水と暮らし研究会」と地域団体との連携により、交流事業の活性化を継続的に進めることができた。

印刷物

【専門分野の著作】

楊 平 (2024) 利用価値の変化にともなう水環境との関係の再構築. In: 牧野厚史・藤村美穂・川田美紀 (編著), 入門・社会学シリーズ 環境社会学 現代的課題との関わりで, 学文社出版, 東京, pp. 171-189.

【一般向けの著作】

楊 平 (2025) 水文化と暮らし. In: 琵琶湖ハンドブック改訂検討チーム (編), 琵琶湖ハンドブック四訂版, 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課, 大津, pp. 86 - 87.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 楊 平 (2024年4月7日) 地域共生センター公開セミナー, 「〈コモン〉の「自治」をとりもどすー滋賀の里山・高島のくらしから考えるー, 安曇川公民館 (滋賀県高島市), [パネリスト].
- 楊 平 (2024年5月28日) 水資源の利活用と地域課題の改善, 水資源国際会議水文化と社会テーマセッション, オンライン [口頭発表].
- 楊 平 (2024年6月9日) 水環境の利活用と地域共同体保全, 水と暮らし研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 楊 平 (2024年8月28日) 農業研究会, 龍谷大学 (京都市), [口頭発表].
- 楊 平 (2024年9月4日) 生活環境と自然保全関連の研究会, オンライン [口頭発表].
- 楊 平 (2024年11月2日) 生活と生業における「災害」とは, 災害研究報告会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 楊 平 (2024年11月13日) 琵琶湖の水環境政策と実践. International Conference on Water Management (InConTaihu), NangJing 市, [口頭発表].
- 楊 平 (2024年11月14日) 水環境研究の意義と社会への影響, International Conference on Water Management (InConTaihu), NangJing 市, [口頭発表].
- 嘉田由紀子・楊平 (2024年11月15日) 「Management of Water Resources through Community LAKA BIWA」, International Conference on Water Management (InConTaihu), NangJing 市, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「自然資源の利用と管理」, 研究代表者 (2024年度).
- 国際研究「湖沼環境の保全及び実践」(研究総括: 水資源研究センター), 共同研究者 (2024年度).
- 龍谷大学共同研究「環境意識の多様性調査班 (琵琶湖沿岸域) 赤野井湾班」, (2024年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Water Resources Protection, 査読, 5件

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導】

- 2024年1月4日, 滋賀県立大学, 博物館実習, 講師.
- 2024年度博物館実習, 環境学習交流事業について, 琵琶湖博物館 (2024年8月23日).
- 2024年度, 滋賀県立大学4回生, 卒業研究調査の対応 (3回) (卒業論文に関する助言).
- 2024年度, 天理大学4回生, 卒業研究の対応 (4回) (卒論の相談、博物館学).
- 2024年度, 滋賀県立大学4回生, 卒業研究調査の対応 (2回) (卒論の相談、社会学).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 環境学習・交流係事務の総括に関すること.
- 幅広いニーズに応える交流事業の運営・企画・総括.
- 深く学ぶ力に基づく琵琶湖学習支援、学校連携の総括に関すること.
- 質問コーナー及び質問等の対応, 10件.
- 水環境の保全と社会に関する質問への対応, 12件.
- 環境学習・交流事業全体の総括、担当.
- はしかけグループ「水と暮らし研究会」, 担当学芸員.
- 2024年度, 地域連携, はしかけ調査活動の支援, 調査などの対応, 6件.

2024年度、交流イベント系事業への対応、3件。
2024年度、環境学習・交流係事務の総括に関すること。
2024年度、幅広いニーズに応える交流事業の運営・企画・総括。
2024年度、深く学ぶ力に基づく琵琶湖学習支援、学校連携の総括に関すること。
2024年度、環境学習・交流事業全体の総括、担当。
2024年度、情報誌掲載記事、添削。
2024年度地域連携、はしかけ調査活動の支援、調査などの対応、8件。
2024年度質問対応、8件。
2024年5月4日、環境学習イベント、対応。
2024年5月5日、環境学習イベント、展示概説、対応。
2024年5月12日、田んぼ体験イベント、対応。
2024年6月13日、はしかけ調査、地域でのワークショップ、交流会、対応。
2024年7月28日、体験学習、対応。
2024年1月31日、はしかけ調査内容について、対応。
2024年2月3日、子ども環境会議大会、出席。
2024年2月20日、地域連携、近江八幡市環境審議会、対応。
2024年2月27日、地域連携、京都大学アフリカ研究グループ、視察対応。
2024年3月1日、地域連携、霞ヶ浦研究センター、視察、挨拶。
2024年3月17日、環境学習関連事業、対応。
2024年8月22日、びわ博フェス・フェスとも会議、対応。
2024年9月28日、はしかけ調査研究、助言。
2024年10月24日、地域とはしかけグループ研究連携、助言。
2024年11月16日17日、びわ博フェス、企画、推進総括。
2024年11月16日、びわはくフェス発表会「水と暮らし研究」、セミナー室、(はしかけグループ水と暮らし研究会)。
2024年11月17日、びわはくフェス「学芸員と展示室でつながろう」暮らしの知恵、実施。
2024年12月10日、子どもエコクラブ大会、総括、講義。
2025年1月、水と暮らしフィールド調査、草津市、共同による調査の計画および実施。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2024年度、大津市景観計画審議会、審議、対応。
2024年度、近江八幡市環境審議会、審議。
2024年度、博物館協議会参加、対応。
2024年度、環境学習推進協議会、対応。

視察等への対応

2024年5月30日、展示解説、博物館展示関連の意見交換、湖南省環境視察団。
2024年5月31日、展示案内、湖南省環境視察団。
2024年6月1日、地域連携、霞ヶ浦研究センター、視察対応。
2024年7月20日、展示案内、台湾視察団。
2024年8月7日、つくば地域環境視察団、視察対応。
2024年10月18日、天理大学視察団、展示案内、視察対応。

メディアへの協力

2024年11月16日、新聞、テレビ局、びわ博フェスについて、取材対応。
2024年11月17日、新聞、テレビ局、びわ博フェスについて、取材対応。
2024年12月23日、湖南省テレビ局、取材対応。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料受け入れに関する問い合わせ，対応，4件。
社会科学研究室，不具合の修繕，LED化工事，対応。
交流ゾーン，LED化工事，対応。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室，「農村暮らし」の維持管理，点検，清掃等，担当。
2024年度，常設展示C展示室 農村展示，点検，管理。
2024年12月24日，展示室対応。
2024年度，5件，展示室対応。
モーニングレクチャー，講義「水環境の利活用と地域社会の活性化」，2024年度，1回（4日）。
展示交流員と話そう，調査内容についての指導。

【企画調整活動】

2024年4月16日，新任職員研修，対応。
2024年4月18日，新任職員研修，C展示室，概説，対応。
2024年7月25日，博物館協議会，対応。
はしかけおよびフィールドレポーター関連のアンケート調査，対応，2024年度。

【研究部関連事業】

地域連携活動や水環境保全活動に関する助言とサポート，2024年度（4回），琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2024年度，環境学習・交流係，選考，対応。

【館外の活動】

水環境保全活動（高島市）、環境保全活動（近江八幡市），2024年度5回。
草津市こども環境会議実行委員会，委員（2024年度）。
近江八幡市総合計画審議会，委員（2024年度）。
大津市景観審議会，委員（2024年度）。
近江八幡市環境審議会，委員（2024年度）。
滋賀県史編纂環境部会，委員（2023年～）

琵琶湖周辺地域を中心とした原始・古代の人びとの暮らしと、アジア視点でみたおこめ文化を解明するため、つぎの3つのテーマで研究をすすめた。

(1) 土器製作実験と調理実験

守山市教育委員会と滋賀県立陶芸の森の研究者とともに野洲市大篠原で採集した粘土を使い、弥生土器の復元製作実験をした。具体的には、自然粘土を乾燥、粉碎し、篩にかけて砂粒と精製粘土に分けて、砂粒含有比率の異なる4種の胎土を作成した。そのうえで、覆い型野焼き方法で焼成実験をしてデータを収集した。また復元弥生鍋を使った調理実験を5回実施し、使用痕跡の観察データを取得した。

(2) 過去の森と人の相互関係

集落を中心とした景観、生態から森と人の関係を解明することを目的とした、考古学、民俗学、地理学、生態学の共同研究の成果を、『琵琶湖博物館研究調査報告第37号 森と人の関係史——人は森をどう利用してきたのか』としてまとめ、公刊した。本書では、滋賀県の古代と近代の森と人の関係、および「盆地」が共通する滋賀県と奈良県の地域比較を通じて、滋賀県の森と人の関係史の特徴を浮き彫りにした。

(3) 東南アジアのコメ調理調査

伝統的なおこめを中心とした暮らしの構造解明を目的に、インドネシア・ジャワ島西部(西ジャワ州)の山間部において現地調査および聞き取り調査を実施した。自給自足の伝統的な生活様式を維持するスンダ族の共同体であるカセプハンを対象として、次のような調査成果を得た。①二度蒸し法による米蒸し調理の実態把握と工程整理、②家庭内での調理と宮殿での大量調理の比較、③水田漁撈の実態、④米倉での保管方法、⑤臼杵を使用した脱穀の具体的な工程。本調査により取得した各種データは、伝統的な建物(米倉、脱穀・加工小屋)の3Dモデル、伝統的コメ調理方法(二度蒸し法)の観察記録、養魚池での作業の映像記録、木工技術の映像記録と多岐にわたる。

兼務する業務では、情報システムの管理・運用およびwebページ運用を担当した。セキュリティクラウド(SC)の運用業務を日々つとめつつ、今年度の業務として、端末機器の更新とwebページのレイアウト更新を実施、完了した。

印刷物

【専門分野の著作】

杉山紗南・細川真理子・妹尾裕介(2024) 考古資料と3Dモデル—博物館資料としての活用と課題—。淡海文化財論叢第16輯, pp.9-14.

妹尾裕介編著(2024) 森と人の関係史——人は森をどう利用してきたのか。琵琶湖博物館研究調査報告, 37号, p.128.

【一般向けの著作】

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし⑬田んぼと生き物 哺乳類。京都新聞滋賀版, 4月12日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし⑭田んぼと生き物 鳥類。京都新聞滋賀版, 4月26日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし⑮田んぼと生き物 水生生物。京都新聞滋賀版, 5月10日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし⑯田んぼと生き物 植物。京都新聞滋賀版, 5月24日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし⑰なぜ田んぼに水を張るのか?。京都新聞滋賀版, 6月14日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし⑱在来イネの特徴。京都新聞滋賀版, 6月28日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし⑲中干しの効果と歴史。京都新聞滋賀版, 7月12日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし⑳スマート農業と古代農法。京都新聞滋賀版, 7月26日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし㉑滋賀県でみつけた古代農耕具。京都新聞滋賀版, 8月9日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし㉒鍬と鋤の出現と展開。京都新聞滋賀版, 8月23日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし㉓田下駄。京都新聞滋賀版, 9月13日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし㉔工夫と努力の結晶、除草機。京都新聞滋賀版, 9月27日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし㉕わらは生活必需品。京都新聞滋賀版, 10月11日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし㉖弥生土器とわら。京都新聞滋賀版, 10月25日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし㉗わらとおこめづくりの関係。京都新聞滋賀版, 11月8日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし㉘イネからおこめへ。京都新聞滋賀版, 11月22日。

妹尾裕介(2024) おこめと私たち びわ博のまなざし㉙弥生時代の信仰とおこめ。京都新聞滋賀版, 12月13日。

妹尾裕介 (2024) おこめと私たち びわ博のまなざし⑩おこめと伝統行事、祭事. 京都新聞滋賀版, 12月27日.
妹尾裕介 (2025) おこめと私たち びわ博のまなざし⑪おこめと龍神信仰. 京都新聞滋賀版, 1月10日.
妹尾裕介 (2025) おこめと私たち びわ博のまなざし⑫東南アジアの信仰からみたおこめ文化. 京都新聞滋賀版, 1月24日.
妹尾裕介 (2025) おこめと私たち びわ博のまなざし⑬暮らしの中の儀礼. 京都新聞滋賀版, 2月14日.
妹尾裕介 (2025) おこめと私たち びわ博のまなざし⑭弥生時代の暮らしとおこめづくり. 京都新聞滋賀版, 2月28日.
妹尾裕介 (2025) おこめと私たち びわ博のまなざし⑮魚米之郷. 京都新聞滋賀版, 3月14日.
妹尾裕介 (2025) おこめと私たち びわ博のまなざし⑯カセパンとおこめ. 京都新聞滋賀版, 3月28日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

妹尾裕介 (2024年5月26日) 「カマド構造の変化とウルチ米蒸し調理の蒸し時間短縮化」. 日本考古学協会第90回(2024年度)総会, 千葉大学(千葉市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「歴史景観生態学からみた森と人の関係」(研究代表者:妹尾裕介), 研究代表者(2021年度~2023年度).
琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺地域の産出粘土の砂粒および水分量の分析と土器製作実験」, (2024年度).
科学研究費助成事業(基盤B)「和食の成立過程の解明:湯取り法炊飯からウルチ米蒸しへの転換過程」(研究代表者:小林正史), 研究分担者(2022年度~2024年度).
科学研究費助成事業(基盤B)「レバノン南部の都市ティールにおけるアルバスサイトの発掘調査」(研究代表者:前野弘志), 研究分担者(2023年度~2025年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, 12回.
クエリ, 回答, 6件.

他の博物館・機関等の主催行事(地域連携を含む)

2024年8月24日・8月25日・11月10日, 弥生人養成講座「弥生土器づくり」, 下之郷史跡公園(滋賀県守山市), 守山市教育委員会, 講師.
2024年8月28日, 講演「湖底遺跡(水中遺跡)の謎に迫る」, 令和6年度「びわ湖の日」連続講座(立命館大学びわこ・くさつキャンパス), 滋賀県(琵琶湖環境部環境政策課), 講師.
2024年12月8日, 講演「湖底遺跡(水中遺跡)の謎に迫る」, 琵琶湖の水中遺跡発見100年記念講演会(湖北文化ホール), 滋賀県(文化スポーツ部文化財保護課), 講師.

メディアへの協力

NHK 天津放送局, 2024年12月5日, おうみ発630インタビューコーナー「しがばな」, NHK 天津放送局スタジオ, 出演(2024年11月27日収録).
テレビ東京, 2025年1月10日, 所でナンじゃこりゃ!?, 葛籠尾崎湖底遺跡ほか, 出演(2024年12月3日、4日収録).
読売テレビ, 2025年4月1日, かんさい情報ネット ten. 感ドー! ハッピー! おつかれ飯, 琵琶湖博物館, 出演(2025年3月6日収録).
NHK, 2025年5月7日, ザ・バックヤード, 琵琶湖博物館, 出演(2025年3月6日収録).
関西12局ラジオ合同 大阪・関西万博2025 プロジェクト, 2025年4月11日~2026年3月31日, 関西ラジオ12局の街歩き音声ガイド~大阪・関西万博来て、聴いて~, 琵琶湖博物館, 取材対応(2025年3月27日収録).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

情報システムの基盤整備と運用，担当。
ウェブサイトの管理運営，担当。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

考古資料整備，収蔵庫維持管理，担当。
考古資料貸出，2件。
考古収蔵庫特別観覧対応，6件。
DX（デジタル・トランスフォーメーション）事業における3Dコンテンツの制作と公開，担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

B展示室，維持管理，担当。
第24回学芸員のこだわり展示「唐橋遺跡と古銭」（2024年7月30日～10月6日），担当。
モーニングレクチャー，講義「考古展示について」，1回（4日）。

【企画調整活動】

クラウドファンディングリターン，ナイトミュージアム，展示案内，（2024年12月21日、2025年1月18日）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2024年9月11～13日，大韓民国 慶尚北道 尚州市，洛東江生物資源館との協定，MOU担当。
2024年9月18～10月1日，インドネシア・ジャワ島，カセプハンでの考古民族学的調査，科研費。

【館外の活動】

京都大学総合博物館，研究協力者（2015年10月～現在）。
近畿弥生の会，滋賀県世話人（2017年12月～現在）。

2024年度の主要な活動実績は下記のとおりである。

(1) 実践共同体による地域資源の継承に関する調査研究

地域で継承されてきたものごとについて、特定のテーマに関心のある人々が集う活動に着目して調査を進めた。小原かご研究会きつつき、水口細工復興研究会、愛知川びん細工手まり保存会、朽木古屋の六斎念仏踊りについて、現地調査を行った。これらについては、地域資源論と実践共同体論を援用しつつ分析を進め、琵琶湖博物館研究セミナー（2025年3月21日）で「実践共同体による地域資源継承の可能性」として報告した。

コモンズ研究会2024年度大会「過少利用化の牧野の管理と活用」（2024年5月11日～12日）に参加し、阿蘇の草原における野焼き等へのボランティアの参加とその運営方法などについて学んだこと、琵琶湖ハンドブック四訂版に執筆（トピック「集落のつながりの今」）の機会を得たこと、滋賀のふるさとささえ合いプロジェクトに関する情報収集を行ったことは、上述した視点で研究を進める一助となった。

(2) 山村集落の現状に関する調査研究

丹生ダムの建設予定地の旧住民や関係者を対象とし、現在のコミュニティの在り方に関する調査を行った。ダム建設が中止となり、現在、集落跡地に石碑を立てる事業が進行中である。ダム建設予定地と場所とのかかわりをいかに再興できるかについては、さらなる検討が必要である。

他出二世による親の出身地への移住（孫ターン）については、京都で開催された7th Asian Rural Sociology Association International Conferenceにおいて、「Rural immigration to the area of origin by second-generation out-migrants: Case study of a depopulated area in Japan」として報告した。このほかに、孫ターンに関しては、他出二世が親の出身集落でキャンプ場の経営を開始し、0人だった居住者が1人に増えるという事例にであることができた。

(3) 琵琶湖博物館への市民参加に関する調査研究／来館者調査

琵琶湖博物館で行われてきた市民参加について、その制度の在り方を分析した。かかわりに応じた制度と会員登録の仕組みといったメンバーシップのあり方や、各活動における担当学芸員が果たすべき役割について検討できたことは、事業について検討するうえでも役立った。

はしかけ活動に関しては、様々なグループによる多様な活動の状況が十分に把握、整理されていないという課題認識に基づき、調査を開始した。はしかけグループの活動目的の分析、各グループの担当学芸員を対象とした調査票調査に基づき、西川真里奈氏との共同で、研究セミナー（2025年1月17日）にて「滋賀県立琵琶湖博物館はしかけ制度における各グループの運営」として報告した。

企画・広報営業課の他館連携の担当者としては第72回全国博物館大会や美の魅力発信5館ネットワーク職員交流会に参加する機会を得、特に他館におけるボランティア活動のあり方について情報を得ることができた。博物館内で活動する団体等と、博物館とは独立して活動する団体、それぞれと博物館との連携のよりよいあり方に関する検討は、今後の課題である。

企画・広報営業課においては、来館者アンケート調査を担当した。データの経年的な分析が課題と認識し、取り組んだ。また、これまでの来館者アンケート調査は展示観覧に来た一般来館者のみを対象としており、その他の多様な来館者の実態把握ができていないという課題認識に基づき、はしかけ会員、フィールドレポーター会員を対象としたアンケート調査を実施した。様々なかかわり方をする利用者による利用状況の把握と琵琶湖博物館の活動の質的な評価については、引き続き課題として取り組みたい。

(4) 新琵琶湖学セミナーの企画・運営

新琵琶湖学セミナーの担当者として、「みんなで調べる！みんなで伝える！市民科学の最前線！」を計3回企画・実施した。(3)と関連するが、琵琶湖博物館が行ってきたはしかけ制度、フィールドレポーター制度、質問コーナーや観察会といった市民参加についてあらためて検討する機会となった。また、外部講師の講演により、環境DNA調査、ふるさと絵屏風、SNSを利用した調査といったこれまで当館では取り組んでこなかった方法を周知する機会となった。

印刷物

【一般向けの著作】

大久保実香 (2024) 四季の段取り、桶の中の小宇宙. *湖国と文化 (びわ湖芸術文化財団)*, 190 : 60-61.

大久保実香 (2024) 集落のつながりの今. In: 津野洋他 (監修), *琵琶湖ハンドブック四訂版*, 滋賀県, p 114.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

大久保実香 (2023) 縮減社会の共有資源管理. In: 環境社会学会 (編), *環境社会学辞典*, 丸善出版, 東京, p.200.
大久保実香 (2023) 道の駅. In: 環境社会学会 (編), *環境社会学辞典*, 丸善出版, 東京, pp. 314-315.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

Mika Okubo (8th Sep. 2024) Rural immigration to the area of origin by second-generation out-migrants: Case study of a depopulated area in Japan. 7th Asian Rural Sociology Association International Conference (Asian Rural Sociology Association), Ryukoku University, Omiya Campus (Kyoto), [Oral presentation].
大久保実香 (2025年3月21日) 実践共同体による地域資源継承の可能性, 琵琶湖博物館研究セミナー(琵琶湖博物館), 琵琶湖博物館, [口頭発表].
西川真里奈・大久保実香 (2025年1月17日) 滋賀県立琵琶湖博物館はしかけ制度における各グループの運営状況, 琵琶湖博物館研究セミナー(琵琶湖博物館), 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科研費若手研究(B)「他出者・他出二世による山村集落継承の可能性」(研究代表者:大久保実香), 研究代表者(2019年度~2025年度).
琵琶湖博物館専門研究「現代における伝統的知識・技能の継承」, 研究代表者(2024年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

滋賀の食事文化研究会, 副会長, 2023年4月~.
全国トキノキ学ネットワーク, 理事, 2024年6月~.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025年1月28日, 2月24日, 京都大学農学研究科修士課程学生, 博物館活動に関する情報提供等.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2024年5月15日, 6月19日, 7月17日, 9月18日, 10月16日, 11月20日, 12月18日, 2025年1月15日, 2月19日, 3月19日, ちこあそ(ちっちゃな子どもの自然遊び), 生活実験工房, 主担当(イベントの計画および実施), 10件, (はしかけグループちこあそ(代表:池田勝氏)), 中川優氏と共同).
2024年11月16日, びわはくフェスワークショップ「ちこあそ!びわはくフェス特別版」, 生活実験工房, 計画および実施, (はしかけグループちこあそ(代表:池田勝氏)), 中川優氏と共同).
2024年11月17日, びわはくフェス「学芸員と展示室でつながろう」ちょっと昔のおうちを探検!, 実施.
2025年3月22日, フィールドレポータースタッフ(中野敬二氏)との飛び出し坊や制作に関するフィールド調査, 草津市, 共同による調査の計画および実施.
質問コーナー・フロアトーク, 8件.
はしかけ ちこあそ, 担当.
はしかけ 暮らしをつづる会, 担当.

他の博物館・機関等の主催行事 (地域連携を含む)

2024年6月27日, 講演「変わる暮らし・変わる環境」, 人権啓発研修会(吹田市人権啓発協議会吹南地区委員会), 琵琶湖博物館, 実施.

メディアへの協力

2024年11月2日, 11月3日(ウェブ版), 京都新聞「滋賀県の博物館が「飛び出し坊や」の「生態」を真剣調査 よくあるポーズと出現場所は?」, 取材協力, (2024年10月23日).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

環境収蔵庫, 主担当 (温湿度管理, 定期清掃, トラップ調査, 収蔵庫担当者会議への出席等).

環境収蔵庫, 鍵の不具合の修繕, 対応, (2024年7月).

環境収蔵庫, LED化工事, 対応, (2025年1月7日, 2025年2月18日).

資料受け入れに関する問い合わせ, 対応, 3件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室「私たちの暮らし」, 担当 (点検, 清掃等).

C展示室「私たちの暮らし」, 富江家藁小屋の清掃および藁の入れ替え, 実施.

モーニングレクチャー, 講義「富江家の使われ方」1回 (4日).

【企画調整活動】

来館者アンケート調査, 主担当.

来館者アンケート調査, 実施, 2024年8月23~25日および2025年3月21~23日.

はしかけ会員およびフィールドレポーター会員を対象としたアンケート調査, 実施, 2025年3月.

新琵琶湖学セミナー参加者を対象としたアンケート調査, 実施, 2025年1月25日, 2025年2月22日, 2025年3月29日.

職員のための統計講座 (滋賀県総合企画部統計課), 受講. 2024年10月30日, 滋賀県庁.

令和6年度データ分析支援検討会における事業報告・新規事業説明会および個別相談会 (滋賀県総合企画部統計課), 参加. 2025年3月18日, 滋賀県庁.

他館連携, 主担当.

滋賀県博物館協議会 文化庁「令和6年度博物館機能強化推進事 (専門的人材派遣による博物館支援と職員の資質向上に関する調査研究)」集合研修, 運営補助・受講, 2025年2月14日, 2025年2月27日. 琵琶湖博物館.

公益財団法人日本博物館協会 大規模災害にかかる被災博物館等の復興支援募金, 募金箱の設置.

公益財団法人日本博物館協会「博物館総合調査」への情報提供, 2025年3月.

第72回全国博物館大会「文化観光と博物館～文化の魅力を伝えるために博物館ができること～」への参加, 2024年11月27~28日, まつもと市民芸術館主ホール他 (長野県松本市).

美の魅力発信5館ネットワーク職員交流会, 参加, 2024年10月15日, 滋賀県立美術館

文化庁 令和6年度 ミュージアム・パブリックリレーションズ研修, 受講, 2024年12月3日, 2024年12月3日, 2024年12月6日, オンライン.

琵琶湖博物館年報第28号, 編集・製作 (中山法子氏と共同).

琵琶湖博物館業績目録第28号, 編集・製作 (中山法子氏と共同).

出版物の在庫管理, 担当 (中山法子氏と共同)

企画展示「湖底探検Ⅱー水中の草原を追うー」オープニングセレモニー, 運営補助 (2024年7月20日).

琵琶湖博物館累計来館者累計1300万人達成記念セレモニー, 運営補助 (2025年2月12日).

【広報営業活動】

新琵琶湖学セミナーに関する資料提供, 1件.

【研究部関連事業】

新琵琶湖学セミナー「みんなで調べる! みんなで伝える! 市民科学の最前線!」第1回「環境DNAで! ガサガサで! みんなで魚を調べる」, 企画・運営・司会, 2025年1月25日, 琵琶湖博物館.

新琵琶湖学セミナー「みんなで調べる! みんなで伝える! 市民科学の最前線!」第2回「地元の価値を再発見!」, 企画・運営・司会, 2025年2月22日, 琵琶湖博物館.

新琵琶湖学セミナー「みんなで調べる! みんなで伝える! 市民科学の最前線!」第3回「SNSで! 調査票で! みんなで調べるいろいろな方法」, 企画・運営・司会, 2025年3月29日, 琵琶湖博物館.

特別研究員の受け入れ, 1件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2024年4月1日～2024年4月29日，育児休業取得.

2024年度，図書選考委員.

分子遺伝解析を用いて、琵琶湖の魚類の起源、歴史、進化に関する研究を進めている。本年度は、代表者として行っている科研費若手研究「ゲノミクス系統地理情報を基にした淡水魚類の保全戦略マップの作成」などの研究課題に取り組んだ。琵琶湖の魚類の進化史の推定や希少淡水魚の保全遺伝解析を実行し、その内の一部を日本魚類学会年会にて口頭発表を行ったり、共著者として論文発表を行ったりした。論文発表の中には、琵琶湖にも生息するシロヒレタビラの系統地理研究やかつて琵琶湖にも生息していた希少淡水魚イタセンパラのゲノミクスデータに基づく系統地理研究がある。今年度の日本魚類学会では、コイ科の淡水魚で琵琶湖固有種のスゴモロコを含む *Squalidus* 属のゲノミクスデータを用いた進化史の解明について、口頭発表を実施した。また、他にも、京都大学の渡辺勝敏教授をはじめとする多くの共同研究者と共同研究を複数行っている。韓国国立洛東江生物資源館のキム・サンギ研究員とは上記のスゴモロコ類の進化史研究でも共同研究の体制を敷いている。さらに、2024 年度には藤岡康弘特別研究員、川瀬成吾主任学芸員と編集した「琵琶湖の魚類図鑑」が出版された。一方で、2022 年度末に発生したビワコオオナマズ水槽破損事故に伴う水族展示関連の業務が非常に多く、研究事業を中心に進めることが困難な状態でもあった。そのため、代表者として取り組んでいる科研費若手研究は、本来は 2023 年度が最終年であったが、日本学術振興会に研究期間の 1 年間の研究機関延長の申請を行った上で 2024 年度も継続した。

博物館事業に関しては、資料活用係にて、主に資料の利活用、水族飼育管理業務の担当を担った。水族に関しては、2023 年度から引き続いて水族担当の総括を務めることとなった。水族飼育に関わる維持管理（施設・設備の修繕手配、予算管理、水族資料収集、水族展示の運営）といった内容については引き続き担当を努めた。希少淡水魚の保護増殖事業について、全体総括の副担当、担当種の管理・運営を行った。希少淡水魚は、伊藤忠商事との協同研究事業であり、水族展示室前身の琵琶湖文化館時代から 40 年にわたって飼育されてきたアユモドキ、環境省および公益社団法人・日本動物園水族館協会が共同事業として生息域外保全を行っていて、唯一の担当園館だった宮津水族館が閉館したことで当館が担当園館に変わったタンゴスジシマドジョウと、繁殖・保護増殖事業の非常に重要な種と位置付けられている 2 種の主担当に 2023 年度の途中から任命されたため、関係省庁や関係機関との連絡会議への出席、捕獲や移動などの許可申請に忙殺されている。その中で、アユモドキについては 7 年ぶりに繁殖に成功することができた。タンゴスジシマドジョウは繁殖適齢期に達していなかったため繁殖はしなかったが、飼育園館数の拡大などの事業を行った。2024 年度も、それらの通常業務に加えて、2022 年度末に発生したオオナマズ水槽破損事故に伴い閉鎖していた水族展示室の再開を進めた。2024 年 4 月にはトンネル水槽、よみがえれ日本の淡水魚コーナーの一部水槽を再開し、6 月にはよみがえれ日本の淡水魚コーナーの一部、国外外来種水槽、ヴィクトリア湖水槽の展示を再開させた。さらに 3 月末にはふれあい体験室の工事が完了した（4 月中旬に再開予定）。また、水族展示再生事業として、前年度予算からの繰り越しとなったオオナマズ水槽・コアユ水槽の設計が 6 月末に完了し、7 月にその工事入札の準備を行い、8 月に無事落札業者が決まった。年度後半からは、オオナマズ水槽・コアユ水槽工事の対応にあたった。工事に際しては、当初予定では、令和 6 年度末に完了する予定であったが、解体や施工に際して、細心の注意を払うため、調整に時日を要したため、完成が令和 7 年度にずれ込んでいる。

印刷物

【学術論文】

- Ito, G., Koyama, N., Noguchi, R., Tabata, R., Kawase, S., Kitamura, J. I., & Koya, Y. (2024) Phylogeography and genetic population structure of the endangered bitterling *Acheilognathus tabira tabira* Jordan & Thompson, 1914 (Cyprinidae) in western Honshu, Japan, inferred from mitochondrial DNA sequences. *Nature Conservation*, 56:19-36.
- Onuki, K., R. K. Ito, T. Mishina, Y. Hashiguchi, K. Ikeya, K. Uehara, M. Nishio, R. Tabata, S. Mori and K. Watanabe. (2024) Next-generation phylogeography reveals unanticipated population history and climate

and human impacts on the endangered floodplain bitterling (*Acheilognathus longipinnis*). *BMC Ecology and Evolution* 24:141. <https://doi.org/10.1186/s12862-024-02326-y>

渡辺勝敏・杉浦 航・岩田明久・阿部 司・辻 冨月・田畑諒一 (in press) 絶滅危惧種アユモドキの生息地周辺域の魚類相と絶滅地域の生息環境としての潜在適性. *魚類学雑誌*

【一般向けの著作】

田畑諒一 (2024) 日曜日に知る 琵琶湖の魚たち「オウミヨシノボリ」. *産経新聞*, 2024年4月7日.
田畑諒一 (2024) 日曜日に知る 琵琶湖の魚たち「カワヨシノボリ」. *産経新聞*, 2024年10月13日.
田畑諒一 (2025) 日曜日に知る 琵琶湖の魚たち「ニシシマドジョウ」. *産経新聞*, 2025年1月19日.
藤岡康弘・川瀬成吾・田畑諒一 (編) (2024) *琵琶湖の魚類図鑑*. サンライズ出版, 彦根市, 232 pp.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

高田喜光・田畑諒一・渡辺勝敏 (2024年9月7日) クロダハゼにおける遺伝子流動化での河川・止水環境への局所適応. 2024年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学 (福岡市), [口頭発表]. <優秀口頭発表賞受賞>
井戸啓太・大貫溪介・三品達平・田畑諒一・後藤健宏・山本義彦・渡辺勝敏 (2024年9月7日) 生息域外保存集団における遺伝的リスクの実態: 全ゲノム解析による絶滅危惧魚類の種間比較. 2024年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学 (福岡市), [口頭発表].
田畑諒一・高田喜光・井戸啓太・渡辺勝敏・伊藤篤祐・KIM Sang Ki・柿岡諒 (2024年9月8日) 分子遺伝学的解析に基づくスゴモロコ類とデメモロコ類の進化史の推定. 2024年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学 (福岡市), [口頭発表].
渡辺勝敏・田畑諒一・辻冨月・三品達平 (2024年9月8日) ゲノム時代の魚類自然史: “次世代+eDNA” 系統地理と保全ゲノミクス. 2024年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学 (福岡市), [口頭発表].
片山優太・井戸啓太・大貫溪介・田畑諒一・伊藤篤祐・渡辺勝敏 (2024年9月7-8日) 全ゲノム解析から推測された遺伝的攪乱前のヒナモロコの遺伝的多様性. 2024年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学 (福岡市), [ポスター発表].
三内悠吾・高田喜光・中島淳・三品達平・田畑諒一・渡辺勝敏 (2025年3月18日) 縮約ゲノム解析により推定されたシマドジョウ属の交雑の履歴と倍加の起源. 日本生態学会第72回全国大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), [ポスター発表]. <最優秀ポスター発表賞受賞>
Miuchi, Y., Y. Takada, J. Nakajima, T. Mishina, R. Tabata, K. Watanabe (2025年3月15日) Origins of polyploid *Cobitis* loaches via past hybridization inferred from a reduced representation sequencing approach. 第80回魚類自然史研究会, 忠清北道鎮川郡青少年修練院 (韓国), [ポスター発表].
田畑諒一 (2024年11月29日) 躯体水槽アクリルパネル交換工事の報告. 日本動物園水族館協会 第34回動物園水族館設備会議, 名古屋港水族館 (名古屋市), [口頭発表].
田畑諒一・高田喜光・井戸啓太・渡辺勝敏・伊藤篤祐・KIM Sang Ki・柿岡諒 (2024年12月20日) 分子遺伝学的解析に基づくスゴモロコ類とデメモロコ類の進化史の推定. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
今北大介・田畑諒一 (2024年6月26日) 話題提供: 琵琶湖博物館トンネル水槽の展示復旧とプチリニューアル. 日本動物園水族館協会第90回近畿ブロック水族館飼育係研修会, 鳥羽水族館 (三重県鳥羽市), [口頭発表].
杉野潤・長田智生・武富鷹矢・田畑諒一 (2025年1月20日) 飼育員による展示水槽レイアウトの大幅なりニューアル. 日本動物園水族館協会第69回水族館技術者研修会, 京都水族館 (京都市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖産魚類の河川間での遺伝的差異」, (2024年度).

琵琶湖博物館共同研究「日本産希少淡水魚類の自然産卵による繁殖技術確立と生息域外保全のあり方に関する研究」
(研究代表者：金尾滋史), 共同研究者 (2023 年度～2024 年度)
琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者：亀田佳代子), 共同研究者 (2019 年度～2024 年度).
科学研究費助成事業 (若手)「ゲノミクス系統地理情報を基にした淡水魚類の保全戦略マップの作成」(研究代表者：田畑諒一), 代表者 (2021 年度～2024 年度).
科学研究費助成事業 (国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 B))「カタツムリにおける左右二型現象の起源と進化動態」(研究代表者代表：細 将貴), 分担者 (2020 年度～2025 年度).
科学研究費助成事業 (基盤 C)「博物館における分類学の再考と再構—生物多様性保全に向けた保全分類学の挑戦—」(研究代表者：川瀬成吾), 分担者 (2023 年度～2025 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本動物園水族館協会, 近畿ブロック水族館技術者研修会, 座長.
Zoological Science, 論文の査読, 1 件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024 年, 京都大学大学院理学研究科修士課程学生, シマドジョウ類における DNA 分析.
2024 年, 京都大学大学院理学研究科修士課程学生, ウツセミカジカにおける DNA 分析.
2024 年, 京都大学大学院理学研究科修士課程学生, ヒナモロコにおける DNA 分析.
2024 年, 京都大学大学院理学研究科修士課程学生, ミヤコタナゴ・ヨシノボリ類における DNA 分析.
2024 年, 京都大学大学院理学研究科博士課程学生, アユモドキにおける DNA 分析.
2024 年, 京都大学大学院理学研究科博士課程学生, イタセンパラ・ネコギギにおける DNA 分析.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10 件.
クエリの質問対応, 魚類に関する質問への対応, 15 件.
はしかけグループ「うおの会」, 主担当, 特別採捕許可の申請, 館内イベントでの連絡調整.

メディアへの協力

テレビ番組への協力, 出演・コメント提供, 5 件.
新聞への協力, コメント提供, 12 件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集, 担当.
水族設備維持管理, 担当.
水族飼育管理予算, 担当.
水族保護増殖事業, 担当.
魚類標本, 担当.

他の博物館・機関等の活動

京都大学, 魚類液浸資料特別観覧.
東北大学, 水族関係資料特別観覧.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

大人のディスカバリー魚類コーナー，担当.
A 展示室魚類コーナー，担当.
水族展示室展示維持管理，担当.
水族展示室水族展示室再生事業，担当.
モーニングレクチャー，講義「トンネル水槽」，1回（4日）.

【研究部関連事業】

コンプレッサー室維持管理，担当.
韓国洛東江川生物資源館との交流，担当.
バイカル博物館との交流，担当.
調査船維持管理，担当.

館内の人事・館外活動に関すること

【館外の活動】

環境省，淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会（2024年4月～）.
環境省および日本動物園水族館協会，生物多様性保全の推進に関する基本協定（タンゴスジシマドジョウ担当園館）（2024年4月～）
三重県教育委員会，天然記念物ネコギギ保護調査員（2024年9月）.
日本動物園水族館協会，生物多様性委員会魚類作業部会，副類別調整者（2024年1月～）.
日本動物園水族館協会，生物多様性委員会魚類作業部会，種別管理者（ネコギギ）（2019年4月～）.
日本動物園水族館協会，生物多様性委員会魚類作業部会，種別管理者（アユモドキ）（2024年4月～）.
日本動物園水族館協会，生物多様性委員会魚類作業部会，調査主担当（タンゴスジシマドジョウ）（2024年4月～）.
環境省，レッドデータブックリスト検討委員（ホンモロコ，スゴモロコ，ニゴロブナ，ゲンゴロウブナ，イサザ，ビワマス）（2024年9月～）.

琵琶湖および他の湖沼周辺で営まれる人びとの暮らしと、これに関わる物質文化の比較研究を進めている。これと併行して湖沼の環境を利用した水産資源の増殖に関わる人間の行為が、それぞれの湖沼と地域社会に与えた影響を調査している。

資料活用係では民俗資料と図書・文献の収集、整理、活用に関する業務と、収蔵施設の温湿度管理、データベースの管理運営に関する業務を担当した。また令和5年度から始まった「びわはく GIS」のデータ整備とコンテンツ作成を推進した。

【研究活動】

(1) 専門研究「湖沼に関する民俗知の基礎的研究」

令和6年度は人工的に形成された湖沼の研究に着手し、岡山県の児島湖で調査を行った。1959年に建設された堰堤によって淡水化した児島湖は、現在、周辺の地域に農業用水、工業用水を供給する重要な役割を担っているが、干拓地から流れ込む排水の影響で汚染が広がった歴史を持つ。また周辺の農村で淡水魚を利用した郷土料理が現在も伝承されており、滋賀県にもフナズシの材料となるゲンゴロウブナを販売していた。今後はその歴史と流通に関する情報を集め、文章化することを目指す。

(2) 科研費・若手研究「琵琶湖産アユ種苗の流通ネットワークに関する広域民俗誌の試み」

令和6年度は3か年計画で実施する科研費・若手研究の最終年度であり、学会での発表とフィールドワークを行った。フィールドワークは徳島県の水産試験場関係者と養殖業者を対象に実施し、湖産アユの利用と魚病対策に関する聞き取りと資料収集を行った。また湖産アユの放流が行われた歴史を持つ神奈川県河川周辺地域でもフィールドワークを行ったが、今後そのデータを基礎資料とした論文を執筆し令和7年度中に投稿する予定である。

【事業活動】

資料活用係として収蔵環境の温湿度管理に関わる業務に従事し、データベース担当として検索結果一覧画面の表示項目の調整、新規カテゴリーの追加などを行った。専門分野の資料である民俗資料については滋賀県立大学、滋賀県文化財保護課と連携しながら新規資料の収集を進め、図書・文献資料の整備に関するマニュアルの策定も行った。これらの事業と併行して今年度は博物館DX事業の一環である「びわはく GIS」のデータ整備とコンテンツ作成を行い、受託業者や館内スタッフと連携しながら開発を進めた。その成果は現在琵琶湖博物館のホームページで閲覧することができ、さらなるデータの追加と改良を今後行う予定である。

印刷物

【専門分野の著作】

加藤秀雄・塚原伸治 (2024) 五〇年後の民俗学を考える. *日本民俗学*, 318, 33-40.

加藤秀雄 (2024) 書籍紹介 渡部圭一著『読み書きの民俗学』. *民具マンスリー*, 57, 21-22.

加藤秀雄 (2024) 書評・書籍紹介 志村真幸編『南方熊楠の生物曼茶羅一生けとし生けるものへの視線ー』. *熊楠WORKS*, 64, 54-55.

加藤秀雄 (2024) 伝承への倫理. *現代思想*, 52:136-145.

【一般向けの著作】

加藤秀雄 (2024) 集落誌からみえる滋賀. *湖国と文化*, 190, 30-33.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

加藤秀雄 (2024年4月30日) 琵琶湖のアユから考える「科学-人-自然」の関係ー新しい環境民俗学に向けた試論ー. 京都民俗学会 第360回談話会, ウィングス京都(京都市), [口頭発表].

加藤秀雄・山本充孝 (2024年5月14日) 琵琶湖のアユと人の関係をめぐる環境民俗学-ふえる/へる、ふやす/へらすという視点から-. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

加藤秀雄 (2025年3月26日) 動植物の供養と共生ーいきものの死から考える死生観. *むねトーク vol.1*, 浄土宗應典院(大阪市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「湖沼に関する民俗知の基礎的研究」, (2024 年度).
琵琶湖博物館共同研究「滋賀県における民俗学の展開と有形・無形民俗文化財の現状に関する研究」(研究代表者: 亀田佳代子), 研究代表者 (2024 年度~2027 年度).
琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 共同研究者 (2019 年度~2025 年度).
科学研究費助成事業 (若手研究)「琵琶湖産アユ種苗の流通ネットワークに関する広域民俗誌の試み」(研究代表者: 加藤秀雄), 研究代表者 (2022~2024 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

現代民俗学会, 編集委員, 2024 年 5 月~.
日本民具学会, 評議員, 2022 年 9 月~.
現代民俗学, 査読, 1 件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024 年 6 月 15 日, 桃山学院大学, 見学実習.
2024 年 6 月 22 日, 京都文教大学, 博物館資料保存論.
2024 年 7 月 6 日, 京都先端科学大学, フィールドワーク演習.
2024 年 7 月 31 日, 佛教大学, 博物館実習講義.
2024 年 2 月 15 日, 成安造形大学, 琵琶湖の民俗史.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, 12 回.
クエリ, 回答, 7 件.

視察等への対応

2024 年 12 月 5 日, 視察対応, 独立行政法人 国際協力機構, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2025 年 3 月 6 日, NHK, ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪, 取材対応.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗資料整備, 収蔵庫維持管理, 担当.
図書・文献資料の収集整理, 担当
収蔵施設等の温湿度管理, 担当
二酸化炭素燻蒸 (燻蒸庫), 担当, 1 件.
エキヒューム S 燻蒸 (テント・包み込み), 担当, 1 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

トピック展示 (B 展示室館蔵品紹介コーナー), 第 27 回学芸員のこだわり展示「驚き! 琵琶湖で育った真珠」, 2025 年 1 月 25 日~3 月 16 日, 担当.
トピック展示 (B 展示室館蔵品紹介コーナー), 第 28 回学芸員のこだわり展示「民具を作る民具—初公開! 八日市の柄屋用具—」, 2025 年 3 月 18 日~2025 年 5 月 18 日, 担当.
モーニングレクチャー, 展示解説, 1 回(4 日).

【企画調整活動】

2024 年度滋賀県博物館協議会委員, 広報委員.

【研究部関連事業】

研究倫理等の研修に関すること, 担当.

出版物による研究発信 (研究報告書), 担当.

琵琶湖博物館特別研究員 (新海拓郎・辻川智代・増田敬祐), 受入担当.

琵琶湖博物館研究協力員 (市川秀之・大塚活美・米田実), 受入担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

大津市教育委員会, 和邇祭調査員 (2024年5月～).

山中湖村史編纂委員会, 山中湖村史編纂調査員 (2021年4月～).

2024年度の研究活動は、主に下記の2テーマに沿って実施した。

(1) 琵琶湖流入河川および淀川流域における近世・近代河川管理関係資料の研究

主に2024年度琵琶湖博物館総合研究・専門研究、日本学術振興会科学研究費研究課題の一環で、滋賀県立公文書館が収蔵する近世近代の滋賀県域を流れる河川の普請に関する資料について、簿冊類を中心に撮影と分析を進めた。また、琵琶湖博物館共同研究の一環で、草野川（長浜市）、天野川（米原市）流域の踏査・ドローン空中撮影をおこない、館蔵の近代大型河川地図の記載内容の分析と当時の土木施設・土地利用の復原に向けた検討を進めた。なお、天野川流域については、新たに科研費課題の研究協力者として参画し、上流部の米原市域の一地区で地域に残る文書の整理作業に着手した。愛知川流域については、一般財団法人河川情報センターの助成を得て、自然地理学・生態学・地理教育分野などの研究者と共同で、愛知川沿岸に18世紀にさかのぼり得る水制の一種「猿尾」の検出と復原に関する古地図の分析、踏査、地元住民への聞き取りをおこなった。

(2) 近世地図出版の研究

主に日本学術振興会科学研究費の研究課題の一環で、近世大坂における都市図・河川絵図・災害図等の地図出版の社会的状況について、大坂本屋仲間記録の記述などから分析した。今年度は特に、19世紀に水害をきっかけにして実施された浚渫の結果、淀川河口部に造成された天保山に関する地図や名所案内等の出版状況を検討した。

2024年度の博物館事業に関する活動は、分掌にしたがい、主に下記の内容について実施した。

A. 展示係

企画展示・ギャラリー展示に関する外部からの共催依頼対応、企画展示室とアトリウムの利用計画の調整を担当した。また、企画展示室・企画展示準備室の管理を担当し、全館的に進められた館内照明のLED化事業の一環で企画展示室内および同展示ケース内の照明の改修を進め、総務課の担当者と協力して、文化財の展示に適した調光機能のある展示ケースに復旧できた。このほか、次年度開催予定の企画展示の主担当として、展示の実施計画策定、関係諸機関との資料借用・掲載に関する調整、展示解説書・パネルの原稿執筆と編集、デザイナーと共同によるデザイン・レイアウトの検討をおこなった。

B. 歴史資料担当

歴史分野の主担当として、デジタルアーカイブ公開に向けた歴史資料のデジタル画像作成と、これまで作成してきた目録の内容項目の再点検、現物調査の実施に基づく追加入力をおこなった。また、特別収蔵庫管理の主担当、一時保管庫管理の副担当として、日常の収蔵庫の清掃・維持管理作業、塵埃を取り除き清浄を維持しやすい収蔵庫づくりに取り組んだ。2022年度から3年かけて実施してきた近代大型河川地図の修理計画は、2024年度で最終を迎え、無事予定していた全ての資料の修理が完了した。

C. その他研究部業務

研究部の新聞連載（朝日新聞「ビワハツ」）担当として、執筆者・編集担当者との原稿調整・連絡をおこなった。

印刷物

【一般向けの著作】

島本多敬（2024）琵琶湖センス・オブ・ワンダー15「災いと暮らす」歴史を語る石堤。湖国と文化（びわ湖芸術文化財団），189：60-61。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

Ogura, T., Shimamoto, K., Mizuno, T., Yamauchi, H., Katayama, D., and Hattanji, T. (2024年5月28日) Reconstruction of traditional knowledge of flood damage by integrating high-definition topographic data and local knowledge. Japan Geoscience Union Meeting 2024（日本地球惑星科学連合），幕張メッセ（千葉市），[ポスター発表].

水野敏明・島本多敬・小倉拓郎・山内啓之・八反地 剛，濱口貴仁・片山大輔（2024年11月16日）愛知川中流域における河畔林が洪水リスクを利得に変えるメカニズム。日本リスク学会第37回年次大会，静岡県立大学草薙キャンパス（静岡市），[ポスター発表].

島本多敬（2025年3月19日）19世紀中期近江国の「砂留」．日本地理学会2025年春季学術大会，駒澤大学駒沢キャンパス（東京都世田谷区），[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「近世・近代の治水土木施設の維持管理に関する資料論的研究」（2024年度）．
琵琶湖博物館共同研究「ドローンを活用した琵琶湖生態系の季節変動モニタリング—植生・河川・土地利用の時空間変動解析—」（研究代表者：奥田 岬，研究分担者（2024年度））．
琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」（研究代表者：芳賀裕樹，研究分担者（2019～2025年度））．
日本学術振興会科学研究費若手研究「日本近世の河川管理システムにおける絵図の機能の解明」（研究代表者：島本多敬，2021～2025年度）．
日本学術振興会科学研究費若手研究「19世紀街道沿い村落の社会構造に関する基礎的研究」（研究代表者：松浦智博，研究協力者（2024～2026年度））．
一般財団法人河川情報センター研究助成「Eco-DRR デジタルデータベースを利用した水害伝通知の教育普及」（研究代表者：兵庫教育大学・小倉拓郎，共同研究者（2023年10月～2025年10月））．

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年度博物館実習，「展示キャプションを作る」「資料整理実習（歴史分野）」，琵琶湖博物館（8月20・21日）．
2024年9月25日～11月13日，京都芸術大学芸術学部歴史遺産学科，人文地理学Ⅰ（島本多敬担当）．
2024年11月27日～2025年1月22日，京都芸術大学芸術学部歴史遺産学科，人文地理学Ⅱ（島本多敬担当）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，11件．
フロアトーク，10件．
インターネットを通じた質問への対応，1件．

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2024年8月24日，講演「狭山藩が狭山池を支配した時代—池守田中家文書から何がわかるのか？—」，令和6年度歴史文化セミナー簡修館（大阪狭山市教育委員会），大阪府立狭山池博物館（大阪府大阪狭山市），講師．
2024年9月28日，講演「古地図に描かれた近江の村のドボク」，びわ湖の日滋賀県連携公開講座（龍谷大学・滋賀県），龍谷大学大宮キャンパス（京都市），講師．
2025年3月9日，講演「古地図から南比良の景観をさぐる」，令和6年度南比良自主防災会研修会（大津市南比良自治会），南比良公民館（滋賀県大津市），講師．

メディアへの協力

2025年7月発行予定，PHP研究所児童書出版部編『楽しい調べ学習シリーズ 妖怪大探検！（仮題）』（2024年11月29日）．
2025年5月2日，NHK-BS「美の壺」，歴史資料の画像の提供（2025年2月27日）．

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

歴史資料分野，主担当．
特別収蔵庫管理，主担当．
一時保管庫管理，副担当．
歴史資料特別観覧対応，4件．

他の博物館・機関等の活動

滋賀県史編さん委員会（環境・琵琶湖部会），滋賀県史編さんにかかる史資料の調査の受け入れ．

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

アトリウム展示等管理, 主担当

企画展示室・企画展示準備室管理, 主担当.

Web を利用した展示室の情報発信, 主担当.

ディスカバリールーム維持管理, 副担当.

常設展示, B 展示室維持管理, 湖ゾーン担当.

B 展示室館蔵品紹介コーナー, 統括.

トピック展示 (B 展示室館蔵品紹介コーナー), 第 23 回学芸員のこだわり展示「重要文化財・琵琶湖博物館所蔵東寺文書展 室町時代のお手紙の作法—礼紙と封紙—」(2024 年 5 月 21 日～7 月 28 日), 副担当.

トピック展示 (B 展示室館蔵品紹介コーナー), 第 24 回学芸員のこだわり展示「唐橋遺跡と古銭」(2024 年 7 月 30 日～10 月 6 日), 副担当.

トピック展示 (B 展示室館蔵品紹介コーナー), 第 25 回学芸員のこだわり展示「汽船に乗って竹生島へ」(2024 年 10 月 8 日～11 月 24 日), 主担当.

トピック展示 (B 展示室館蔵品紹介コーナー), 第 26 回学芸員のこだわり展示「湖畔のにぎわい—「湊はん志やう 画卷」の世界—」(2024 年 11 月 26 日～2025 年 1 月 19 日), 主担当.

トピック展示 (B 展示室館蔵品紹介コーナー), 第 27 回学芸員のこだわり展示「驚き! 琵琶湖で育った真珠」(2025 年 1 月 25 日～3 月 16 日), 副担当.

ギャラリー展示, 「鉱物・化石展 2024—大地に夢を掘る—」(2024 年 4 月 20 日～6 月 2 日), 歴史系資料の演示の補助.

展示交流員と話そう, 担当展示交流員への, 明治 29 年琵琶湖大洪水に関する資料・情報等紹介.

【企画調整活動】

新任職員研修, B 展示室湖ゾーン・館蔵品紹介コーナーの説明 (2024 年 4 月 18 日).

【研究部関連事業】

朝日新聞連載「ピワハツ」連絡・調整担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

舞鶴市史編さん委員会文化遺産部会 (絵図・地図グループ) 臨時委員 (2025 年 2 月～).

立命館大学歴史都市防災研究所, 客員協力研究員 (2020 年 4 月 1 日～).

古琵琶湖層群をはじめとした、国内における新生代後半の陸生哺乳類化石相を明らかにすること、およびそれらとアフリカ・ユーラシアの化石動物相との関連性について研究を進めている。本年度は下記の研究活動を行った。

・琵琶湖博物館申請専門研究「古琵琶湖層群から産出した哺乳類化石の分類と生物地理の検討」

古琵琶湖層群から産出した食肉目、ウシ科化石の分類学的再検討を行った。従来、古琵琶湖層群から食肉目化石の産出はわずかであり、唯一イヌ科として知られていた臼歯化石が発見されているものの、その詳細な検討が行われていなかった。調査の結果、当該の標本はカワウソ亜科の臼歯であることが明らかになった。その成果は日本古生物学会において公表した。またウシ科化石は、およそ 100 年前の文献および地域研究誌において、その産出が報告されていた。今回、現在の分類学的知見に基づきその種類を検討している。現状、スイギュウに近いことが分かっており、引き続き比較作業を進めている。

・日本のサイ科化石の分類学的再検討および日本への移動時期の検討

国内の陸生哺乳類化石に関する分類および日本への移動時期については、ゾウ類以外ではいまだに検討の余地があるため、そのうちサイ科化石について調査した。その結果、サイ科は鮮新世以降、比較的連続的に化石記録が認められた。それに基づき、ミエゾウとトウヨウゾウの日本への移入時期に、サイ科も同様に日本へ移動した可能性を提案した。この結果は学術雑誌において公表した。また、それより古い時代である中新世堆積物から産出したサイ科の絶滅種 1 属の分類を再調査した結果、当該の属と同定できる化石記録はヨーロッパ・アジア南部およびアフリカに限られ、日本を含め東アジアにおいては認められないことを指摘した。この結果は学術雑誌に公表した。

・東～東南アジアにおける古類人猿およびヒトを取り巻く生態系の解明

科研費研究課題として、タイ・ミャンマーの化石類人猿、およびモンゴルの旧石器時代の人類の生息年代および当時の古息環境を検討するための基礎データとして、それらに随伴する哺乳類化石の基礎データを収集した。動物化石を用いた産出層の年代対比のため、ミャンマーとタイではウマ科、キリン科、サイ科の分類を検討した。このうちタイのサイ科については古生物学会で、ミャンマーのサイ科については学術雑誌でそれぞれ結果を公表した。モンゴルにおいては、大型哺乳類の産出記録が正式に総括されていない現状を鑑み、考古学研究所および古生物学研究所の標本を調査してデータベースを作成中である。

事業活動として、ギャラリー展示「鉱物・化石展 2024 大地に夢を掘る」を開催し、県内外の地域の方が収集した地学資料を展示した。企画・広報営業課として、昨年度に引き続き視察・研修、および共催事業の受入を担当した。また本年度より広報活動の一環で SNS 管理を担当し、博物館活動を宣伝・報告した。そのほか研修担当として、4 月に新任職員研修、および 8 月 19 日～23 日に博物館実習を実施した。資料活用については、館外から依頼のあった地学標本および動物標本の観察および借用に対応した。

印刷物

【学術論文】

- Longuet, M., Handa, N., Zin-Maung- Maung-Thein, Thaug-Htike, Man-Thit-Nyein, Takai, M. (2024) Post-cranial remains of Rhinocerotidae from the Neogene of central Myanmar: morphological descriptions and comparisons with ratios, *Historical Biology*: 1-15.
- Handa, N., Takahashi, K. (2024) A review of the taxonomy, biostratigraphy and paleobiogeography of Plio-Pleistocene rhinoceroses in Japan. *Journal of Asian Earth Science*: 1-15.
- Handa, N., Taru H. (2025) Taxonomic revision of a late Miocene rhinoceros from Japan with an overview of *Brachypotherium* from East Asia. *Historical Biology*: 1-6.

【一般向けの著作】

- 半田直人 (2024) 書評：コーウェン地球生命史 第6版. *哺乳類科学*, 62 (2) : 255-256.
- 半田直人 (2024) 書評：新種発見！見つけて、調べて、名付ける方法. *化石*, 116 : 86.
- 半田直人 (2024) 化石友の会普及講演会「超マニアックジオツアーのご提案 土佐清水ジオパークで生痕化石巡りの旅」開催報告. *化石*, 116 : 87-88.
- 半田直人 (2024) 書評：なぜ大量絶滅が起きるのか 生命を脅かす地球の異変, *化石研究会誌*, 57 (1・2) : 62.
- 半田直人 (2025) 書評：イリオモテヤマネコ 水の島に生きる, *哺乳類科学*, 65 (1) : 83-84.
- 半田直人 (2025) 書評：デジタル恐竜学, *化石*, 117, 48.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 半田直人（2024年5月17日）古琵琶湖層群から見つかった肉食性哺乳類化石の分類学。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，〔口頭発表〕。
- 半田直人，富谷 進（2024年6月23日）古琵琶湖層群上野層から産出した鮮新世食肉目化石（予察），日本古生物学会2024年年会，高知大学(高知市)，〔口頭発表〕。
- 半田直人（2024年9月9日）東南アジアにおける新生代サイ科の変遷，日本哺乳類学会2024年度大会自由集会，兵庫県立大学(神戸市)，〔口頭発表〕。

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館申請専門研究「古琵琶湖層群から産出した哺乳類化石の分類と生物地理の検討」，代表（2024年4月～2025年3月）。
- 科学研究費助成事業（基盤 B）「モンゴルにおける最初期ホモサピエンスの適応的・行動的多様性の形成」（研究代表者：東京都立大学・出徳雅実），分担（2022年度～2025年度）。
- 科学研究費助成事業（国際共同研究加速金（国際共同研究強化 B））「森林減少に伴う脊椎動物高次分類群の多様性共変動パターンの解明」（研究代表者：京都大学・富谷 進），分担（2022年10月～2027年3月）。
- 科学研究費助成事業（基盤 B）「アフリカから東ユーラシアへの類人猿・旧世界ザルの拡散と古環境」（研究代表者：龍谷大学・國松 豊），分担（2024年度～2027年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本古生物学会，化石友の会幹事，2023年6月～2025年6月。
- Historical Biology, Journal of Mammalian Evolution, Royal Society Open Science, Journal of Systematic Paleontology, Paläontologische Zeitschrift, Bollettino della Societa Paleontologica Italiana, Palaeobiodiversity and Palaeoenvironments, 第四紀研究, Abstract of Palaeontological Virtual Congress, 査読, 11件。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2024年6月～9月，京都大学大学院理学研究科，博士学位審査員，副査。
- 2024年4月～5月，岐阜県立加茂高校，理科班，哺乳類化石調査に対する助言。
- 2024年度博物館実習，主担当として運営，および企画・広報営業課担当実習「SNS発信をしよう」・琵琶湖博物館（2024年8月19日～23日）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク，12件。
- はしかけ「ほねほねくらぶ」，担当，25件。
- 2024年11月17日，びわ博フェス，交流会・出席。
- メールによる質問対応，2件。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

- 2024年9月29日，令和6年度景観づくりチャレンジ隊，琵琶湖博物館セミナー室および実習室，行事対応。
- 2024年11月30日，おうみ未来塾17期生「翔んでびわ湖」大人のびわ湖エコスクールプレ体験会！，琵琶湖博物館セミナー室，行事対応。
- 2025年3月16日，令和6年度ラムサールびわっこ大使活動報告会（環境保全再生課），琵琶湖博物館セミナー室，行事対応およびA展示室解説。

視察等への対応

- 2024年7月18日，常設展示の案内，東京都中央区地域活性化対策特別委員会，琵琶湖博物館。
- 2024年8月7日，博物館概要説明，北方領土返還要求運動滋賀県会議，琵琶湖博物館。
- 2024年8月9日，博物館概要説明および常設展示の案内，静岡市議会観光文化経済委員会，琵琶湖博物館。
- 2024年8月28日，博物館概要説明および常設展示の案内，鹿児島県議会環境厚生委員会，琵琶湖博物館。

2024年9月10日、常設展示の案内、琵琶湖保全再生推進協議会幹事会、琵琶湖博物館。
2025年1月28日、博物館概要説明およびC展示室案内、JICA 国別研修（バングラデシュ）、琵琶湖博物館。
2025年1月28日、博物館概要説明、中国浙江省「淡水生態と生物技術国家重点実験室・寧波実験室」、琵琶湖博物館。
2025年2月13日、A展示室説明、千代田区教育委員会、琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2024年12月12日、中日新聞滋賀版「学びやに眠るシガゾウ化石」、滋賀県大津市で見つかったシガゾウ化石の取材対応、(2024年12月5日取材)。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

公式YouTube びわこのちからチャンネル、出演、1件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

地学標本の整備および収蔵庫の維持管理に関すること、主担当。
3Dコンテンツの制作と公開に関すること、副担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

A展示室、維持・管理。

モーニングレクチャー、講義「ギャラリー展示の解説」、1回(4日)。

展示交流員と話そう、アケボノゾウの解説

ギャラリー展示「鉱物・化石展 2024 大地に夢を掘る」(2024年4月20日(土)～6月2日(日)、湖国もぐらの会)、主担当。

【企画調整活動】

研修・実習等に関すること、主担当。

視察・研修・地域連携の受け入れに関すること、主担当。

企業連携事業に関すること、副担当。

その他国内の博物館等の協議会・連携に関すること、副担当。

新任職員研修、主担当と行事運営と調整・琵琶湖博物館(2024年4月16日)。

博物館来館者通算1300万人記念セレモニー、会場準備(2025年2月12日)。

令和6年度博物館来館者50万人記念セレモニー、会場準備(2025年3月16日)。

【広報営業活動】

取材対応・記事校正等に関すること、副担当。

資料提供・プレスリリースに関すること、副担当。

YouTube 動画制作、SNS等による情報発信に関すること、主担当。

SNS情報の管理に関すること、副担当。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員(高橋啓一名誉館長)、受入担当。

研究倫理等の研修に関すること、副担当。

出版物による研究発信(研究調査報告書)、副担当。

国内の研究機関との連携に関すること(京都大学野生動物研究センター)、副担当。

安全管理(放射線装置の取扱)、副担当。

館内の人事・館外活動に関すること

【海外渡航】

2025年1月31日～2月6日，モンゴル・ウランバートル，科学研究費助成事業（基盤B）「モンゴルにおける最初期ホモサピエンスの適応的・行動的多様性の形成」に関わる哺乳類化石の標本調査.

2025年2月16日～3月3日，タイ・ナコンラチャシマ市およびミャンマー・ヤンゴン市，科学研究費助成事業（基盤B）「アフリカから東ユーラシアへの類人猿・旧世界ザルの拡散と古環境」および科学研究費助成事業（国際共同研究加速金（国際共同研究強化B））「森林減少に伴う脊椎動物高次分類群の多様性共変動パターンの解明」に関わる哺乳類化石の標本調査.

今年もデジタルミュージアム推進事業など事業部および研究部の所轄事業と、学会関連のさまざまな業務に翻弄され、落ち着いて自分の研究を進められる状況にはなかった。しかしここでは、こうした内容については紙面の都合上割愛し、学術の進歩・発展に寄与したか、あるいは将来的に寄与すると私が考える業績に絞って記述する。

日本の珪藻の外来種について、辻彰洋氏らと以下のようにまとめた。近年、これまで日本から報告がなかった珪藻種の発見が相次いでいる。こうした種にはたまたま発見されていなかったものも含まれるが、多くは外来種の疑いが強いと言える。そこで私たちは日本の淡水域に近年になって侵入したと考えられる珪藻を紹介するとともに、考えられる侵入経路について考察した。さらに、近年になって外来種の確認が急増している理由について考察した。その成果を雑誌「月刊海洋」の記事として2024年9月に公表し、さらに内容をブラッシュアップして2025年3月の日本プランクトン学会春季シンポジウムでも話題提供した。

琵琶湖の植物プランクトンの変遷、特にアオコ発生について、根来健氏・辻彰洋氏らと共に、次のようにまとめた。富栄養化防止条例に基づく水質対策の結果、南湖では全リン濃度は1990年代から、全窒素濃度も2000年代から明らかに下がってきた。ところが琵琶湖南湖におけるアオコの発生は、発生水域数や発生日数ではむしろ増加傾向にある。琵琶湖でアオコが初めて発生した1983年当時の主要構成種は *Dolichospermum hangangense* だったことが、最近明らかになった。優占種は1985年頃から *D. affine* に代わり、1987年以降には *Microcystis* 属が優占するようになった。琵琶湖南湖で沈水植物が増加した1990年代末から、大型の群体をつくり浮上力の強い *Oscillatoria kawamurae* や *Aphanizomenon flos-aquae* がアオコをつくるようになった。2010年代以降、再び *Dolichospermum* 属が多くなり、*D. flos-aquae*, "*D. minisporum*" など新顔の種が加わっている。富栄養化の抑制に成功してもHABがかえって悪化するメカニズムとして「リンの遺産仮説」「EPS 大量分泌種優占仮説」「外来種のニッチ機会増大仮説」の3つの仮説を提起した。この内容を元に、一瀬諭氏と石川可奈子氏を共著者に加えて、雑誌「月刊海洋」に記事を執筆中である(2025年3月末現在)。

琵琶湖で冬期に優占する直径3-5 μmの超小型円盤型珪藻の分類学的検討を、根来健氏、辻彰洋氏、後藤敏一氏らと進めた。本種は例年、冬期に10⁴ cells/mLオーダーで大発生しているが、ほとんど認識されていない。本種は *Discostella nana* (Hustedt) T. P. Chang の組み替え論文で示された電子顕微鏡写真と形態がよく一致する。しかし *D. nana* の基礎異名の原記載と原図、およびタイプ標本の顕微鏡写真と比較したところ、別の種であることが明らかになった。本種はこれまでに *Discostella* として記載された16種とも、最近Schultz et al. (2024) が示した未記載の15 OTUとも形態的に一致しない。そこで新種記載論文の準備を始めているが、今のところ単離培養ができていないため、記載論文の執筆に至っていない。また、浄水場でろ過漏出障害の原因になる本種の定量法を根来健氏とともに検討したが、今のところ上水の現場で簡易に実行しうる検査方法を提示できていない。

他にも共著者として、フィリピン Marikina 川の *Pinnularia* 属珪藻、琵琶湖における外来種チリモ *Micrasterias hardyi* に寄生するツボカビの不在、アケボノゾウ化石が産出した環境の化石珪藻群集に基づく古環境復元、阿山層と甲賀層から産出した *Praestephanos* 属珪藻(琵琶湖固有種スズキケイソウの祖先種である可能性が高い)の新種記載、東京日本橋産ナウマンゾウ化石に付着していた泥に含まれる化石珪藻群集に基づく古環境復元の研究を行って投稿したが、いずれも年度内の受理には至らなかった。また、やはり共著者として、滋賀県立大学の環濠の珪藻植生、田沢湖沿岸部の珪藻植生、外来種珪藻 *Sellaphora constricta* の出現について論文執筆を進めた。ただしそれ以前から進める予定だった、はしかげさんなどとの共同研究が軒並み後回しにされて滞っている。

学会等の運営では、日本珪藻学会会長と日本分類学会連合の副代表を務めつつ、5つの研究会およびシンポジウムの企画運営に関わった。

研究成果に基づいた一般向けの書籍として、プランクトンに関するものと田んぼの生きものに関するものの2冊を、共著者および編著者として出版した。プランクトンに関する書籍をもう一冊出版する予定だったが、年度内に間に合わず、2025年5月発行予定である。

「田んぼの生きもの全種データベース」で木本裕也氏と共同で100種以上の写真を追加した。また、滋賀県の生きもの図鑑の作成・公開を川瀬成吾、中村久美子らと進め、滋賀県で見られる魚類114種、哺乳類53種、両生類25種の全種を掲載した電子図鑑を公開した。

印刷物

【学術論文】

Ohtsuki, T., Ohtsuka, T., Kameda, K. O. (2024) Developing the digital museum using various images and geographic information systems. *Biodiversity Information Science and Standards*, 8: e135710. doi: 10.3897/biss.8.135710.

【専門分野の著作】

大塚泰介・根来 健 (2024) 琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究. (公財) 令和 5 年度水質保全研究助成報告書, 琵琶湖・淀川水質保全機構, 10 pp. (published online), http://www.byq.or.jp/josei/r05/accomplishment_report/1-3_report_ohtsuka.pdf

大塚泰介・辻 彰洋 (2024) 外来珪藻はなぜ次々と見つかるようになったか? (特集 河川の異変—外来種ミズワタクチビルケイソウの問題と最新知見—). *月刊海洋*, 56(10): 675-685.

大塚泰介・根来 健 (2024) 2) プランクトンの変動. 懇話会ニュース. *Nippon Suisan Gakkaishi*, 91(2): 138.

根来 健・大塚泰介 (2025) 滋賀県安曇川中流域で増殖を始めた外来性ミズワタクチビルケイソウ. *陸水研究*, 12(1): 52-53.

【一般向けの著作】

大塚泰介 (2024) 植物プランクトンの盛衰① ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより. *朝日新聞滋賀版*, 4月7日.

大塚泰介 (2024) 植物プランクトンの盛衰② ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより. *朝日新聞滋賀版*, 4月21日.

大塚泰介 (2024) 植物プランクトンの盛衰③ ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより. *朝日新聞滋賀版*, 5月5日.

大塚泰介 (2024) 植物プランクトンの盛衰④ ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより. *朝日新聞滋賀版*, 5月19日.

石上三雄・一瀬諭・大塚泰介 (2024) *びわ湖のプランクトン フォト&ムービー*. 214 pp. 文理閣.

関慎太郎 (写真)・大塚泰介 (編著) (2024) *日本のいきものビジュアルガイド はっけん! 田んぼのいきもの*. 緑書房, 東京都, 160 pp.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

畑中 顕・吉山浩平・根来 健・大塚泰介 (2024年6月22日) 基質の粗さが付着珪藻群集に及ぼす影響, 日本珪藻学会第45回大会, 酪農学園大学 (北海道江別市), [口頭発表].

木本裕也・大塚泰介 (2024年6月23日) 深層学習を用いた珪藻分類の試み, 日本珪藻学会第45回大会, 酪農学園大学 (北海道江別市), [口頭発表].

大塚泰介 (2024年8月16日) 琵琶湖のアオコ40年史, 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

Ohtsuki, T., Ohtsuka, T. & Kameda, K. O. (2024年9月3-5日) Developing the digital museum using various images and geographic information systems. SPNHC & TDWG Joint Conference, Okinawa convention center, [ポスター発表].

大塚泰介・前迫ゆり (2024年9月16日) 関西自然保護機構フィールドシンポジウム「自然共生サイト滋賀県山門湿原の保全活動と課題」, 山門湿原+西浅井運動広場体育館 (滋賀県長浜市), [企画運営].

今井一郎・児玉真史・酒井明久・大塚泰介 (2024年9月27日) 令和6年度日本水産学会秋期大会水産環境保全委員会企画研究会「琵琶湖における環境変動と漁業生産の変化: 瀬戸内海と比較して考える」, 京都大学 (京都市), [企画運営].

大塚泰介・根来 健 (2024年9月27日) プランクトンの変動. 令和6年度日本水産学会秋期大会水産環境保全委員会企画研究会「琵琶湖における環境変動と漁業生産の変化: 瀬戸内海と比較して考える」, 京都大学 (京都市), [口頭発表].

畑中 顕・吉山浩平・根来 健・大塚泰介 (2024年10月19日) 基質表面の粗さが付着珪藻群集動態に与える影響, 日本陸水学会第88回大会, 熊本大学 (熊本市), [口頭発表].

- 畑中 顕・井上聖花・吉山浩平・大塚泰介 (2024 年 10 月 19 日) 滋賀県立大学内の水路における付着珪藻相. 日本珪藻学会第 43 回研究集会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].
- 福留真樹・大塚泰介 (2024 年 10 月 19 日) 九州における *Sellaphora constricta* の出現について. 日本珪藻学会第 43 回研究集会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].
- 大塚泰介 (2024 年 10 月 20 日) 日本珪藻学会第 43 回研究集会公開シンポジウム「珪藻が出ない!」, 琵琶湖博物館, [企画運営].
- 一瀬 諭・根来 健・大塚泰介・辻 彰洋 (2024 年 11 月 3 日) 琵琶湖南部・瀬田川に突然出現した *Coronia echeneis* (Ehrenberg ex Kützing) Ehrenberg について, 日本水処理生物学会第 60 回大会, 姫路市市民会館 (兵庫県), [口頭発表].
- 根来 健・大塚泰介 (2024 年 11 月 3 日) 琵琶湖で再増殖し始めた直鎖型 *Aulacoseira ambigua*. 日本水処理生物学会第 60 回大会, 姫路市市民会館 (兵庫県), [口頭発表].
- 大塚泰介 (2024 年 11 月 28 日) 顕微鏡による写真撮影のポイント-珪藻の同定に使える写真を撮るには?- , 日本水処理生物学会第 39 回水処理生物基礎講座, 琵琶湖博物館, [講演].
- 大塚泰介 (2024 年 11 月 28 日) インターネットを活用した淡水付着珪藻の同定, 日本水処理生物学会第 39 回水処理生物基礎講座, 琵琶湖博物館, [講演].
- 大塚泰介・金尾滋史・鈴木隆仁・川瀬成吾 (2024 年 12 月 15 日) 企画運営. 第 15 回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館+オンライン, [企画運営].
- 大塚泰介・辻 彰洋 (2024 年 12 月 15 日) 草津市の水田に出現したアオミソウ “フシマダラ”, 第 15 回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館+オンライン, [ポスター発表].
- 根来 健・大塚泰介 (2025 年 3 月 8 日) 滋賀県安曇川中流域で増殖を始めた外来性ミズワタクチビルケイソウ. 日本陸水学会近畿支部会第 36 回研究発表会, 京都大学 (京都市), [口頭発表].
- 大塚泰介・根来 健 (2025 年 3 月 14 日) 琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究, 令和 6 年度水質保全研究助成成果報告会, (公財) 琵琶湖・淀川水質保全機構, 大阪府立男女共同参画・青少年センター (大阪市), [口頭発表].
- 松岡数充・石井健一郎・大塚泰介 (2025 年 3 月 15 日, 16 日) 2025 年日本プランクトン学会春季シンポジウム「珪藻研究の最前線」, 東京海洋大学 (東京都港区) + オンライン, [企画運営].
- 大塚泰介 (2025 年 3 月 16 日) 珪藻の固有種と外来種—外来種の増加は人新世の現象か? —. 2025 年日本プランクトン学会春季シンポジウム「珪藻研究の最前線」, 東京海洋大学 (東京都港区) + オンライン, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖盆から近年新たに出現した珪藻の分類学的研究」, (2024 年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖のプランクトン電子図鑑の構築」(研究代表者: 大塚泰介), 研究代表者 (2021 年度~2024 年度).
- (公財) 琵琶湖・淀川水質保全機構 水質保全研究助成「琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究」(研究代表者: 大塚泰介), 研究代表者 (2022 年度~2024 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本珪藻学会, 会長, 2023 年 1 月~.
- 日本分類学会連合, 副代表, 2024 年 1 月~.
- 関西自然保護機構, 運営委員, 2014 年 1 月~.
- 淡海生物研究会, 淡海生物, 編集委員, 2019 年 4 月~.
- Magnolia Press, Phytotaxa, 査読, 1 件.
- 日本珪藻学会, Diatom, 査読, 1 件 (前年度からの継続).
- Elsevier, Polar Science, 査読, 1 件.
- なごや生物多様性センター, なごやの生物多様性, 査読, 1 件.
- 大阪市立自然史博物館, Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, 査読, 1 件.
- International Society for Diatom Research, Diatom Research, 査読, 1 件 (年度末で査読途中).
- 淡海生物研究会, 淡海生物, 担当編集委員, 1 件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年9月19日，環境微生物学，京都府立大学，講師（藤田裕子・石川可奈子と共同）.
2022年10月～2025年3月，滋賀県立大学大学院環境科学研究科院生，研究指導・助言.
2025年3月，兵庫県立大学大学院環境人間学研究科院生，研究助言.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，11件.

インターネットを通じた質問への対応，4件.

はしかけグループ「たんさいぼうの会」，担当，随時.

はしかけグループ「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」，担当，随時（鈴木隆仁と共同）.

はしかけグループ「琵琶湖梁山泊」，担当代理，随時.

2024年8月21日，2024年度博物館実習，資料活用（収蔵庫見学／振り返り），講師.

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2024年5月10日，講義「琵琶湖における淡水赤潮とアオコ発生の歴史」，摂南大学農学部応用生物科学科，摂南大学農学部（大阪府枚方市），講師.

2024年7月18日，実習「プランクトン実習」，滋賀県立彦根東高校GS，琵琶湖博物館，講師（鈴木隆仁と共同）.

2024年7月21日，講義・実習「有明海のケイソウたちー有明海の基礎生産をささえるケイソウー」，鹿島市／佐賀大学，鹿島市干潟交流館「なな海」（佐賀県鹿島市），講師.

2024年8月3日，講義「ハッタミミズと私ーハッタミミズは変なやつー」ハッタミミズ調査隊（NPO法人河北潟湖沼研究所），琵琶湖博物館，講師および挑戦状受領.

2024年11月3日，実習「琵琶湖のプランクトン検鏡観察」，自然大学（NPO法人自然と緑），琵琶湖博物館，講師，（鈴木隆仁と共同）.

2025年2月9日・28日，国見の森公園で採集された珪藻の顕微鏡動画および写真の提供（2月8日観察会中止の代替措置），宍粟市教育委員会，撮影と編集.

メディアへの協力

2024年9月15日，NHK「ニュース（関西）：琵琶湖博物館でびわ湖の微生物の観察会 草津」，出演およびコメント，（2024年9月15日）.

NHK 大津「しが生き物図鑑」，企画協力（川瀬成吾，鈴木隆仁と共同）.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

田んぼの生きもの全種データベース，管理者，随時増補更新.

デジタルミュージアム推進事業，ポータルサイト作成（主担当）.

デジタルミュージアム推進事業，滋賀の生きもの図鑑，両生類（主担当）.

デジタルミュージアム推進事業，滋賀の生きもの図鑑，哺乳類（主担当）.

デジタルミュージアム推進事業，滋賀の生きもの図鑑，プランクトン（主担当）.

デジタルミュージアム推進事業，田んぼの生き物全種リスト（主担当）.

デジタルミュージアム推進事業，希少文献デジタル化（主担当）.

デジタルミュージアム推進事業，研究遺産デジタル化（主担当；川瀬成吾，大槻達郎と共同）.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

収蔵庫環境維持管理（主担当）.

映像資料整備業務（主担当：小山勝と共同）.

映像資料の貸出・特別観覧対応（32件）.

微小生物資料の収集，整理・監督・指示.

ナゴヤダルマガエル，採集・飼育.

ハッタミミズ，採集・飼育.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室「田んぼへ」、維持管理（主担当）.
マイクロアクアリウム、維持管理（副担当）.
研究最前線，更新1回，2024年4月.
モーニングレクチャー，講義「マイクロアクアリウム」，1回（4日）.

他博物館・機関の活動

サケのふるさと千歳水族館，水中観察ゾーン「掃除しない窓の藻類」，パネル更新.

【企画調整活動】

新任職員研修，博物館資料の整備，収蔵庫・研究施設見学（2024年4月16日）.
新任職員研修，C展示室「田んぼへ」コーナー解説（2024年4月18日）.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員（柏尾珠紀、廣石伸互、今井一郎、根来 健），受入担当.
琵琶湖地域の水田生物研究会，主催（主担当→副担当：金尾滋史・鈴木隆仁・川瀬成吾と共同）.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

島根大学汽水域研究センター，協力研究員（2001年4月～）.
琵琶湖とつながる生きもの田んぼ物語推進協議会，委員（2016年8月～）.

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、世界の中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

研究面では、外部研究資金である文部科学省の科学研究費補助金(科研費)を獲得した。これで研究代表者としての採択は通算6回目となる。今回採択された研究課題は「希少な塩性湿地の水生双翅目昆虫の種多様性の解明と生態系保全に向けた環境指標種化」である。今年度の野外調査は4月から9月にかけて滋賀県内、九州、小笠原、東北、北海道の河口干潟を含む水辺などで野外調査を行った。これらの地域に固有な種(未記載を含む)を多数採集できた。この他、日本各地で多数の水生双翅類標本が収集され、現在、標本作製を行っている。京都市で開催された第27回国際昆虫学会議において「First discovery in Japan of a dolichopodid fly of the genus *Hypocharassus*, a genus with a disjunct distribution in East Asia and eastern North America.」というタイトルでポスター発表を行った。今回の国際会議では、現地組織委員の一員として、昆虫の写真コンテストの企画・運営を担当した。このコンテストは、昆虫の魅力を広く伝えることを目的とした、研究者だけでなく一般市民も参加できるアウトリーチ活動である。昆虫写真の第一人者である海野和男氏に審査をお願いした。24カ国から397点もの応募があった。入選作品はクリアファイルに印刷して会議参加者に配布し、会議場にも写真パネルを展示した。国際会議にお越しになった秋篠宮ご夫妻と悠仁様にも作品をご案内した。国際会議の後には、会議に参加していたスウェーデンの研究者グループを富士山での野外調査に案内し、一週間ほど共同調査を実施した。

事業面では、クラウドファンディング第2弾の進行管理を行った。第1弾に比べて目標金額も高く、2年目ということもあり、困難が予想される中での挑戦であった。そのため、寄附支援者の返礼としての体験型リターンを多数用意した。また、応援メッセージについても当館や滋賀県にゆかりがある方達に依頼した。

新たな試みとして、おごと温泉観光協会及び(株) 李兵衛造船所と連携し、家族旅行者を主な対象とした、県内周遊の新たなメニューとして、また、夏休み期間の学びの場として博物館を利用のため、湖上交通を活用した体験型の観光・環境学習連携事業を夏季限定で実施した。全6回のクルーズであり、この際の館内概要説明を全て担当した。利用者からは好評であり、来年度から定期便としての琵琶湖博物館と雄琴港、新たに大津港との航路も開設されることになった。この他にも、C展示室のこれからの琵琶湖の研究タジラムを第9期に更新した。

印刷物

【学術論文】

Masunaga, K. & Amano, H.E. (2024) First discovery in Japan of a dolichopodid fly of the genus *Hypocharassus*, a genus with a disjunct distribution in East Asia and eastern North America. *XXVII International Congress of Entomology*, Abstract Book. 2417-2418.

【一般向けの著作】

榊永一宏 (2024) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 水辺の昆虫の多様性と自然再興① 大繁栄に適した日本の環境. 朝日新聞滋賀版, 2024年9月7日.

榊永一宏 (2024) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 水辺の昆虫の多様性と自然再興② 「世界中に分布」新たに発見. 朝日新聞滋賀版, 2024年9月21日.

榊永一宏 (2024) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 水辺の昆虫の多様性と自然再興③ 国際会議で深まる研究と交流. 朝日新聞滋賀版, 2024年10月5日.

榊永一宏 (2024) ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより 水辺の昆虫の多様性と自然再興④ 生き物研究 環境保全貢献へ. 朝日新聞滋賀版, 2024年10月19日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

Masunaga, K. & Amano, H. (2024年8月28日) First discovery in Japan of a dolichopodid fly of the genus *Hypocharassus*, a genus with a disjunct distribution in East Asia and eastern North America. XXVII International Congress of Entomology, 京都市, [ポスター発表].

柗永一宏(2025年2月21日), 日本国内におけるアシナガバエ科 *Hypocharassus* 属の新たな生息地探索, 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究」, (2024年度).

科研費基盤研究(C)「希少な塩性湿地の水生双翅目昆虫の種多様性の解明と生態系保全に向けた環境指標種化」(研究代表者: 柗永一宏), 研究代表者(2022年度~2024年度).

【学会等の役職・運営, 論文の査読など】

International Congresses of Dipterology, Members of the Council, (2014年8月~).

XXVII International Congress of Entomology, Photo Competition 担当, (2022年10月~).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, 琵琶湖博物館, 12件.

2024年11月17日, びわはくフェス「学芸員と展示室でつながろう」昆虫の色と形の不思議, 実施.
はしかけ 淡海スケッチの会, 担当.

他の博物館・機関等主催行事(地域連携を含む)

2024年6月1日, ホタルの生態について, 環境講座「ホタル観察学習会」, 栗東市教育委員会生涯学習課, コミュニティセンター金勝(滋賀県栗東市), 講師.

2024年6月7日, ホタルの生態について, 環境講座「ホタル観察学習会」, 栗東市教育委員会生涯学習課, コミュニティセンター葉山(滋賀県栗東市), 講師.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース維持管理.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

液浸収蔵庫維持管理, 主担当.

日本産の昆虫の収集・整理(液浸, 乾燥とも), 500件.

クエリの質問対応, 昆虫に関する質問への回答.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2024年度, C展示室「これからの琵琶湖」コーナーの展示更新と維持管理.

2024年度, E展示室「おとなのディスカバリー」の維持管理.

2024年度, 研究最前線更新, 1回.

モーニングレクチャー, 1回(4日).

【企画調整活動】

新任職員研修, 博物館が目指すものと広報, 講師, 2024年4月15日, 琵琶湖博物館.

新任職員研修, C展示室これからの琵琶湖, 講師, 2024年4月17日, 琵琶湖博物館.

新任職員研修, おとなのディスカバリー, 講師, 2024年4月17日, 琵琶湖博物館.

博物館実習, 企画・広報営業課の業務について, 講師, 2024年8月22日, 琵琶湖博物館.

湖上交通 雄琴クルーズ 館の概要説明 2024年7月28日、8月4日、11日、12日、18日、25日, 琵琶湖博物館
セミナー室).

2024年7月25日 おとなのディスカバリーの視察対応, 独立行政法人国立科学博物館 科学系博物館イノベーション
センター 展示開発・博物館連携グループ 展示開発担当 新井亮平, おとなのディスカバリー.

2024年7月30日 博物館の視察対応, 草津市観光物産協会, 各展示室.

クラウドファンディング第2弾, 進行管理.

クラウドファンディング第2弾リターン, ナイトミュージアム全体総括, E展示室の案内, (2024年12月21日、
2025年1月18日).

クラウドファンディング第1弾 トンネル水槽内覧会 司会, (2024年4月21日, 琵琶湖博物館アトリウム).

地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所との連携協定締結式, 司会, (2024年10月8日, 琵琶湖博物
館セミナー室).

感謝状贈呈式, 司会, (2024年11月6日, 2025年3月6日, 琵琶湖博物館).

琵琶湖博物館第32回企画展示「湖底探検 II -水中の草原を追う-」オープニングセレモニー, 司会 (2024年7月20
日, 琵琶湖博物館アトリウム).

琵琶湖博物館累計来館者累計1300万人達成記念セレモニー, 主担当、司会 (2025年2月12日, 琵琶湖博物館アト
リウム).

琵琶湖博物館令和6年度来館者50万人達成記念セレモニー, 主担当、司会 (2025年3月16日, 琵琶湖博物館アト
リウム).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2024年度, 生物多様性しが戦略推進会議連絡員.

【館外の活動】

滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会, 専門委員(2003年4月～).

鹿児島昆虫相調査会, 専門委員(2022年11月～).

今年度は、琵琶湖生態系に属する甲虫の生態学的研究と、希少種の生育する保護地域の植生変遷の解析を進めた。甲虫に関しては、湖岸の甲虫相に関する季節の種構成・個体数の変動を明らかにし、論文をして出版された。また、希少植物の生育する保護区における植物の種組成を明らかにし、そこに生息する甲虫が希少種の種子発芽に関与していることを飼育実験で明らかにした。これらは専門分野の著作として出版された。事業部では、主に資料活用係の係長として、IPM (Integrated Pest Management: 総合的病害虫管理) の更新や収蔵庫環境の改善、災害時の避難マニュアルの更新や係員の職能向上に努めた。また、一昨年から推進しているDX事業の全体調整・管理を遂行し、今年度はデータベースに格納したデジタル資料のホームページ公開を推進した。さらに、DX事業の情報発信として、SPNHC & TDWG Joint Conference に参加し、ポスター発表するとともに、DX事業について Biodiversity Information Science and Standards に投稿した。これらの活動が功を奏し、来年度から新しい3Dモデリング手法を進めることができる可能性が出てきた。以下に今年進めてきた研究・事業について簡潔に記す。

生態学的研究

「同所的に分布する近縁スジコガネ属2種の個体群動態」【申請専門研究】

本研究では、県内の甲虫2種の個体群動態を解明することで、温暖化にともなう「種の置換」を検証し、置換に関与する生物間相互作用を推定することを目的とした。今年度は昨年度の予備調査の時とは異なり、対象種が採集できなかった。特に、幼虫は昨年見つけた数の10分の1だった。そのため、仮説検証型の本研究はほとんどできなかった。しかし、滋賀県におけるスジコガネ属2種の分布は凡そ知ることができた。また、幼虫に寄生するハチを観察することはできなかったが、幼虫から成虫まで飼育することができるようになった。

「ドローンを活用した琵琶湖生態系モニタリング」【共同研究】

これまでに希少種の保全地区やその周辺の植生調査をしてきたが、希少種の植生面積の変遷については不明であった。今回2021-2024年の保全地区の航空写真を用いて植生面積の変遷を明らかにした。除草作業をすることで、植生面積が増加し、希少植物の密度が高くなることが判明した。それらを植物分類学会でポスター発表した。

進化史研究

「植物の遺伝情報を用いた伊吹山の織田信長の幻の薬草園伝説の検証」(研究者代表: 玉木 一郎)

本研究は、織田信長が宣教師に命じて伊吹山に持ち込んだとされる植物の来歴について、DNAの分子解析から明らかにしようというものである。今年度はイブキカモジグサという植物に焦点を当て、薬草園伝説の検証を試みたが、本種は薬草園伝説を裏付ける植物とは言えないことが明らかとなった。

【事業部】

資料活用係の統括

今年度は、収蔵庫のLED照明やトラックヤードシャッターを更新し、収蔵庫環境の安定化を推進した。また、燻蒸ガス「エキヒューム」の代替ガス燻蒸ができるよう到来年度へ向けて準備をし、IPMの更新を進めた。

DX事業の統括

今年度は、デジタルミュージアム事業とWeb-GIS事業の進捗管理と本事業のロードマップの更新を行った。両事業ともに11月にホームページに公開できただけでなく、様々な分野のデジタル資料を公開できた。また、ユーザーフレンドリーな表示への更新や簡便な検索システムを導入することで、多くのユーザーに活用してもらえようように工夫をした。

植物収蔵庫担当

データベースに登録されているコケ植物のパケット標本(日本語版・英語版)をホームページに公開した。

はしかけ担当

今年度もはしかけの緑のくすり箱の主担当として活動を補助するだけでなく、おとなのディスカバリーの植物セクションへの展示など、博物館の展示交流にも貢献した。また、はしかけ「海浜植物まもりたい」の主担当として新海浜の保全活動に邁進した。今年度は植生と土壌環境の定期的モニタリングを行い、絶滅危惧種の植生面積拡大を継続的に進めることができた。

印刷物

【学術論文】

Tatsuo Ohtsuki, Taisuke Ohtsuka, Kayoko O. Kameda (2024) Developing the Digital Museum Using Various Images and Geographic Information Systems. *Biodiversity Information Science and Standards*, 8: e135710. doi: 10.3897/biss.8.135710.

八尋克郎, 武田滋, 大槻達郎 (2024) 佐波江浜における地表徘徊性甲虫の種類組成と季節消長. *日本生物地理学会会報*, 79 巻: 1-8.

【専門分野の著作】

大槻達郎 (2024) 琵琶湖岸における希少種の生息・生育地保護区で見られる植物の種組成について. *滋賀県植物研究会会報*, 特別号 第 17 号: 28-30.

大槻達郎 (2024) 琵琶湖に生育する海浜植物の来歴を探る. *いしかわ自然史*, 92 号: 5.

大槻達郎 (2025) 陸封された海浜植物の種子発芽に関与するヒメカクスナゴミムシダマシについて. *昆虫と自然*, ニューサイエンス社, vol.60 No.1(通巻 800 号) 33-35.

【一般向けの著作】

大槻達郎 (2024) ビワハツ 滋賀県の希少種と保全「1」-種の多様性を維持 景観守る. *朝日新聞滋賀版*, 2024 年 6 月 2 日.

大槻達郎 (2024) ビワハツ 滋賀県の希少種と保全「2」地域一体となって、域外でも希少種を守る-. *朝日新聞滋賀版*, 2024 年 6 月 16 日.

大槻達郎 (2024) ビワハツ 滋賀県の希少種と保全「3」変貌する伊吹山で「発見」された在来種. *朝日新聞滋賀版*, 2024 年 6 月 30 日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

Tatsuo Ohtsuki, Taisuke Ohtsuka, Kayoko O. Kameda (2024 年 9 月 3-5 日) Developing the Digital Museum Using Various Images and Geographic Information Systems. SPNHC & TDWG Joint Conference, Okinawa convention center (Ginowan, Okinawa), [Virtual poster].

野崎 元葉, 森田 詞奈, 山本 憲司, 野間 直彦, 永益 英敏, 首藤 光太郎, 大槻 達郎, 原田 英美子 (2024 年 9 月 16 日) 伊吹山に自生する希少植物イブキカモジグサ及び類縁植物の系統分類. 日本植物学会第 88 回大会, 宇都宮大学陽東キャンパス(栃木県宇都宮市), [口頭発表].

大槻達郎 (2024 年 10 月 18 日) 琵琶湖岸の希少生物保護区周辺で生じた攪乱にともなう動植物の種構成の変化. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

大槻達郎 (2024 年 11 月 22 日) 遺伝構造から考える生物保全. -分子解析から生物の分散様式を推定する-琵琶湖博物館研究環境史ゼミ, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

亀田佳代子・加藤秀雄・大槻達郎(2025 年 2 月 13 日)地理情報システム(GIS)を用いた生物分布マップ「びわはく GIS」による鳥類分布情報の蓄積と活用. 全国科学博物館協議会第 32 回研究発表大会, 兵庫県立人と自然の博物館(兵庫県三田市), [口頭発表].

大槻達郎・奥田岬・濱口貴仁・美濃部諭子 (2025 年 3 月 7 日) 小型 UAV 空中写真を用いた希少植物の植生面積の経年変化. 第 24 回日本植物分類学会大会 (JSPS24), 高知県立牧野植物園 (高知市), [ポスター発表].

大槻達郎・西田謙二 (2025 年 3 月 17 日) 琵琶湖岸の希少生物保護区周辺へ侵入する外来種の動態. 第 72 回日本生態学会大会 (ESJ72), オンライン, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「同所的に分布する近縁スジコガネ属 2 種の個体群動態 -気候変動と生物間相互作用に注目して-」, (2024 年度).

琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 研究分担者 (2019 年度~2024 年度).

科学研究費助成事業(基盤 C)「植物の遺伝情報を用いた伊吹山の織田信長の幻の薬草園伝説の検証」(研究者代表: 玉木 一郎), 研究分担者, (2022 年-2024 年度).

公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団・国内研究助成「標本×遺伝×形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守る―琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に―」（研究者代表：川瀬成吾，研究分担者，（2023年-2024年））。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

滋賀県植物研究会，庶務，2019年12月1日～。
日本植物分類学会，NL 幹事，2023年1月1日～。
Genes & Genetic Systems(日本遺伝学会)の査読，1件

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年4月17日，滋賀県立大学4回生，卒業研究の対応（卒業論文に関する助言）。
2024年8月20，21，23，26日，滋賀県立大学4回生，卒業研究の対応（分子遺伝実験）。
2024年10月11，16，18日，滋賀県立大学4回生，卒業研究の対応（卒論の相談、分子遺伝実験）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，12回。
クエリ，回答，7件。
はしかけ運営「緑のくすり箱」・「海浜植物守りたい」，担当，
はしかけ運営「森人」・「植物観察の会」，副担当。
はしかけグループ「海浜植物守りたい」，希少種の保全方法の助言，6件。
はしかけグループ「植物観察の会」，植物に寄生する昆虫の観察と飼育の助言，4件。
2024年5月14日，季節の植物でアロマウォーターを作ろう，琵琶湖博物館，運営，（はしかけ緑のくすり箱共同）副担当。
2024年11月12日，季節の植物でアロマウォーターを作ろう，琵琶湖博物館，運営（はしかけ緑のくすり箱共同），副担当。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2024年6月22日，「地域博物館のDA関連の活動例 ― 琵琶博の取り組み」，第43回S-Net研究会，オンライン，講師。
2024年6月30日，「伊吹山と草花」～美しい伊吹山を一緒に取り戻そう！～シンポジウム，（公財）伊吹山麓スポーツ文化振興事業団，米原市伊吹薬草の里文化センター，コーディネーター。
2024年11月9日，講義「佐波江浜の植物多様性」，海浜植物「ハマゴウ」の保全，（独）水資源機構・琵琶湖開発総合管理所・佐波江地区自治会，佐波江公民館（滋賀県近江八幡市），講師。
2024年12月5日，講義「Aiming to become a museum that can utilize a variety of materials」，国立民族学博物館，琵琶湖博物館，講師。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

DXのウェブコンテンツの管理運営，2024年度。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

デジタルミュージアム関連システムの基盤整備，2024年度。
植物標本整備，収蔵庫維持管理，担当。
植物収蔵庫清掃，10回。
大掃除（C展示室），実施。
防虫トラップ調査，2回。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室，いきものコレクション「植物分野」の維持管理，主担当。

C展示室、川から森への維持管理，主担当。

おとなのディスカバリー展示入れ替え，植物細密画4件，植物写真パネル9件，植物写真（モニター）4，ハンズオン4件，季節の植物2件，植物交流棚2件。

ディスカバリールーム「におってみよう・さわってみよう」，副担当。

おとなのディスカバリー「植物分野」，主担当。

モーニングレクチャー，講義「琵琶湖岸の生態系を維持する植物-昆虫の生物間相互作用」，1回（4日）。

【研究部関連事業】

油日湿原の植物保全活動に関する助言と技術的サポート，2023年4月27日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2024年度，図書委員。

2024年度，地方衛生委員会，委員。

【館外の活動】

滋賀県ヨシ群落保全審議会，委員（2021年12月1日～）。

高島市環境審議会，委員（2024年6月1日～）。

塩野義製薬株式会社油日植物園（甲賀市）の希少植物の域外保全活動に関する助言，（2024年4月28日）。

滋賀県ヨシ群落保全審議会，（2024年10月30日）。

佐波江浜（近江八幡市）の保全活動，（2024年11月9日）。

今年は 8 つの主要な研究プロジェクトに取り組んだ。1. 中国の同僚とともに、中国産の白亜紀のカイミジンコについての論文を執筆し、出版した。2. 中国の同僚とともに、中国産の現生淡水カイミジンコについての論文を執筆し、出版した。3. ルクセンブルクとベルギーの同僚とともに、非海洋性カイミジンコのチェックリストを執筆し、出版した。4. カイミジンコの肢の発達に関するレビューを執筆し、出版した。5. アメリカとイギリスの同僚とともに、カイミジンコのデータを古生態学データベースにアップロードする作業に取り組んだ。6. ヨーロッパの同僚とともに、淡水動物のデータベースに取り組んだ。7. 分類学ジャーナル *Zootaxa* のカイミジンコ編集者を引き続き務めてきた。8. 滋賀県産のカイミジンコについても研究してきた。

印刷物

【学術論文】

- Smith, R. J. (2025) Development and morphology of podocopan ostracod limbs (Crustacea) – A review. *Arthropod Structure & Development*, 85: 101402. <https://doi.org/10.1016/j.asd.2024.101402>
- Zhai, D., Smith, R. J. & Zhang, D. (2025) The first report of the non-marine ostracod genus *Cavernocypris* Hartmann, 1964 (Crustacea, Ostracoda) from China, with a description of a new species. *Zoosystematics and Evolution*, 101 (1): 301-315.
<https://doi.org/10.3897/zse.101.141525>
- Wang, Y., Choi, B-D., Smith, R. J. & Wu, D. (2025) Application of Ostracoda from the Lower Cretaceous Liupanshan group at Pingliang (NW China) – Biostratigraphy and palaeoecology. *Cretaceous Research*, 168, 106079.
<https://doi.org/10.1016/j.cretres.2025.106079>
- Meisch, C., Smith, R. J. & Martens, K. (2024) An updated subjective global checklist of the extant non-marine Ostracoda (Crustacea). *European Journal of Taxonomy*, 974: 1-144.
<https://doi.org/10.5852/ejt.2024.974.2767>

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 小沢広和・Robin James Smith・西田澄子・中井静子 (2025年1月24日) マンションのベランダのスイレン栽培水槽における現生淡水生貝形虫類の外来種と古生物学的意義. 日本古生物学会 2025年第174回例会 (オンライン大会), [ポスター発表].
- スミス ロビン, (2024年12月20日) 分類データの使いやすさを改善する – カイミジンコ (甲殻類) の例. 研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- Zootaxa* の編集者, 通年.
査読, 10件.
琵琶湖博物館学芸員の書いた英文 (論文等) の英文添削, 数件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，12 件.

視察等への対応

2024 年 07 月 07 日，講義，研修員.

2024 年 08 月 04 日，見学案内，マレーシア政府関係者.

2024 年 12 月 04 日，見学案内，研修員.

2025 年 01 月 15 日，見学案内，研修員.

2025 年 01 月 28 日，見学案内，中国人教授.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

英語版ホームページの情報更新，多数.

SNS (Facebook, Instagram, Twitter)投稿，75本.

YouTube動画の英語字幕，6本.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

マイクロアクアリウムの展示コーナー，管理.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義「カイミジンコについて マイクロアクアリウムの展示」，1回(4日).

研究活動としては、(1)多自然川づくりに関する検討、および(2)河川環境保全をテーマに研究を進めた。

(1) 近年、大雨及び短時間降雨の発生頻度が増加しており、中小河川での洪水氾濫が頻発しているため、河川整備や浚渫等の事前防災対策が加速的に進められている。一方で、生態系への配慮が不十分な工事現場が散見される。本来、川には瀬や淵があり草の生えた土手の水際があり、物理的にも多様な環境が自然に形成されているが、河川整備や浚渫等により河川地形や河床が単調化してしまった場合、自然の営力のみによって、瀬淵や水際を形成するには長い年月を要する。しかし、水制工という比較的簡単な河川工法により、瀬淵の形成を促すことは可能である。水制工は、水制工付近の流下速度に変化が生じさせる。水制工の根本付近は流下速度が遅くなり、先端付近は流下速度が速くなる。この速度の変化が生じることにより、根本付近では土砂が堆積し、先端付近では土砂が侵食される。これにより単調化してしまった河川でも、比較的短い時間で瀬淵を形成させ、河床環境の多様化をもたらす生物の多様性・生物量の増加が期待できる。そこで、水制工の中でも、河川に対し上向きに水制工を設置する工法（バープ工）に着目し、河川環境再生による効果について、河川の流れ・河床変動シミュレーション iRIC (International River Interface Cooperative) ソフトウェアによる二次元河床変動水理計算 (Nays2DH) を用いて可視化し考察した。実河川において浚渫工事により単調化してしまった河川に対し、ドローンを用いて地形測量を行い、河床変動シミュレーションを行った。更にシミュレーションと実際の現場との誤差を検証するため、浚渫工事後にバープ工を設置し、モニタリング調査を行った。その結果、想定した降雨量と実際の降雨量が異なるため、完全に一致という結果ではなかったが、おおそ近い堆積や侵食傾向が見られた。他の河川でもシミュレーションによる想定と工事後のモニタリング調査により検証を行っていき、河川の自然再生事例を増やしていく。

(2) 琵琶湖のアユの産卵環境・生息環境は、好適な礫径・藻類種繁茂が必要であることが言われている。琵琶湖に流入する河川では、河川横断構造物や様々な要因による流況変化等に伴う土砂移動の阻害により、森—川—湖における土砂のつながりが損なわれ、河床の粗粒化や固化等を生じ、これに伴う魚類等の生息・産卵環境への悪影響が懸念されている。そこで、過年度の検討成果から、土砂移動が阻害され、土砂が動きにくくなった愛知川中流域の砂州において、出水という自然の営力によって砂州の河床下層に堆積した細粒土砂を下流に供給し、砂州を適切な粒度分布とするため、河床の表層と下層を混合する河床耕耘（うん）の試験施工を過年度に行い、その効果の把握のためのモニタリング調査を実施した。また、愛知川上流で深刻な問題となっている河床洗掘を改善するため、置き土の検討を行った。置き土とは永源寺ダムによりせき止められた土砂を掘削し、ダムの下流へ運搬・設置させたものを、洪水によるフラッシュで下流へ流下させることである。ダムの管理者は毎年、ダム内に堆積する土砂の処理に困っており、置き土により下流へ土砂を流下させたいと考えていた。しかし、河川管理者としては、大雨の際に河道内の河積が減少し洪水の恐れがあると考え、置き土に対し否定的であった。また、滋賀県では初めての試みであり、根拠もない状態で許可が下りず、ダム管理者による置き土工事は実施できない状態であった。そこで、上記の河川シミュレーションソフト (iRIC) を用いて、置き土による河川の影響を算出し、河川管理者に提示することで、合意形成を図ることができた。現在、ダムの下流に置き土を実施したところである。今後は、タイムラプスカメラやドローンを用いてモニタリング調査を行い、置き土による効果等を検証していく予定である。

事業活動では、常設展示維持管理業務委託を監督した。また、屋外展示維持管理業務委託を監督し、樹木剪定、伐木、除草等を行った。事前調整や安全管理等を適切に行い、無事に完了することができた。さらに、C 展示室「琵琶湖の川と森を守る人々」コーナーの展示更新を行った。具体的には、今年度の淡海の川づくりフォーラム受賞者のポスター更新を行った。

印刷物

【一般向けの著作】

濱口貴仁 (2024) ～市民との協同によって一級河川家棟川にビワマスに戻すプロジェクトについて～. *川の情報誌* さらさ, 126 号夏号, 近畿地方整備局, pp. 5-6.

濱口貴仁 (2024) ～家棟川ではじめての魚とり体験～. *川の情報誌さらさ*, 128号冬号, 近畿地方整備局, pp. 9-10.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

濱口貴仁 (2024年9月20日) グリーンインフラの推進に向けた河川流域が有する多様な機能の把握とその保全再生に関する研究. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

濱口貴仁 (2024年12月1日) はじめての魚の居場所づくり. 淡海の川づくりフォーラム, 米原市役所(滋賀県), [口頭発表].

橋本康平・濱口貴仁 (2024年12月20日) 発注業務のオートメーション化の検証. 土木技術研究発表会(東京都新宿区, オンライン), [口頭発表].

濱口貴仁 (2025年1月28日) 滋賀県における河川環境整備における事例紹介, JICA, [口頭発表].

大槻達郎・奥田岬・濱口貴仁・美濃部諭子 (2025年3月10日) 小型UAV空中写真を用いた希少植物の植生面積の経年変化. 第24回日本植物分類学会大会 (JSPS24), 高知大学 (高知市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「多自然川づくりに関する検討, グリーンインフラの推進に向けた河川流域が有する多様な機能の把握とその保全再生に関する研究」, (2024年度).

琵琶湖博物館専門研究「忘却の彼方にある水害の痕跡・伝統知の再構築-流域治水時代の学習材の開発に向けて」, (2024年度).

琵琶湖環境研究推進機構「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究」 流域環境研究「グリーンインフラの推進に向けた河川流域が有する多様な機能の把握とその保全再生に関する研究」, (研究代表者: 琵琶湖環境科学研究センター水野敏明), 研究分担者, 2024年度).

博物館事業に関する事業

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 6件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示維持管理委託, 主担当.

屋外展示維持管理委託, 主担当.

第33回企画展示, 副担当

モーニングレクチャー, 講義「滋賀県の河川」, 1回 (3日).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2024年度, 滋賀県土木交通部流域政策局河川・港湾室河川環境係, 主査を兼務.

魚類の多くは小さな卵を大量に産み、その後の保育はしないか限定的であるため、個体群における死亡の大部分が、卵から仔稚魚期までの生活史初期に起こる。このような魚種では、生活史初期の死亡の度合いが、その後の個体数の増減を左右すると考えられており、魚類の保全を行う上で、生活史初期の知見は非常に重要となる。そのため、2022 年度より琵琶湖固有のコイ科魚類であるホンモロコを題材として、耳石を用いた日齢解析により生活史初期の資源加入状況の推定を実施するとともに、より精度の高い解析手法の確立を目指している。上記の種は琵琶湖漁業における重要な漁獲対象種であるとともに、近代化に伴って資源量を大きく減少させている魚種でもある。事業においては、展示係として展示活動に係る予算管理およびディスカバリールームの維持管理に従事した。また、資料活用の担当として水族展示室に係る業務に従事した。

【研究】

ホンモロコをモデルとした琵琶湖の水位変化が仔魚加入に与える影響の解明

河川や湖沼の沿岸域は淡水魚の主要な産卵育成場であり、同水域の環境改変は淡水魚の初期生残に大きな影響を与えると考えられている。しかしコイ科魚類では、評価手法の不足から、その影響を定量的に評価した事例は少ない。本研究では、コイ科魚類のホンモロコについて、耳石と呼ばれる硬組織に形成される日周性のある輪紋を用いた日齢解析によってその影響を評価し、本種の保護管理策に科学的根拠を提供することを目的とする。本研究の成果および他魚種への応用により、どのような河川環境が仔魚の加入に有効であるか、仔魚の加入に有効な産卵時期はいつまでか、水位の管理手法を変更することでその時期を延長することが可能かといった問題に対する解を得ることができる。2024 年度は、2020 年および 2024 年度に採取した稚魚を用いて日齢解析を実施し、孵化日組成を推定した。推定結果と各年の産卵量の推移および琵琶湖水位の推移を比較検討することにより、5 月後半に発生する琵琶湖の水位低下が初期減耗に一定の影響を与えていることが示唆された。一方で、産卵期後半由来の稚魚は、後半の調査日において出現しなくなり、捕食圧の上昇や餌環境の変化といった、孵化後の減耗に影響を与えるとされる要因についても初期減耗に影響を与えている可能性が示された。

【事業】

展示係の業務として 2024 年度はディスカバリールームの維持管理に従事し、展示物 2 点（どんぐり造形物および壁紙展示）を更新した。水族展示の担当としては共同で水族展示の維持管理に従事し、特に水族資料管理に係る法令手続を担当した。また 2023 年に発生した大型水槽の破損に係る業務に従事し、特にふれあい水槽のリニューアルに尽力した。

印刷物

【一般向けの著作】

- 米田一紀 (2024) スナヤツメ (北方種・南方種) ゲンゴロウブナ タウナギ. In: 藤岡康弘・川瀬成吾・田畑諒一 (編), *琵琶湖の魚類図鑑*, サンライズ出版, 彦根, pp. 32, 40-41, 174.
- 米田一紀 (2024) 日曜日に知る琵琶湖の魚たち 溪流の女王ヤマメ. 産経新聞滋賀県版, 2024 年 5 月 12 日.
- 米田一紀 (2024) 日曜日に知る琵琶湖の魚たち 除草に利用されたソウギョ. 産経新聞滋賀県版, 2024 年 8 月 4 日.
- 米田一紀 (2024) 日曜日に知る琵琶湖の魚たち ナイルティラピアはタイの味?. 産経新聞滋賀県版, 2024 年 12 月 15 日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 米田一紀 (2024 年 8 月 23 日) ホンモロコをモデルとした琵琶湖の水位変化が仔魚加入に与える影響の解明. 令和 6 年度河川基金研究成果発表会, TKP ガーデンシティ PREMIUM 京橋 (東京都中央区), [ポスター発表].
- 米田一紀・亀甲武志 (2024 年 9 月 8 日) 琵琶湖南湖赤野井湾におけるホンモロコの孵化日組成の推定. 2024 年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学 (福岡市), [口頭発表].
- 米田一紀 (2024 年 9 月 12 日) 琵琶湖のコイ科魚類における初期減耗要因解明のための基礎研究. 韓国国立洛東江生物資源館共同セミナー, 韓国国立洛東江生物資源館, [口頭発表].

香田万里・寺井章人・片岡佳孝・根本守仁・石崎大介・米田一紀・甲斐嘉晃・亀甲武志（2024年9月26日）西の湖におけるホンモロコの産卵時期と稚魚の孵化日組成の関係。令和6年度公益社団法人日本水産学会秋季大会，京都大学吉田キャンパス（京都市），[口頭発表]。

米田一紀（2025年1月17日）琵琶湖の水位変化がホンモロコの仔魚加入に与える影響（経過報告）。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

米田一紀・片岡佳孝・亀甲武志（2025年3月29日）琵琶湖南湖におけるホンモロコの初期加入動態 - 耳石解析を用いた孵化日組成の推定 -。令和7年度公益社団法人日本水産学会春季大会，北里大学相模原キャンパス（相模原市），[口頭発表]。

米田一紀（2024年11月26日）ホンモロコをモデルとした琵琶湖の水位変化が仔魚加入に与える影響の解明。公益財団法人河川財団研究発表会（近畿事務所）「河川基金助成事業成果及び財団研究成果」，OMMビル（大阪市），[口頭発表・招待講演]。

【研究プロジェクト等への参加】

宝ホールディングス株式会社・タカラハーモニストファンド助成事業「琵琶湖の人為的水位低下がホンモロコ卵の生残に与える影響の解明」，研究代表者（2024年度～2025年度）。

琵琶湖博物館共同研究「日本産ニゴイ類の比較形態学的研究」，共同研究者（2022年度～2024年度）。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年8月6日，近畿大学，「水産増殖学実習」，講義。

2024年8月27日，近畿大学，「水産生物学実習」，講義。

2024年8月29日，龍谷大学，「びわ湖・滋賀学」（自然と暮らしの歴史（1）琵琶湖の漁業のいまと環境政策），講義。

2024年8月31日，龍谷大学，「びわ湖・滋賀学」（水族展示室見学），講義。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，11回

queryを通じた質問への回答，3件。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2024年8月21日，地域連携「琵琶湖のあらましと魚類の現状」，吉野郡科学教育研究会，琵琶湖博物館，講師。

2024年12月12-13日，地域連携「探求事業」，雲雀丘学園中学校，雲雀丘学園高等学校，講師。

2025年1月25日，地域連携「琵琶湖の魚と田んぼとの関係」，西日本アグロエコロジー協会，高島市観光物産プラザ，講師。

2025年3月25日，地域連携「もう6ヶ 琵琶湖への愛を込めてモロコ!と叫ぼう」，エコノボイス滋賀，草津市市民交流プラザ，講師。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

魚類等疾病管理と水質維持，主担当。

水族資料管理に係る法令・条例等の手続き，主担当，34件。

水族展示室ふれあい体験室ふれあい水槽更新，主担当。

GISデータの整備とコンテンツ作成，副担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示活動に係る予算管理，主担当。

ディスカバリールーム維持管理，主担当。

モーニングレクチャー，ディスカバリールームについて，1回（4日）。

モーニングレクチャー，魚類耳石の解説，1回（4日）。

魚のゆりかご水田模型修繕。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

産経新聞「日曜日に知る琵琶湖の魚たち」掲載記事，添削.

琵琶湖とその集水域における微小生物、主に動物に関して、その生態や分布に関する研究を行っている。本年度においては、大阪大学の待兼山の生物相調査に協力し、豊中キャンパス内3か所の池に関して、そこから得られる微小生物相の調査を実施した。

専門研究では「琵琶湖および周辺水域におけるイタチムシ相を探る」というタイトルで研究を行った。

共同研究では「琵琶湖のプランクトン電子図鑑の構築」の副代表者として、琵琶湖集水域における微小生物の電子図鑑の作成の補助、および、琵琶湖博物館ウェブページ上での微小生物に関するコラム「ミクロの世界へ」と京都新聞で連載した「ミクロの世界から」の書籍化の準備を行った。

さらに共同研究「池干し前後の水質・底質・食物網解析による適切なため池管理に関する研究」では、きゅうどう研究者として、琵琶湖博物館屋外展示にある生態観察池の中干し前後における微小生物相の調査を実施した。

博物館業務ではマイクロアクアリウムの運営を行った。季節に応じた展示生物の変更、および夏季のマミズクラゲ展示のほか、飼育状態のノロの展示を行った。昨年度に引き続き、マミズクラゲを採集している池での発生がほとんど見られず、当館で発生した個体の展示にとどまった。館内でのマミズクラゲの発生が徐々にできるようになってきており、飼育員の協力の元、本来マミズクラゲを見ることができない冬季におけるマミズクラゲ展示を行うことができた。

研究用薬品管理の資格として、危険物乙4種の講習を受講した。

広報業務としては広報担当として、テレビ取材、番組制作協力、新聞取材、雑誌取材、記事作成における写真提供などを行った。

資料提供担当としては、館内で実施されるイベント、視察、学芸員の講演、研究発表など、博物館の活動を幅広く伝えた。本業務では、SNS副担当として、主担当と共に、一部の記事のSNSへの投稿も行った。

本年度はYouTubeを利用し、博物館の利用方法を広く紹介するという方針があり、YouTube動画作成副担当として、業務委託先のベクトルと共に多くの動画を制作、出演した。特にチャンネル登録者数、各動画の再生数は飛躍的に伸びた。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

鈴木隆仁 (2024年10月20日) 琵琶湖周辺の水域におけるイタチムシ類の分布. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

鈴木隆仁 (2024年12月15日) 第15回琵琶湖地域の水田生物研究会. 琵琶湖博物館, ハイブリッド開催, [運営補助], (大塚泰介・金尾滋史と共同).

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖および周辺水域におけるイタチムシ相を探る」, (2024年度).

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖のプランクトン電子図鑑の構築」(研究代表者: 大塚泰介), 研究副代表者 (2021年度~2024年度).

琵琶湖博物館共同研究「池干し前後の水質・底質・食物網解析による適切なため池管理に関する研究」(研究代表者: 菅原巧太朗), 研究副代表者 (2024年度~2026年度).

大阪大学 SSI プロジェクト「大学と地域の生物多様性保全の実現」(研究代表者: 大阪大学理学部・古屋秀隆、吉岡聡司), 微小生物担当 (2020年度~2023年度).

科学研究費助成事業 (基盤 C) 「淡水棲マミズクラゲがもつ3つの謎 (性決定、芽体形成、生物伝播) の解明に迫る」(研究代表者: 奈良県立医科大学・小林千余子), マミズクラゲネットワーク確立担当 (2022年度~2025年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年7月18日, 彦根東高校, プランクトン実習.

2024年7月30日, 県内中学校, 自然調査ゼミナール.

2024年11月24日, 豊中高校, プランクトン実習.

2025年3月26日, 刀根山高校, プランクトン実習.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，12件。

はしかけグループ「田んぼの生きもの調査グループ」，担当。

はしかけグループ「琵琶湖の小さな生きものを観察する会」，副担当。

クラウドファンディング返礼「微小生物学芸員体験」2件。

資料提供 77件。

2024年8月31日，湖探検，観察会，副担当。

2024年9月28日，プランクトンでビンゴ，観察会，担当。

2024年11月16日17日，びわ博フェス，SCREENホールディングスポスター、プランクトン採集イベント。

2025年2月23日，ボランティアコーディネーター協会 研究集会，講演，講師。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2024年11月3日，実習「琵琶湖のプランクトン」，NPO法人自然と緑 第27期自然大学，琵琶湖博物館，講師，
（大塚泰介と共同）。

2025年1月15日，琵琶湖博物館の博物館活動に関する講義，JICA地域理解プログラム，講師。

メディアへの協力

アンケート 2件。

雑誌、新聞取材、校正など 132件。

テレビ対応、取材調整 52件。

2024年5月17日，琵琶湖放送，金曜オモロ滋賀 出演（4月19日撮影）。

2024年5月24日，琵琶湖放送，金曜オモロ滋賀 出演（4月19日撮影）。

2024年5月31日，NHK 大津，おうみ発 630 出演（5月22日撮影）。

2024年6月14日，石川テレビ，石川さん情報 Live，出演（6月4日撮影）。

2024年7月11日，ABCnews、いっとこ Fu!Fu! 出演（6月15日撮影）。

朝日新聞連載「ビワハツ」4件。

2024年12月14日，四季のプランクトンを楽しむ①。

2025年1月11日，四季のプランクトンを楽しむ②。

2025年1月25日，四季のプランクトンを楽しむ③。

2025年2月8日，四季のプランクトンを楽しむ④。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物関連標本整理，担当。

【節足動物標本】

ジムカデプレパラート：石井清 独協医科大学 12枚。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

マイクロアクアリウム・マイクロバー，ノロ展示，2024年8月6日～2025年1月9日。

マイクロアクアリウム・マイクロバー，マミズクラゲ，2025年1月10日～継続中。

モーニングレクチャー，講義「プランクトンネット講座」，1回（4日）。

【広報営業活動】

企業連携，株式会社 SCREEN ホールディングス，環境活動のための情報提供など。

企業連携，たねや，田んぼ観察会および田んぼ生物調査のための職員への講義。

【研究部関連事業】

危険物等の管理，主担当。

館内の人事・館外活動に関すること

【館外の活動】

大阪大学大学院理学研究科，招へい研究員（2024年4月1日～2025年3月31日）.

淡水魚という視点から、まだ多く眠っている琵琶湖の魅力を発掘し、その魅力を発信することを目指して、コイ科を中心とした淡水魚類の系統分類に関する研究を行っている。また、持続可能な琵琶湖やその利用の実現のために、魚類多様性の保全に関する研究にも取り組んでいる。琵琶湖は淡水魚進化の場であり、人との関係性も深い東アジアの中でも特筆すべき場所である。それをメインに研究する機関として、琵琶湖博物館が東アジアの淡水魚研究の拠点となるよう事業を展開する。

<研究>

(1) コイ科魚類の系統分類学的研究

今年度は、オランダライデンにあるナチュラリス生物多様性センターとフランスパリにある国立自然史博物館で標本調査を実施することができた。ナチュラリス生物多様性センターでは、ヤリタナゴ、アブラボテ、カネヒラ、ニゴイ、タモロコ、イトモロコなど、フランス国立自然史博物館ではホンモロコ、ワタカ、ギギ、*Squalidus argentatus* など、タナゴ亜科やカマツカ亜科の重要なタイプ標本を多数、写真撮影、観察や計測・計数を実施することができた。

(2) 標本に基づく過去の魚類相調査

魚のにぎわい復活に向けた保全目標や再生に向けた戦略を立てるための基礎情報を、標本調査で積み上げる必要がある。今年度も、大正時代前後に収集された東京大学総合研究博物館に所蔵されている田中茂穂コレクション、国立科学博物館に所蔵されている中村守純コレクション、当館に所蔵されている長田芳和研究室コレクションの魚類標本調査などを実施した。長田コレクションは、京都府桂川や滋賀県余呉湖のサンプルを中心に整理を行った。国立科学博物館では、田中茂穂が収集した書簡の調査も実施した。川端重五郎が田中茂穂に送った資料が見つかるなど、重要な資料調査が実施できた。

<博物館事業>

博物館事業では、魚類標本の整備、環境学習・交流係としてフィールドレポーター・地域連携、企業連携などの業務、水族担当として水族の対応、魚類の保護増殖に関することなどを実施した。魚類標本整備の主担当者として、魚類標作製、標本受入、外部研究者の標本借用・調査対応などを行った。環境学習・交流係では、フィールドレポーター担当として、毎月2回の定例会議、報告会、フィールドレポーターだより・掲示板の発行、広報対応などに取り組んだ。水族については、地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所と連携協定を締結し、当館で系統保存を実施している国の天然記念物イタセンパラの補強や、それに関する連携展示を実現した。クラウドファンディング第2弾を実施し、多くの支援を得ることができた。水族のバックヤードツアーを多く担当した。企業連携では、株式会社 叶 匠壽庵とのイチモンジタナゴ保全活動などを実施した。

印刷物

【学術論文】

Ito, G, N. Koyama, R. Noguchi, R. Tabata, S. Kawase, J. Kitamura, Y. Koya (2024) Phylogeography and genetic population structure of the endangered bitterling *Acheilognathus tabira tabira* Jordan Thompson, 1914 (Cyprinidae) in western Honshu, Japan, inferred from mitochondrial DNA sequences. *Nature Conservation*, 56: 19-36.

【専門分野の著作】

伊藤 玄・大場貴保・堀江真子・川瀬成吾 (2024) 滋賀県の野外水域から初めて確認された体外光メダカなどの観賞魚メダカ. *淡海生物*, 6: 18-21.

【一般向けの著作】

藤岡康弘・川瀬成吾・田畑諒一 (2024) *琵琶湖の魚類図鑑*. サンライズ出版, 彦根, 232 pp.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- 川瀬成吾 (2024) 日曜日に知る琵琶湖の魚たち ニッポンバラタナゴ 滋賀で交雑により絶滅した淡水魚. 産経新聞 滋賀県版, 2024年6月7日.
- 川瀬成吾 (2024) 日曜日に知る琵琶湖の魚たち カワヒガイ～琵琶湖にいたのか～. 産経新聞滋賀県版, 2024年11月17日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 佐藤 萌柚・川瀬 成吾・杉野 潤・谷口 倫太郎・斎藤拓輝・武山 智博 (2024年9月7日). 人工授精により長期継代飼育されたミヤコタナゴの産卵行動. 2024年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学(福岡市), [口頭発表].
- 中江雅典・川瀬成吾・向井貴彦 (2024年9月8日) 生息域外保全での継代飼育ウシモツゴにおける側線系の変異(予報). 2024年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学(福岡市), [口頭発表].
- 川瀬成吾・伊藤 玄(2024年12月15日) ロンドンに眠る120年前の琵琶湖・淀川水系さん魚類標本. 第79回魚類自然史研究会, 神奈川県立地球・生命の星博物館(神奈川県小田原市), [口頭発表].
- Sato, M., R. Taniguchi, S. Kawase, J. Nakajima, M. Kumagai, H. Saito and T. Takeyama (2024年11月15日) Interspecific comparison of courtship and spawning behavior in the subfamily Acheilognathinae. The Joint Meeting of the Annual Meeting of the Society of Population Ecology and Taiwan-Japan Ecology Workshop 2024, Okinawa, [ポスター発表].
- Kawase, S (2025年3月15日) Diversity and Conservation of Fishes in Lake Biwa. 第80回魚類自然史研究会・日韓合同国際シンポジウム, 青少年修練院・韓国, [口頭発表].
- 谷口倫太郎・高橋鉄美・川瀬成吾・佐藤萌柚・野口亮太・小山直人・浅野雅人・中田和義 (2025年3月16日) 兵庫県で採集された日本初記録の外來タナゴ. 第72回日本生態学会大会, 札幌コンベンションセンター(札幌市), [ポスター発表].
- 川瀬 成吾 (2024年11月17日) びわ博フェス講演会 琵琶湖の魚の保全をめぐって, 琵琶湖博物館 [企画運営・司会進行].
- 川瀬 成吾 (2024年12月14-15日) 第79回魚類自然史研究会, 神奈川県立生命の星地球博物館(神奈川県小田原市) [企画運営・司会進行].
- 川瀬 成吾 (2025年3月15-16日) 第80回魚類自然史研究会・日韓合同国際シンポジウム, 青少年修練院(大韓民国忠清北道鎮川郡) [企画運営].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「コイ科カマツカ亜科魚類の比較解剖学的研究」, (2021年度～).
- 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 分担者(2019年度～2024年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「日本産ニゴイ類の比較形態学的研究」(研究代表者: 川瀬成吾), (2022年度～2024年度).
- 科学研究費助成事業 基盤研究C「博物館における分類学の再考と再構—生物多様性保全に向けた保全分類学の挑戦—」(研究代表者: 琵琶湖博物館・川瀬成吾), 総括(2023年度～2025年度).
- 科学研究費助成事業 基盤研究C「絶滅危惧種ウシモツゴの健全な個体群増加のための遺伝的多様性と適応的形質の解析」(研究代表者: 岐阜大学・向井貴彦), 研究分担者, (2024年度～2026年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 関西自然保護機構, 運営・編集委員.
- Zookeys, 査読, 1件.
- 魚類学雑誌, 査読, 1件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2024年8月6日, 近畿大学農学部水産学科亀甲ゼミ生「ようこそ! 琵琶湖博物館へ 探ろう湖と人の関係史」, 実習.
- 2024年度博物館実習, 標本整理, 琵琶湖博物館(液浸収蔵庫)(2024年5月4日)
- 2024年10月2日, 大阪ECO動物海洋専門学校「ようこそ! 琵琶湖博物館へ 探ろう湖と人の関係史」, 実習.
- 2024年10月30日, 名古屋ECO動物海洋専門学校「ようこそ! 琵琶湖博物館へ 探ろう湖と人の関係史」, 実習.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 12 件.

クエリの質問対応, 1 件.

うおの会 講演, 1 件.

うおの会 フナの研究, 1 件.

フィールドレポーター「生き物供養碑」, サポート.

フィールドレポーター「タンポポ調査」, サポート.

2024 年 11 月 16-17 日, びわ博フェス, フェスステージ司会進行, 2 件.

メディアへの協力

2024 年 4 月 6 日, 読売新聞「琵琶湖の水深 50m からアカザが見つかった」, アカザが琵琶湖の深部から見つかったことの解説, (2024 年 3 月 27 日・4 月 5 日).

2024 年 6 月 1 日, YouTube「マーシーの獲ったり狩ったり: 田舎の狭い川でデカ網追い込み漁したら激レア生物が大漁に!? 【第 4 回春のタナゴ大感謝キャンペーン】」, マーシーと一緒にガサガサ・魚解説, (2024 年 5 月 21 日).

2024 年 7 月号, コープしが広報誌 スパイラル「びわこの日と琵琶湖の魅力、環境問題について」, (2024 年 4 月 16).

2024 年 7 月 29 日, NHK 国際放送/NHK エンタープライズ近畿「平安神宮のイチモンジタナゴ」, 平安神宮のイチモンジタナゴについて解説, (2024 年 5 月 9 日・6 月 17 日).

2024 年 8 月, 毎日新聞「滋賀県の野生下における鑑賞魚メダカの初確認」, (2024 年 8 月 9 日).

2024 年 9 月 7 日, 京都新聞「滋賀県の野生下における鑑賞魚メダカの初確認」, (2024 年 9 月 3 日).

2024 年 10 月 7 日, NHK 大津「滋賀県の野生下における鑑賞魚メダカの初確認」, 論文の内容の確認, ミナミメダカの撮影, (2024 年 9 月 3 日・6 日).

2024 年 11 月 22 日, NHK「ギョギョッとサカナ★スター ハス」, ハスについて監修, (2024 年 7 月 30 日).

2025 年 2 月 28 日, NHK 大津「滋賀の生き物シリーズ: ウキゴリ」, ウキゴリの解説, (2024 年 2 月 26 日).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

公式 YouTube びわこのちからチャンネル, 動画協力, 2 件.

公式 YouTube びわこのちからチャンネル, 動画作成, 2 件.

公式 YouTube びわこのちからチャンネル, YouTube ライブ, 4 件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料保管, 担当.

水族保護増殖, 担当.

魚類液浸標本, 担当.

魚類標本, 利用申請対応, 5 件.

魚類標本, 特別観覧対応, 4 件.

魚類標本, 寄贈受入対応, 1 件.

魚類生体, 利用申請対応, 2 件.

映像資料, 寄贈受入対応, 1 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水草展～水中の草原を追う～ (2024 年 7 月 20 日～9 月 1 日), 企画展示と連動して南湖の水草 12 種の生態展示を実施・主担当.

淀川の魚たち～連携協定記念展示～ (2024 年 10 月 8 日～12 月 24 日), 大阪府立環境農林水産総合研究所との連携協定を記念して淀川のイタセンパラやヨドゼゼラなどの淡水魚を展示・主担当.

モーニングレクチャー, 講義「シーボルトと琵琶湖の淡水魚」, 1 回 (4 日).

他博物館・機関の活動

大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センター，連携展示（2024年10月9日～12月24日），当館との連携

【企画調整活動】

クラウドファンディング第2弾，担当.
クラウドファンディング第1弾，返礼ツアー対応.
クラウドファンディング第2弾，返礼ツアー対応.

【広報営業活動】

SNS 発信，記事作成，27 件.
資料提供，記事作成，8 件.

【研究部関連事業】

特別研究員受入，担当学芸員，2 件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2024年9月14-29日，オランダ ライデン ナチュラリス生物多様性センター，フランス パリ 国立自然史博物館での標本調査，科研費.
2025年3月14-18日，国際シンポジウムでの招待講演，魚類自然史研究会日韓合同開催幹事，魚類調査，科研費.

【館外の活動】

京都市，京都市環境審議会生物多様性保全検討部会，委員（2021年～）.
滋賀県，マザーレイクゴールズ学術フォーラム，委員（2022年～）
奈良県，奈良県外来生物対策アドバイザー，委員（2023年～）.

琵琶湖博物館「はしかけ制度」は、琵琶湖博物館の理念に共感し、博物館活動を共に創っていこうとする利用者のための登録制度であり、2000年8月に発足し、2024年現在、25年間継続されてきた。この制度に登録すると博物館の様々な事業・研究に携わることができ、さらに新しい活動を提案して自ら展開することも可能である。

2000年8月の発足から、2005年頃まで右肩上がりでは会員数が増加して以降約20年間、毎年、300人～400人がはしかけ会員として登録している。また、複数のグループが誕生し、様々な活動が行われてきた。

2024年度は、琵琶湖博物館におけるはしかけ制度について、各グループの運営状況を明らかにすることを通し、はしかけグループに対する博物館事務局としての望ましいかかわり方を検討することを目的とし、はしかけグループの(1)活動年数、(2)活動目的、(3)運営状況に着目し、それらを比較検討することを課題とし、実態把握と分析を行った。

2025年以降は、はしかけ会員へのヒアリングやグループ活動へ参加し、聞き取り調査等を行い、はしかけ活動の活性化等について、引き続き検討していきたい。

事業活動では、環境学習・交流担当として、はしかけ制度全般の運営を担当し、登録講座(オンライン)2回、(対面)1回、はしかけニューズレターの編集(5回)等を行った。

また、生活実験工房を中心にたんぼ体験教室を、5回実施した。延べ約120名の参加者に水稻作と暮らしに関する体験、たんぼの生きものに触れる機会、滋賀県の農政について知って頂く機会を提供し、参加者との交流を深めることができた。

地域連携では、館内において3件の講演・講師等を行った。

また、びわ博フェスでは、はしかけグループや企業によるワークショップの企画・運営や、琵琶湖博物館の展示と関連する県政(農林水産業、土木等)について、展示室内にポスター展示等を行う企画・運営を行い、来館者へ県政について知って頂く機会を設けることができた。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

西川 真里奈・大久保 実香(2025年1月17日) 滋賀県立琵琶湖博物館はしかけ制度における各グループの運営状況。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「滋賀県立琵琶湖博物館はしかけ制度における各グループの運営状況」,(2024年度)。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年11月29日, 12月13日, 龍谷大学農学部1回生, 食の循環実習I「世界農業遺産について」, 講師。

博物館事業に関する事業

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, フロアトーク7件。

たんぼ体験教室, 担当。

2024年5月12日 生活実験工房 たんぼ体験 田植え, 琵琶湖博物館, 企画・運営, (中川 優と共同)。

2024年7月28日 生活実験工房 たんぼ体験 昆虫採取, 琵琶湖博物館, 企画・運営, (中川 優と共同)。

2024年9月8日 生活実験工房 たんぼ体験 稲刈り・ハサ掛け(1), 琵琶湖博物館, 企画・運営, (中川 優と共同)。

2024年10月13日 生活実験工房 たんぼ体験 稲刈り・ハサ掛け(2), 琵琶湖博物館, 企画・運営, (中川 優と共同)。

2024年12月22日 生活実験工房 田んぼ体験 しめ縄づくり, 琵琶湖博物館, 企画・運営, (中川 優と共同).
はしかけ制度運営総括, 担当.
2024年4月28日～5月12日, はしかけ登録講座(オンライン), 琵琶湖博物館, 企画運営.
2024年9月8日～9月22日, はしかけ登録講座(オンライン), 琵琶湖博物館, 企画運営.
2024年9月28日はしかけ登録講座(対面), 琵琶湖博物館, 企画運営.
はしかけグループの支援.
はしかけ事務局運営(はしかけニューズレターの編集 5回 等).
はしかけ運営, サロン de 湖流, 担当学芸員.
2024年11月16日, 17日 びわ博フェス はしかけグループや企業によるワークショップの企画・運営.
2024年11月17日, びわはくフェス「学芸員と展示室でつながろう」 魚のゆりかご水田について, 実施.

他の博物館・機関等の主催行事 (地域連携を含む)

2024年12月5日 農業土木技術研修, 琵琶湖博物館 セミナー室, 企画運営.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室「田んぼへ」, 維持管理.

C展示室「世界農業遺産 琵琶湖システム」, 維持管理.

生活実験工房, 田畑の維持管理.

展示交流員研修, しめ縄づくり, 企画・運営, (中川 優と共同).

2024年11月16日, 17日 びわ博フェス 県政PR展示, 琵琶湖博物館C展示室, 企画・運営.

モーニングレクチャー, 講義「琵琶湖博物館での交流事例について」, 1回(4日).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2024年度, 滋賀県農政水産部耕地課企画・技術管理係, 主任技師を兼務.

研究活動では、ドローンを用いて森林の林分状況の把握や、植生・河川等における季節変動モニタリング調査を行った。滋賀県の半分の面積を占める森林について、その4割の面積を占める人工林の多くが伐期を迎えている。今後、この森林資源を「切って、植えて、育てる」といった循環をしつつ、環境に配慮した森林づくりを行っていく必要がある。森林の整備にあたっては、現地で林分調査を行い、資源量などの林分状況を把握し、適切な施業方法を選択する必要があるため、調査段階で時間と人件コストがかかる。そこで、既往の航空レーザ測量の成果物や、ドローンによる写真測量データを用いて林分状況を把握することで、従来の調査方法の省力化ができないかを検討した。ドローン写真測量からオルソ画像を作成し、GIS上で航空レーザ測量成果である林相識別図や樹頂点データと重ね合わせることで、樹種や樹高等の情報を正確かつ迅速に取得できるのではないかと考え調査を行った。現地での林分調査として、皆伐・再造林を行う森林に調査プロットを設けて、施業前に樹種、本数、樹高、胸高直径を測定した。それから、現地で伐倒してもらった木をすぐ実測し、施業前調査や航空レーザ測量成果で得られた樹高と比較を行った。伐採前後で行ったドローン写真測量から、3次元点群データを作成し、それぞれを点群処理ソフトで重ね合わせることでその差分から樹高の算出を試みた。各種検討の結果、樹種についてスギ林かどうかは航空レーザ成果物が大いに活用できることが示唆された一方で、本数の抽出は航空レーザ測量成果よりも現地調査の方が正確であった。ドローン測量での樹高測定について、取得データの細かい位置合わせが難しく、誤差が大きくなる結果となった。今後は詳細なデータ合わせなどを行うとともに、本数の抽出精度の向上に努めていく。また、ドローン測量成果から、GIS上で解析ツールを用いて樹頂点の算出も試みていく。

また、令和5年度～令和7年度の共同研究「ドローンを活用した琵琶湖生態系モニタリングー植生・河川・土地利用の時空間変動解析」において研究代表者を務めた。今年度は、湖岸の海浜植物やヨシ群落、湿原や天然林、河川といった調査対象地において共同研究者とともに調査を行った。湖岸に生息する海浜植物について、保全植物周辺の除草活動を行うことによる面積の変化を調べた。また、森林や河川などの調査地ではドローンを自動飛行させ、オルソ画像および3次元点群データの作成を行った。

交流事業では、はしかけ里山の会と共同で、里山体験教室の企画・運営を行った。猛暑により中止となった夏を除いた春、秋、冬の3回開催し、一般の方と里山の四季を感じつつ里山あそびや森林整備活動を行った。その他はしかけ里山の会で実施している独自活動の支援を行った。また、はしかけ緑のくすり箱と共同で、春と秋の年2回植物の水蒸気蒸留による芳香成分抽出を行った。びわ博フェスではもじあつめの担当等を行った。交流イベントの他に、情報誌「びわはく」の編集副担当として、びわはく第9号の制作に携わった。

印刷物

【学術論文】

Ikeda, T., Okuda, M., Ishihara, M. and Kon-no, Y. (2024) Effects of Different Light Conditions on Anatomical and Histological Features of Galls in Bacterial Gall Disease of *Cerasus × yedoensis*. *Phytopathology*, 114 (10): 2196-2206.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

奥田岬 (2025年2月21日) UAVや航空レーザ測量成果を用いた林分状況把握に向けた検討. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
大槻達郎・奥田岬・濱口貴仁・美濃部諭子 (2025年3月10日) 小型UAV空中写真を用いた希少植物の植生面積の経年変化. 第24回日本植物分類学会大会 (JSPS24), 高知大学 (高知市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「UAVや航空レーザ測量成果を用いた林分状況把握に向けた検討」, (2024年度).
琵琶湖博物館共同研究「ドローンを活用した琵琶湖生態系モニタリングー植生・河川・土地利用の時空間変動解析ー」(研究代表者: 奥田岬), 研究代表者 (2023年度～2025年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年6月4日, 伊香高校, 「滋賀県と琵琶湖の生態系・生物多様性について」, 講義.

2024年8月28日，龍谷大学，「びわ湖・滋賀学」（琵琶湖の自然と生き立ち（1） 琵琶湖の森のいまと環境政策），講義。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，5件。

はしかけ運営「里山の会」，主担当。

2024年4月21日，里山の春を探そう，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営（はしかけ里山の会共同），主担当。

2024年7月7日，里山の夏を楽しもう，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営（はしかけ里山の会共同），主担当，中止。

2024年10月20日，里山の秋を探そう，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営（はしかけ里山の会共同），主担当。

2025年1月19日，里山の冬遊び，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営（はしかけ里山の会共同），主担当。

2024年5月14日，季節の植物でアロマウォーターを作ろう，琵琶湖博物館，企画運営（はしかけ緑のくすり箱共同），主担当。

2024年11月12日，季節の植物でアロマウォーターを作ろう，琵琶湖博物館，企画運営（はしかけ緑のくすり箱共同），主担当。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2024年10月27日，講義「滋賀県の森林と里山活動について」，AEONTOWA リサーチセンター，琵琶湖博物館。

2025年2月20日，講演「森を感じてみよう」，滋賀県立視覚障害者センター，滋賀県立視覚障害者センター，中止。

メディアへの協力

雑誌取材対応（合同会社バンクトゥ），滋賀県の森林についての情報提供，（2025年1月29日）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義「森林の役割と滋賀県の林業について」，1回（4日）。

土倉の森博，3月4日～3月25日，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2024年度，滋賀県琵琶湖環境部びわ湖材流通推進課普及指導係・主任技師を兼務。

淡水二枚貝イシガイ科は、希少魚であるタナゴ類の産卵場、ろ過摂食による水中懸濁物の除去および付着藻類の生息場など淡水生態系において様々な役割を果たしている。しかしながら、近年、イシガイ科は世界的に減少傾向にあり、日本国内では13属26種のうち13種が環境省のレッドリストに掲載されており、2025年2月にはイシガイ科カタハガイがイシガイ科として初めて国内希少野生動物種に指定されるなど保全が急務な状況である。一方で、イシガイ科の長期的な水槽飼育や再生産手法は確立されておらず、イシガイ科の保全の課題となっている。そこで、イシガイ科の水槽飼育手法の確立に向けて脂肪酸分析を用いたイシガイ科の餌資源の解明に取り組んでいる。そのほか、脂肪酸分析を魚類にも適用し、飼育が困難な魚種の最適餌料の選定に関する研究や希少魚の人工授精における卵質の評価に関する研究も魚類担当の学芸員や水族飼育員と協力して進めている。また、事業では、展示係として常設展示（屋外展示を含む）の維持管理（契約、修理）に関すること（主担当）およびディスカバリールームに関すること（副担当）に従事した。さらに、水族展示の担当として、水族展示における展示の維持管理に関すること（主担当）に従事したほか、水族展示再構築に向けての広報・クラウドファンディングに関すること（副担当）に従事した。

<研究部に関すること>

研究部として廃液処理および薬品処分の主担当として、廃液および不要薬品のリストアップをした（合計505点）。このうち、今年度は226点を廃棄した。残り廃液および不要薬品は、来年度以降順次廃棄の手続きを進めていく予定である。

琵琶湖博物館共同研究として「池干し前後の水質・底質・食物網解析による適切なため池管理に関する研究」に取り組んだ。毎月、屋外展示の生態観察池の水質測定および底質分析を実施して池干しによる環境改善効果を評価した。本研究の成果について1件の学会発表を実施した。

淡水二枚貝イシガイ科の餌資源解明に向けた研究では、大阪府八尾市にあるイシガイ科が豊富なため池においてイシガイとミナミタガイの筋組織中の脂肪酸組成を分析し、緑藻・藍藻由来脂肪酸、珪藻由来脂肪酸、渦鞭毛藻由来脂肪酸、細菌由来脂肪酸、ならびに高等植物由来脂肪酸をモニタリングすることで、季節的にどの種類の餌料を同化しているのか調査した。さらに、屋外のコンクリート水槽を用いてイシガイとミナミタガイを飼育して、水槽飼育において野外と比較して不足する脂肪酸を調べた。野外および飼育個体はそれぞれ異なる餌料を同化しており、珪藻由来脂肪酸含有率は飼育および野外個体の両方で肥満度と正の相関にあることを明らかにした。本研究の成果について1件の学会発表を実施した。

飼育が困難な魚種の最適餌料の選定に関する研究では、琵琶湖博物館において飼育系が確立されていないヨドゼゼラを対象として研究を行っている。大阪府を流れる淀川の城北ワンドにおいてヨドゼゼラを定期的に採取して、季節的にヨドゼゼラが同化している餌資源について脂肪酸分析を用いて評価した。さらに、室内飼育個体が野生個体と比較してどの脂肪酸が不足するかを明らかにするため、琵琶湖博物館で飼育されているヨドゼゼラについても定期的に採取し、脂肪酸組成を分析した。現在は、採取したヨドゼゼラの脂肪酸分析を進めている状況である。

希少魚の人工授精における卵質の評価に関する研究では、イタセンパラを対象として研究を行っている。現在、イタセンパラの人工授精技術は非常に不安定であり、数万の受精卵を得たとしても、仔魚まで発達させられるのは数十個体程度である。そこで、人工授精の効率を改善するため、卵質を脂肪酸組成で評価できないか調査することとした。今年度はスタートアップとして、卵1粒からの脂肪酸抽出が可能であることを確かめた。来年度以降、どの脂肪酸種が卵質を決定づけているか検討を進めていく予定である。本研究を進めていくため、1件の財団助成金の募集に申請している。

<事業部に関すること>

展示係の業務として2024年度は常設展示の維持管理業務として展示交流員業務日報の連絡事項および要修理箇所点検・メール配信業務に従事した。また、水族展示再構築に向けたクラウドファンディング第2弾において、公式ホームページ上の活動報告の更新やYouTube配信業務等に従事した。水族展示の担当としては、2023年2月に発生したビワコオオナマズ水槽の破損を受け、水槽再生を目指して企画された水族イラスト展（第三期）や水族応援メッセージ、塗り絵展の運営業務を実施した。

印刷物

【専門分野の著作】

菅原巧太朗 (2024) アオコ防除における淡水二枚貝の可能性. *日本水環境学会誌*, 47(8): 275-279.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 菅原巧太朗（2024年6月21日）琵琶湖博物館の生態観察池の池干し前の水質の現状把握について。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 奥田覚子・菅原巧太朗・上地健琉・中西亮太・松葉成生・北川忠生（2024年10月19日）淡水二枚貝イシガイ科イシガイの肥満度増加に寄与する餌資源の評価。第88回日本陸水学会，熊本大学（熊本市），[ポスター発表]。
- 宮田直幸・吉川七瀬・石川慶恭・岡野邦宏・渡邊美穂・高田芳博・菅原巧太朗（2024年11月3日）秋田県八郎湖沿岸部での食害防止ネットを用いた淡水二枚貝の定着化について。日本水処理生物学会第60回大会，兵庫県立大学（兵庫県姫路市），[口頭発表]。
- 菅原巧太朗（2025年1月25日）新たな調査手法としての環境DNA分析。令和6年度新琵琶湖学セミナー 市民科学の最前線 環境DNAで！ガサガサで！みんなで魚を調べる，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 石川慶恭・吉川七瀬・岡野邦宏・宮田直幸・菅原巧太朗・高田芳博・石田頼子・福岡義貴（2025年3月18日）秋田県八郎湖での淡水二枚貝定着化に対する食害防止ネットの効果。第59回日本水環境学会年会，北海道大学（札幌市），[ポスター発表]。
- 菅原巧太朗・鈴木隆仁・根来健・川瀬成吾・岡野邦宏・芳賀裕樹（2025年3月18日）琵琶湖博物館屋外展示の生態観察池での池干しによる環境改善効果の評価。第59回日本水環境学会年会，北海道大学（札幌市），[ポスター発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館共同研究「池干し前後の水質・底質・食物網解析による適切なため池管理に関する研究」（研究代表者：菅原巧太朗），研究代表者（2024年度～2027年度）。
- 琵琶湖博物館専門研究「二枚貝イシガイ科の成貝の定着に関する研究」（研究代表者：菅原巧太朗），研究代表者（2024年度）。
- 公益財団法人河川財団 河川基金助成事業 若手研究者「脂肪酸分析を用いた淡水二枚貝イシガイ科の野外及び飼育下における同化餌資源の比較と最適餌資源の解明」（研究代表者：菅原巧太朗），研究代表者（2024年度）
- 公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団 萌芽的研究「燃焼もみ殻添加による淡水二枚貝イシガイ科の飼育餌環境改善の評価」（研究代表者：菅原巧太朗），研究代表者（2024年10月～2025年9月）。
- 令和6年度みかさプログラム トップレベル女性研究者 研究推進支援「濾過摂食者シマトビケラ科の生態機能とその季節的変動を評価する：ダム下流域において初となるネイチャー・ベースド・ソリューションへの挑戦」（研究代表者：片野泉），共同研究者（2024年12月～2025年3月）。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2024年度，秋田県立大学生物資源科学部学生，底質の脂肪酸分析のクロマトグラム解析方法の指導。
- 2024年度，秋田県立大学生物資源科学部学生，細菌中の安定同位体比分析の指導。
- 2024年度，秋田県立大学生物資源科学部学生，底質の有機態炭素量の分析。
- 2024年度，近畿大学大学院農学研究科修士課程学生，大阪府八尾市大阪経済法科大学内ふれあい池における二枚貝類の調査。
- 2024年度，近畿大学大学院農学研究科修士課程学生，近畿大学農学部キャンパス内のコンクリート水槽における飼育二枚貝類の調査。
- 2024年度，近畿大学大学院農学研究科修士課程学生，水質分析の指導。
- 2024年度，近畿大学大学院農学研究科修士課程学生，底質分析の指導。
- 2024年度，近畿大学大学院農学研究科修士課程学生，底質の粒径分布の分析。
- 2024年度，近畿大学大学院農学研究科修士課程学生，二枚貝・水中懸濁物質・底質の脂肪酸分析。
- 2024年度，近畿大学大学院農学研究科修士課程学生，脂肪酸組成のデータ解析の指導。
- 2024年度，奈良女子大学大学院理学部博士課程学生，脂肪酸分析の指導。
- 2024年度，奈良女子大学大学院理学部修士課程学生，脂肪酸分析の指導。
- 2024年度，奈良女子大学理学部学生，脂肪酸分析の指導。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，12件。

2024年7月30日、第47回 自然調査ゼミナール（貝類班）、滋賀県中学校研究会理科部会環境教育委員会、琵琶湖博物館、講師。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2024年6月23日、「魚のゆりかご水田」生き物観察会、滋賀県高島農業農村振興事務所田園振興課・知内農業組合・生活協同組合コープしがしがのふるさと支え合いプロジェクト、高島市マキノ町知内地先、講師。

2024年9月7日、びわ湖真珠を育む貝が文房具に?!～びわ湖真珠のイケチョウガイ・ワークショップ～、株式会社しがとこ 令和6年度「びわ湖の日」情報発信事業、琵琶湖博物館、講師。

2024年10月5日、まるっと体感八郎湖2024～八郎湖をきれいにする二枚貝について知ろう～、三湖伝説連絡協議会、秋田県八郎湖流域馬踏川水系支流吉田川、講師。

2024年11月19日、潟上市立大豊小学校出前授業「アオコはイイヤつ?ワルイヤつ?」、潟上市立大豊小学校、潟上市立大豊小学校、講師。

メディアへの協力

2024年12月7日、びわ湖大津経済新聞、琵琶湖博物館で展示されている氷魚、(12月7日取材対応)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

貝類標本の維持管理、主担当。

水族標本の保管、副担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示の維持管理、主担当。

ディスカバリールーム維持管理、副担当。

水族展示室維持管理、主担当。

水族展示再構築に向けての広報・クラウドファンディング、主担当。

モーニングレクチャー、講義「シジミ科の二枚貝について」、1回(4日)。

交流員と話そう、「スクミリンゴガイについて」、内容助言。

交流員と話そう、「外来生物について」、内容助言。

思い思いのカラーで彩ろう!塗り絵・イラスト展示室、2023年9月9日～2024年9月30日、副担当。

水族応援メッセージ、2023年9月9日～2024年12月24日、副担当。

みんなで作ろう水族展示!水族イラスト展、第三期:守りたい水辺の生き物、1月27日～4月7日、副担当。

クラウドファンディング公式HPの活動報告の更新、57件。

YouTube LIVE 配信業務、4回(全5回)。

【研究部関連事業】

廃液処理および薬品処分、主担当。

薬品の在庫管理、副担当。

廃液および不要薬品のリストアップ、505件。

廃液および不要薬品の廃棄、226件。

生態観察池の環境改善(芳賀裕樹・鈴木隆仁・川瀬成吾・根来健と共同)。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

NPO法人草木谷を守る会、理事(2021年4月1日～)。

秋田県立大学生物資源科学部、客員研究員(2022年4月1日～)。

滋賀県南部土木事務所 木浜地区保全整備地域協議会、委員(2024年7月1日～)。

昨年11月から体調不良により長期休養をしていたが、6月より職場に復帰した。休養により、様々な研究活動や事業活動が停滞してしまっていたが、現在は少しずつ活動を再開している。メインテーマである琵琶湖周辺域の水田利用魚類の生態については、今年度は産卵期に調査を実施できなかったため、一昨年度より実施している、20年前と現在の状況を比較するデータのまとめ作業を行った。一方、専門研究として実施している滋賀県内の中山間地域水田地帯に出現する魚類相に関しては、ホトケドジョウの新たな分布地を確認したほか、湖岸域と同様に20年前に中山間地の水田地帯で実施した調査のモニタリングも開始した。調査地点のうち1カ所では耕作放棄による環境変化が、もう1カ所は圃場整備による環境変化が見られ、それぞれで魚類相の変化を確認できた。また、県内の水田地帯における淡水貝類の分布調査も今年度継続して実施し、特にヒラマキガイ科については、県内における2種の主要な分布を明らかにしたほか、県内で未確認だった国内外来種を確認し、研究会で報告を行った。同調査では水生昆虫、両生類、爬虫類などの分布記録も同時に収集しており、水生昆虫においては記録の乏しかった種の情報を得ることができたほか、県内のカエル類の分布に関する情報も集積できた。特にヌマガエルについては、前年度に報文化した知見よりも、さらに分布が東進・北進しており、急激な分布拡大の現状を把握することができた。これらの結果の一部はすでに学会や研究会で発表しており、今後は論文文化に向けた準備を進めている。

希少淡水魚の自然繁殖を目指した共同研究については、休養の影響もあり、十分な活動を行うことができなかった。そのため、ズナガニゴイやツチフキなど、これまでに自然繁殖の試みによる成果が得られた種について、産卵行動の解析などを行うにとどまった。一方で、2025年に入ってから希少淡水魚ハリヨの県内における分布を再調査しており、生息域内での現状を把握した。また、地域の方々や企業の皆さんと実施している生息域外保全活動についても、アメリカザリガニの定期的な駆除や生息地の改善を実施している。これらの取り組みはこれまでの実績が認められ、滋賀県の希少野生動物種の保護増殖事業において、活動認定を受けた。

さらに、個人的な縁もあって南西諸島での生物相調査に関わるようになり、国内外来種としてオイカワが沖縄本島に侵入した実態について論文を共同で執筆した。温帯域に生息する流水性魚類が、亜熱帯域である沖縄本島でも定着した事例は、今後の国内外来魚問題を考える上でも重要であり、現地の研究者や協力者とさらなる調査を継続し、拡大防止に取り組む予定である。

博物館学研究領域では必要に応じてゼミを開催し、研究に関するアンケート内容の検討や意見交換を通じて、各メンバーの研究促進を支援した。昨年度から開始した科学研究費助成事業(基盤C)「自然史系博物館におけるレファレンス機能の分析と新たな価値の創出に関する研究」は、休養により本格的なスタートが遅れてしまっていたが、今年度は博物館に寄せられた質問を起点に、地域の自然史情報に貢献した事例や関連文献の整理を行なった。これらに関連した内容で学会および研究会、セミナーで計5件の発表を行った。さらに、本年も質問を起点とした自然史情報の発見事例があり、昆虫に関しては専門分野に関する著作を1件出版した。また、当館への連絡が起点となり、県内河川におけるオオサンショウウオ交雑個体が発見された情報に関しては、資料提供を行ったことで多くのメディアで報道された。このほか、県外で自然史系を取り扱う博物館4館を訪問し、博物館におけるレファレンスの体制と現状、自然史情報に発展した事例などについて聞き取り調査を行った。

交流係では、地域連携担当として、依頼内容に応じて館内外での講演・講義、観察会などの調整や内容の提案を行った。近年は特に、企業からの生物多様性や環境学習に関する依頼が増えており、さまざまなニーズに応える博物館の役割が一層求められている。また、地域の博物館・施設や団体から依頼のあった観察会に講師として参加し、研究の一環として、継続した観察会を通じた地域の生物相モニタリングの効果についてもデータ収集を行った。このほか、質問メールの副担当として、多くの質問に回答しながら、現在進行中の研究と関連付けたデータの収集も進めている。

水族担当としては、各メンバーの業務をサポートしつつ、展示等で活用する写真の整理やパネルの作成を行ったほか、水族トピック展示「新種記載されたスナヤツメの仲間」を企画した。また、クラウドファンディングのリターンとしてのバックヤードツアーなども実施した。

印刷物

【学術論文】

高木亮太郎・金尾滋史・刀禰浩一・佐藤寛之・山川（矢敷）彩子（2025）沖縄島中部の比謝川で移入・定着が確認されたオイカワ. *Fauna Ryukyuna*, 72 : 1-13.

【専門分野の著作】

村田巧明・金尾滋史（2024）滋賀県東近江市内におけるウスバカマキリの採集記録. *滋賀むしの会会報 Came 虫*, 217 : 17.

金尾滋史（2024）琵琶湖周辺の水田地帯を中心としたハタケノウマオイの分布. *滋賀むしの会会報 Came 虫*, 218 : 18-21.

【一般向けの著作】

金尾滋史（2024）琵琶湖の魚たち カラドジョウ じわり分布拡大中. *産経新聞*, 2024年7月14日.

金尾滋史（2024）琵琶と近江の名をもつ泥鰌 ビワコガタスジシマドジョウ. *生き物文化雑誌「ぎよぶる」*, 12: 60-61.

金尾滋史（2024）琵琶湖の魚たち ナガレホトケドジョウ 山奥の細流にひっそりと. *産経新聞*, 2024年9月15日.

金尾滋史（2025）琵琶湖の魚たち ひそかに定着した熱帯魚 ジルティラピア. *産経新聞*, 2025年2月16日.

金尾滋史（2025）琵琶湖の魚たち 新種 ミナミスナヤツメ. *産経新聞*, 2025年3月16日.

金尾滋史（2025）魚. In: 琵琶湖ハンドブック改訂検討チーム（編）, *琵琶湖ハンドブック四訂版*, 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課, 大津, p.178-179.

金尾滋史（2025）魚と水田. In: 琵琶湖ハンドブック改訂検討チーム（編）, *琵琶湖ハンドブック四訂版*, 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課, 大津, p.180-181.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

金尾滋史（2024年11月15日）博物館への質問や自然観察会を基点とした地域の自然史情報の発掘. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

高木亮太郎・金尾滋史・刀禰浩一・佐藤寛之・山川（矢敷）彩子（2024年12月14日）沖縄島で移入定着が確認されたオイカワ. 第79回魚類自然史研究会, 神奈川県立生命の星・地球博物館（神奈川県小田原市）, [口頭発表].

金尾滋史（2024年12月15日）ミニシンポジウム「水田地帯の外来生物に立ち向かう」. 第15回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, [座長].

金尾滋史（2024年12月15日）滋賀県内の水田から発見された国内外来種レンズヒラマキ. 第15回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

金尾滋史・大塚泰介・鈴木隆仁（2024年12月15日）第15回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, [企画運営].

金尾滋史（2025年1月12日）博物館のレファレンス機能がもたらす教育的役割と市民科学. 第65回日本動物園水族館教育研究会大牟田大会, ホテルヴェルデ（熊本県荒尾市）, [口頭発表].

金尾滋史（2025年2月1日）沖縄島に定着したオイカワと分布拡大の危機. 第20回外来魚情報交換会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

金尾滋史（2025年2月14日）博物館に寄せられる質問の自然史情報としての意義. 第32回全国科学博物館協議会研究発表大会, 兵庫県立人と自然の博物館（兵庫県三田市）, [口頭発表].

金尾滋史（2025年2月22日）観察会や質問から生まれる自然史情報の新発見. 令和6年度新琵琶湖学セミナー「市民科学の最前線」 第2回地元の価値を再発見!, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

金尾滋史（2025年2月26日）琵琶湖周辺域における水田利用魚類の現状と保全，生物多様性センター第46回生物多様性勉強会，地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センター（大阪府寝屋川市），[口頭発表]．

日鷹一雅・金尾滋史（2025年3月17日）シンポジウムS10 アグロエコロジー研究会：水田生物多様性の参加行動型研究、何をどこまで分類する？．第72回日本生態学会大会，札幌コンベンションセンター（札幌市），[企画運営・座長]．

金尾滋史（2025年3月17日）田んぼの生きもの調査における分類群の幅広さと地域のニーズ．第72回日本生態学会大会シンポジウムS10 アグロエコロジー研究会：水田生物多様性の参加行動型研究、何をどこまで分類する？，札幌コンベンションセンター（札幌市），[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「滋賀県内の中山間地域における水田利用魚類の分布と生態」（2024年度）．

琵琶湖博物館共同研究「日本産希少淡水魚類の自然産卵による繁殖技術確立と生息域外保全のあり方に関する研究」（研究代表者：金尾滋史），研究代表者（2023～2026年度）．

科学研究費助成事業（基盤 C）「自然史系博物館におけるレファレンス機能の分析と新たな価値の創出に関する研究」（研究代表者：金尾滋史），研究代表者（2023～2025年度）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本魚類学会，自然保護委員会希少淡水魚問題検討部会，委員，2019年1月～．

日本貝類学会，研究連絡誌「ちりぼたん」，編集委員，2013年3月～．

農業農村工学会，農村生態工学研究部会，代表幹事，2005年10月～．

日本動物園水族館教育研究会，運営委員，2014年12月～．

日本動物園水族館教育研究会，日本動物園水族館教育研究会誌，編集長，2014年12月～．

魚類自然史研究会，幹事，2017年11月～．

淡海生物研究会，淡海生物，編集委員，2019年9月～．

「野生生物と社会」学会，野生生物と社会，査読，1件．

日本貝類学会，研究連絡誌「ちりぼたん」，校閲，2件．

淡海生物研究会，淡海生物，校閲，1件．

日本動物園水族館協会，生物多様性委員会魚類作業部会ハリヨ種別調整者．

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年11月29日，龍谷大学農学部「食の循環実習 I」，琵琶湖博物館．

2024年12月6日，長浜バイオ大学バイオサイエンス学部「水族館実習」，オンライン．

2024年12月9日，國學院大學「博物館教育論」，オンライン．

2024年12月13日，龍谷大学農学部「食の循環実習 I」，琵琶湖博物館．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，10件．

はしかけ運営「温故写新」，担当．活動6回．

電話・質問コーナー窓口・メールによる質問への対応，265件．

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2024年6月22日，須原魚のゆりかご水田観察会（せせらぎの郷須原），須原蓮池の里公園（野洲市），講師．

- 2024年7月15日、かつべ水フェスタ 水辺の生き物観察会（勝部自治会）、守山市生涯学習・教育支援センター（守山市）、講師。
- 2024年7月22日、「琵琶湖と田んぼの生き物について」、日韓子どもラムサール情報交換会（TANAKAMI こども環境クラブ）、琵琶湖博物館、講師。
- 2024年8月6日、犬上川の生きもの観察会（快適環境づくりをすすめる会）、犬上川（彦根市）、講師。
- 2024年9月17日、「琵琶湖の水質と魚について」、東洋英和女学院小学部講義（琵琶湖汽船株式会社）、リオグランデ船内（琵琶湖）、講師。
- 2024年9月17日、「琵琶湖の自然と生き物の不思議」、2024年下半期全社員大会（滋賀スバル自動車株式会社）、ホテルニューオウミ（近江八幡市）、講師。
- 2024年11月23日、観察会「下物ビオトープの水だいたい抜く」、（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課）、下物ビオトープ（草津市）、講師。
- 2024年12月5日、JICA「博物館とコミュニティ開発」コース（国立民俗博物館）、琵琶湖博物館、講師。
- 2025年3月12日、「生き物の観察からはじまる研究、そして保全へ」、滋賀県高等学校等理科教育研究会生物部会兼環境委員会教員研修会（滋賀県高等学校等理科教育研究会）、琵琶湖博物館、講師。
- 2025年3月27日、草むらの生き物観察、春休み環境学習会（ダイハツ工業株式会社）、琵琶湖博物館、講師。

メディアへの協力

- 2024年10月11日、産経新聞滋賀版「滋賀でオオサンショウウオの交雑個体捕獲 人為的に放流か 外来生物法違反の恐れ」、取材対応・コメント、（2024年10月10日取材）。
- 2024年10月11日、読売新聞滋賀版「オオサンショウウオの交雑種、生息域外で確認…何者かが放流した疑い『『遺伝子汚染』が進む可能性』」、取材対応・コメント、（2024年10月10日取材）。
- 2024年10月19日、京都新聞滋賀版「滋賀県の川でオオサンショウウオ「交雑個体」発見 安易な放流「絶対にやめて」」、取材対応・コメント、（2024年10月10日取材）。
- 2024年11月5日、NHK 大津放送局「おうみ発630：県東部の川にオオサンショウウオの交雑種 人が放したか」、取材対応・コメント、（2024年10月30日取材）。
- 2024年11月7日、NHK 大阪放送局「ニュース845：滋賀県東部の川にオオサンショウウオの交雑種 人が放したか」、取材対応・コメント、（2024年10月30日取材）。
- 2024年11月7日、中日新聞滋賀版「犬上川に交雑個体のオオサンショウウオ、人為的流入か 在来種遺伝的系統、喪失の恐れ」、取材対応・コメント、（2024年11月6日取材）。
- 2024年12月10日、NHK 大津放送局「おうみ発630：いつまで続く？勝手な放流 オオサンショウウオの現場から」、取材対応、（2024年12月9日取材）。
- 2025年2月26日、読売新聞滋賀版「成体になると一切餌を食べない、不思議な生態の新種スナヤツメの仲間を展示…滋賀県立琵琶湖博物館」、取材対応・コメント、（2025年2月24日取材）。
- 2025年3月13日、京都新聞滋賀版「滋賀県草津市の琵琶湖博物館で「幻の魚」 新種の生きた姿を「普段は展示できない」」、取材対応・コメント、（2025年2月28日取材）。
- 2025年3月21日、中日新聞滋賀版「新種のスナヤツメを展示 4月27日まで、琵琶湖博物館」、取材対応・コメント、（2025年3月6日取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2024年10月22日、公式Youtube びわこのちからチャンネル「びわ博ラボ 第1回 オオサンショウウオについて語る！」、出演・解説。
- 2024年12月11日、公式Youtube びわこのちからチャンネル「びわ博フェス2024 講演会「琵琶湖の魚の保全をめぐる」」、編集。
- 2025年3月28日、公式Youtube びわこのちからチャンネル「【検証】琵琶湖博物館の学芸員なら、琵琶湖が少しでも映っていたら、どこかわかる説！！」、出演。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 貝類標本維持管理、担当。
- 両生類標本維持管理、担当。

爬虫類標本維持管理，担当.
水族資料収集，担当.
水族資料維持管理，担当.
魚類資料収集，200件.
淡水貝類資料収集，300件.
陸産貝類資料収集，200件.
昆虫資料収集，200件.
両生類資料収集，10件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理，担当.
水族展示，川魚屋魚滋，ふなずしのいろいろな食べ方，担当.
企画展示，「湖底探検 IIー水中の草原を追うー」（2024年7月20日～11月24日），水草は生き物の高層マンション!?, 担当.
水族トピック展示，新種記載されたスナヤツメの仲間（2025年2月11日～4月27日），担当.
モーニングレクチャー，講義「博物館に寄せられる質問の自然史情報としての意義」，1回（4日）.
展示交流員と話そう，テーマ：ドジョウ（内容指導など），1件.
展示交流員と話そう，テーマ：オオサンショウウオ（内容指導など），2件.

他博物館・機関の活動

ネオパークオキナワ，企画展「研究者を驚かせた生き物たち展」（2024年7月20日～9月23日），写真提供（クロイワマイマイ、イブキクロイワマイマイ、クロイワカワトンボ）および魚類（ナガノゴリ）の解説助言.
沖縄市郷土博物館，企画展「沖縄市のお宝展」（2024年11月22日～2025年2月2日），写真提供（琉球列島のタウナギ）.
沖縄市郷土博物館，常設展示水槽「沖縄市で発見されたオイカワ」（2025年3月24日～），写真提供（オイカワ）および解説助言.

【広報営業活動】

資料提供（2024年10月10日）「滋賀県東部の河川で放流された可能性の高い オオサンショウウオ交雑個体（特定外来生物）を確認」，担当.
資料提供（2025年2月21日）「水族トピック展示「新種記載されたスナヤツメの仲間」がはじまりました！」，担当.
企業の生物多様性保全活動、環境学習活動などに関する相談対応，6件.

【研究部関連事業】

免税アルコールに関すること，主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，滋賀県生きもの総合調査委員会魚貝類部会，委員（2006年8月～）.
環境省自然環境局，希少野生動植物種保存推進員（2010年7月～）.
滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，滋賀県希少野生動植物調査監視指導員（2010年4月～）.
NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク，標本救済ネット，ケースワーカー（2012年2月～）.
農林水産省近畿農政局，二次的自然環境における生物多様性保全検討調査，有識者（2019年4月～）.

滋賀県土木交通部流域政策局，中小河川多自然川づくり河川維持管理に関する懇話会，委員（2021年12月～）.
守山市環境政策課，守山市環境審議会，委員（2022年11月～）.

1. 研究に関わる活動

1) 琵琶湖の水生植物に関する研究

水生植物に関しては、第 32 回企画展示「湖底探検 II—水中の草原を追う—」の副担当として展示制作に関わった。展示制作は事業なのだが、展示後半の水草図鑑のパネルを作るために種生物学的なレビューを行う機会を得た。また、水草研究会の第 46 回全国集会を 8 月 24 日～25 日に琵琶湖博物館および琵琶湖周辺で開催した。水草研究会の全国集会は、滋賀県では 31 年ぶりの開催であり、前回に最年少の運営メンバーであった芦谷は、今回は実行委員長として集会のアレンジを行った。

研究プロジェクトとしては、申請専門研究「琵琶湖北湖北岸における水生植物の分布」研究代表者（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）を行う予定であったが、費用と時間の問題で実質的な調査は未実施となった。

2) 博物館学分野での研究

博物館学の分野では、2021 年度に開催されたギャラリー展示「琵琶湖の虹が映える理由 - 湖の“なぜ”がわかる物理学 -」の中で実施した評価について、研究セミナーで報告した。また、2025 年度からの共同研究として、琵琶湖博物館のこれまでの活動の質的評価に着目したプロジェクトを申請した。

2. 事業に関わる活動

1) 展示運営に関すること

事業部では、展示係長として展示全般を統括する業務を担当した。クラウドファンディングの効果もあり、来館者が増加する中、展示室の運営に取り組んだ。

また研究の部分でも触れたとおり、第 32 回企画展示「湖底探検 II—水中の草原を追う—」の副担当として展示準備に関わった。年度末には、2025 年度の春のギャラリー展示「滋賀のコケ植物とその研究史～コケに魅入られた人びとの系譜～」の主担当として準備にあたった。

2) 植物標本整備に関すること

琵琶湖博物館の植物標本は、多くの寄贈を受けて未整理の標本が多量にあり、将来的な資料活用を視野に整備を進める必要があり、順次手続きと資料整理（同定、登録作業等）を進めている。2024 年度後半に、コケ植物標本のコレクションとデータベースの公開を行った。

3) 橋本忠太郎のさく葉標本のデジタル化（写真撮影）

西日本自然史系ネットワークが文化庁の助成金で進めている Innovate MUSEUM 事業の一環として、琵琶湖博物館での歴史的な標本の撮影を行っている。当館では、橋本忠太郎のさく葉標本のデジタル化を進めた。継続して写真撮影を続けながら、標本の公開に向けての作業も今後進めていく予定である。

4) 人吉城歴史館（人吉市）前原勘次郎標本レスキュー

2020 年 7 月の熊本で浸水被害にあった植物標本について、レスキューのため受け入れ、クリーニングおよび乾燥作業中である。植物標本整備の貴重な経験になることのほか、資料論のトピックとして重要であるため、どこかの時点で継続するレスキュー作業とその意義について紹介したい。

5) 『滋賀県植物誌』改訂に向けての準備

1968 年に発行された『滋賀県植物誌』は、その後改訂されることがないまま現在にいたる。琵琶湖博物館の植物部門としては、この改訂版を作ることは大きな目標である。コレクションの充実を図り、標本に紐付けされた植物誌をつくること。そのプロセスは博物館学研究のテーマになる。準備として、県内の大型コレクションの受入手続きをそれぞれ進めながら、まずは収蔵資料として利用可能な状態にすることを目指している。

印刷物

【一般向けの著作】

芦谷美奈子 (2024) 6-1-1. 水草とはどんな植物か/6-1-2. 琵琶湖は水草の宝庫. In: 芳賀裕樹・芦谷美奈子 (編), *琵琶湖博物館第 32 回企画展示「湖底探検 II—水中の草原を追う—」図録*, 琵琶湖博物館, pp. 106-111.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

芦谷美奈子・戸田孝・大塚泰介（2024年10月18日）「琵琶湖環流」はパネルだけでどう伝わったかー実演なしの物理展示の伝達効果とその評価ー。研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖北湖北岸における水生植物の分布」（研究代表者：芦谷美奈子），研究代表者，（2024年度）。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年6月15日，桃山学院大学見学実習，講義・収蔵庫案内。

2024年度博物館実習，講義「博物館の展示 意義・制作・評価」，講義・琵琶湖博物館（2024年8月20日）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，11件。

インターネットを通じた質問への対応，5件。

はしかけグループ「植物観察の会」，担当。

2024年6月8日，わくたん「光とかげで写真をとろう～水の中の植物編～」，琵琶湖博物館館内イベント，琵琶湖博物館，講師。

2024年8月12日，ヨシ灯りをつくろう，琵琶湖博物館館内イベント，琵琶湖博物館，主担当者，（西の湖ヨシ灯り展実行委員会）。

2024年8月31日（台風のため中止），湖探検！琵琶湖に入って生き物をさがそう，琵琶湖博物館フィールド観察会，長浜市湖北町海老江・延勝寺湖岸，主担当者，（カワセミ自然の会・湖北野鳥センター・鈴木隆仁・菅原巧太朗と共同）。

2024年11月23日，森のたからものをさがそう！，ディスカバリールームイベント。琵琶湖博物館，講師。（島本多敬と共同）。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2024年8月1日，水草のプログラム，夏休み環境学習会（ダイハツ工業），琵琶湖博物館，講師，（金尾滋史と共同）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物標本コレクション管理，主担当者。

植物収蔵庫，副担当者。

植物標本，コケ植物データベース公開，1件。

植物標本，標本受入担当，2件。

植物標本，特別観覧対応，3件。

植物標本，人吉城歴史館（人吉市）前原勘次郎標本レスキュー，受入担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示事務の総括に関すること，主担当。

展示空間・危機管理，主担当

展示空間・ユニバーサルデザイン，副担当。

展示の維持管理・展示に関わる情報発信，主担当。

中長期計画・中長期計画の推進，主担当。

その他・予算に関すること，副担当。

第32回企画展示「湖底探検 II—水中の草原を追う—」（2024年5月5日-6月11日），副担当。

2025年度ギャラリー展示「滋賀のコケ植物とその研究史～コケに魅入られた人びとの系譜～」, 主担当.
モーニングレクチャー, 講義「琵琶湖の水草」, 1回(4日).

【企画調整活動】

新任職員研修, 講義「博物館の展示」講師, 琵琶湖博物館(2024年4月18日).

JICA「2024 博物館とコミュニティ開発」コース(国立民族学博物館), 受入担当・講師・オーガナイザー, 琵琶湖博物館(2024年12月4日～7日).

【研究部関連事業】

博物館学研究領域の研究推進に関すること, 副担当.

展示による研究成果発信に関すること, 主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県 木浜地区保全整備地域協議会, 委員(2000年4月～).

滋賀県植物研究会, 幹事(2010年4月～).

滋賀県 琵琶湖湖南地域ヨシ群落自然再生協議会, アドバイザー(2015年6月～).

独立行政法人水資源機構 琵琶湖開発総合管理所 琵琶湖沿岸域環境調査, アドバイザー(2016年1月～).

大津市科学館運営協議会, 委員(2020年4月～).

国立民族学博物館 国際研修博物館学コース「博物館とコミュニティ開発」運営委員会, 専門委員(2021年4月～).

タンポポ調査・西日本実行委員会, 「タンポポ調査・西日本2025」滋賀県実行委員会, 代表(2023年11月～).

ここ 30 年間、我が国の教育において、以前にも増して学校と博物館との連携、すなわち博学連携への期待が一層高まっていることから、博学連携をより充実させたいと考え、事業と研究に取り組んできた。

事業では、教職員研修会の対応の在り方を検討し、明確な基準を設けたマニュアルを作成した。研修会の内容には、学習目的を明確にした上での来館を意識するためにワークシート作りを取り入れた。下見予約はこれまでの電話やファックスでの申込みに加え、Web 申込みを導入した。教職員がより当館を利用しやすく、効果的に利用できるとともに、業務の効率化を進めた。

研究では、子どもたちが生涯学習につながる展示からの多様で深い学びを目指した博学連携の在り方を追究した。その中で二つの研究に取り組んだ。一つは、「体験学習を充実させることで学校の博物館利用の増加が見られるのではないか」と考え、その可能性について体験学習実施学校数と来館学校数の関係を調査した。中学校の利用と体験学習プログラムの充実に関連関係が見られ、中学校教員の興味を引く体験学習プログラムを開発すれば、利用拡大の可能性があると思われる。二つ目は、開館当初から実施されてきた学校向け体験学習プログラムと博物館教員の研究を整理する中で、子どもたちが体験学習後の見学に対する効果の有無を明らかにすることを課題に設定した。小学3年生の「昔くらし体験」を例に行動観察調査を実施し、考察した。成果として体験学習より子どもたちが具体的な視点をもって展示見学する様子が見られ、学びの深まりがあったことが示唆された。

印刷物

【専門分野の著作】

桑原康一 (2024) 水害の歴史と治水から身近な川との付き合い方を考えよう In: 藤岡達也 (編), *理科で考える自然災害*, 東洋館出版社, 東京, 94-97.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

桑原康一 (2024 年 9 月 7 日) 体験学習を重視した今後の博学連携の方向性-体験学習の実施学校数と来館した学校数の関係から-. 日本理科教育学会第 74 回滋賀大会 (日本理科教育学会), 龍谷大学瀬田キャンパス (滋賀県大津市), [口頭発表].

桑原康一 (2024 年 9 月 7 日) 社会教育施設 (博物館・科学館) との連携セッション. 日本理科教育学会第 74 回滋賀大会 (日本理科教育学会), 龍谷大学瀬田キャンパス (滋賀県大津市), [座長].

桑原康一 (2025 年 2 月 8 日) パネルディスカッション (「自然の恵みに気づき, 地域から発信する環境教育」). 第 8 回関西環境教育合同研究大会 (日本環境教育学会関西支部・関西環境教育学会), 滋賀大学大津サテライト (滋賀県大津市), [パネリスト].

桑原康一 (2025 年 3 月 21 日) 「学校団体における体験学習プログラムの展示見学への効果—昔くらし体験を例に一」. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「学校団体における体験学習プログラムの展示見学への効果—昔くらし体験を例に一」, (2024 年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 2 件.

はしかけ運営「びわたん」, 担当.

2024年5月, 6月, 7月, 12月, 2025年1月, 2月, 3月, 「春の草花でしおりをつくろう!」「水草で青写真をつくろう!」「骨にふてみよう!」「プランクトンを見よう!」「岩石標本をつくろう!」「綿に触れてみよう!」「水鳥を観察しよう!」「ミニ水族展示をつくろう!」7講座, 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業, 琵琶湖博物館, 企画運営, 5件, (はしかけグループ「びわたん」「森人」「ほねほねクラブ」「近江はたおり探検隊」「大津の岩石調査隊」と共催・渡邊俊洋と共同).

他の博物館・機関等の主催行事 (地域連携を含む)

2024年4月~2025年3月, 学校団体向け体験学習, 県内県外小中高等特別支援学校, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, (渡邊俊洋と共同).

2024年6月20日, 出前授業「琵琶湖の環境について」, 「エコ・スクール活動校」への協力 (琵琶湖環境部環境政策課), 東近江市立能登川南小学校, 講師.

2024年8月2日, びわ湖学習講義 プランクトン観察実習, フローティングスクール参加教員, 琵琶湖博物館, 講師, (渡邊俊洋と共同).

2024年9月24日~9月26日, 琵琶湖博物館を活用した学習の在り方 (実習), 滋賀県総合教育センター, 初任者研修 [特別支援学校], 琵琶湖博物館, 講師, 2件, (渡邊俊洋と共同).

2024年11月5日~16日, 琵琶湖博物館を活用した学習の在り方 (実習), 滋賀県総合教育センター, 初任者研修 [小学校], 琵琶湖博物館, 講師, 4件, (渡邊俊洋と共同).

2024年12月17日, 令和6年度森林環境学習「やまのこ」事業第3回専任指導員・地域サポーター研修会 (滋賀県琵琶湖環境部びわ湖材流通推進課), 林業普及センター (滋賀県野洲市), 講師.

博物館高度利用に関わる事前打ち合わせ・コーディネート, 担当, 9件, (渡邊俊洋と共同).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル, びわこのちからチャンネル, 「【徹底解説】びわ博の体験学習って何があるの?各エリア紹介と団体利用について」, 1件, (渡邊俊洋と共同).

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル, びわこのちからチャンネル, 「【徹底解説】びわ博の体験学習って何ができるの?」, 1件, (渡邊俊洋と共同).

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル, びわこのちからチャンネル, ショート動画公開, 1件, (渡邊俊洋と共同).
博物館高度利用に関わる事前打ち合わせ・コーディネート, 担当, 9件, (渡邊俊洋と共同).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2024年4月~2025年3月, 学校等標本貸出事業, 担当, 14件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義「学校の博物館利用 (博学連携)」, 1回 (4日).

今年度は、昨年育児休業から復帰し、2年ぶりに年度初めから計画的に業務に取り組みフル稼働した一年として充実したものであった。育児時間休暇を利用しながら、担当する博物館利用者に対する事業を遂行し、限られた時間の中で研究専念時間を確保することは大変困難であったが、飼育生物の健康管理を行いつつ得られたデータを蓄積することができた。また産前休暇前から実施してきたカヤネズミの研究について情報を整理し、今後の方向性を見出すことができたことも大きな成果であった。研究以外の事業では、館外の方々とやり取りをする窓口となる業務が重なり、常にメールに追われることとなったが、丁寧な対応を心掛け、楽しみながら実施することができた。

以下、今年度進めてきた研究・事業について記載する。

R6 年度専門研究として「カヤネズミの歯を用いた成長線を評価する試み」を実施した。カヤネズミにおいて切歯に成長線が観察された。またその周期は年や日周期とは異なる結果を得た。このことから、その周期についてより良い標識をつけて継続調査を行う予定である。

また、バイカルアザラシの定期健康診断により得られている血液データから、バイカルアザラシの傾向が得られつつある。血液データとあわせて、尿の採取トレーニングを進めており、動物により負担の少ない経時的データ収集を行い、今後野生個体や他の施設の飼育個体との比較評価を進めていく。

今年度は、カイツブリの体調不良が続き、継続的な治療を要した。これまでに見られたことのない症例もあり死亡個体も生じたが、当館として貴重なデータを得られたことから今後の飼育・研究に活かしていく。

兼務の事業部では、環境学習・交流係として質問コーナーの運営と一年間をかけて方針の見直しを実施した。このことにより、琵琶湖博物館の質問コーナーが重要な業務であるということを学芸職員に再周知できたのではないかと思う。また query メール窓口として、年間 1237 件のメール対応を行った。昨今、迷惑メールの配信も急増しているが、そういったフォルダに振り分けされてしまう一般の方からの質問を見逃さないよう注意を払いながら、迅速な対応を心掛けた。ご質問いただいた方々には御礼申し上げたい。情報誌びわはくは、第 8 号を 6 月に発行し、第 9 号の編集業務を行い、外部の方々にも快くご執筆いただいた。

これまで通り、水族展示担当の学芸員の一人として水族展示室の維持管理を行う一方、クラウドファンディングの担当も担い、活動報告の配信や、寄付者の方々への連絡窓口としてリターン調整やツアーの案内や補助などを行った。

印刷物

【一般向けの著作】

松岡由子 (2025) 古代湖の世界① 奇跡の湖で進化 60 もの固有種. 朝日新聞滋賀版, 2月23日(朝刊).

松岡由子 (2025) 古代湖の世界② 淡水アザラシ 先は海から. 朝日新聞滋賀版, 3月9日(朝刊).

松岡由子 (2025) 古代湖の世界③ 日々の飼育から貴重なデータ. 朝日新聞滋賀版, 3月23日(朝刊).

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

松岡由子 (2025年2月5日) 口頭発表演題 15-20 の進行. 第50回海獣技術者研究会(公益社団法人 日本動物園水族館協会), ふくしま海洋科学館マリンシアター(福島県いわき市), [座長].

松岡由子 (2025年2月21日) カヤネズミの歯を用いた成長線を評価する試み. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本野生動物医学学会, 学術・教育委員会委員, 2022~2025年度.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー、フロアトークの運営、query に関すること、主担当。

情報誌「びわはく」の出版に関すること、主担当。

フィールドレポーター・はしかけ・びわ博フェス登録団体の名簿管理等に関すること、主担当

びわ博フェスの企画、運営、実施，企業連携担当

質問コーナー・フロアトーク，12件。

インターネットを通じた質問への対応，75件。

はしかけグループ「ほねほねくらぶ」，副担当。

はしかけグループ「ちっちゃなこどもの自然あそび」，副担当。

2025年2月16日，令和6年度野生動物研修会 一般市民講座「伊吹山の野生動物～ツキノワグマとイヌワシ～」，琵琶湖博物館，担当，（主催：公益社団法人 滋賀県獣医師会）。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2024年6月3日，職業講話「水生動物学研究者の仕事」，キャリア教育事業（おうみ未来塾「仕事人と語ろう」グループ），大津市立仰木の里東小学校（大津市），講師。

2025年3月27日，講義「ヨシ原にすむカヤネズミ」，春休み環境学習会（ダイハツ工業㈱），琵琶湖博物館，講師。

視察等への対応

2025年1月21日，視察対応，（株）海の中道海洋生態科学館マリンワールド海の中道，水族展示カイツブリ水槽。

メディアへの協力

2024年11月発行，あざらしまるごとBOOK（たつみ出版），取材協力，（2024年9月）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

クラウドファンディング第2弾活動報告 50%達成，配信動画作成。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

哺乳類（乾燥標本、骨格標本、その他）標本の管理（収集、受け入れ、貸出等）。

水族飼育業務，哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類に関すること，主担当。

水族他館との連携，（公社）日本動物園水族館協会および他園館との連携・事務に関すること，主担当。

水族飼育業務，魚類等の病気や水質維持に関すること，副担当。

水族会議の開催と運営に関すること，副担当

水族展示担当学芸員の勤務調整業務，12回。

C展示室，陸域生体（カヤネズミ・イシガメ・クサガメ・ミナミイシガメ・スッポン・コイ）の管理（飼育、繁殖）。

生物の健康管理，バイカルアザラシの健康診断，カイツブリ治療，ナガレヒキガエル治療等，20件。

哺乳類標本データベースの管理。

哺乳類資料（ニホンザル），受け入れ，1件。

ギギ音声データ，特別観覧対応。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室，カヤネズミ・カメ類，展示更新，随時。

水族展示室，展示維持管理，随時。

水族展示室，水辺の鳥水槽，ユリカモメ・ヒドリガモ収容，2024年4月。

おとなのディスカバリー，哺乳類コーナー タヌキの毛皮更新，2025年3月。

モーニングレクチャー，講義「オオサンショウウオについて」，1回（3日）。

展示交流員と話そう，カヤネズミについて交流。

【企画調整活動】

新任職員研修，生き物コレクション，水鳥展示、古代湖の世界・C展示室，水族展示室（2024年4月18日）。

【広報営業活動】

水族広報・CF，水族展示再構築に向けての広報・CF，副担当。

クラウドファンディング第1弾，水族関連ツアー調整，21件。

クラウドファンディング第2弾, 活動報告, 10件.

クラウドファンディング第2弾, 水族関連ツアー等調整, 28件.

【研究部関連事業】

外部研究者（特別研究員、研究協力員等）の受入, 主担当.

国内の研究機関との連携に関すること, 京都大学野生動物研究センター担当.

薬品管理, 廃液処理および薬品処分に関すること, 副担当.

2025年2月初旬～3月3日に滋賀県内中学校教員（特別支援学校、管理職を除く）を対象に、Google フォームを使って、滋賀県内中学校教員における琵琶湖を関連づけた学習の実態調査を行った。回答数は416件であった。

琵琶湖を関連づけた授業を毎年している、もしくは2～3年にしている教員が49.8%、琵琶湖を関連づけた授業をたまにしている（6年以上の間隔が空いている）、もしくは今までしたことがない教員が49.1%であった。琵琶湖を関連づけた授業では総合、理科、社会の教科が多いが、あらゆる教科で行われている。授業で使用した教材などはインターネット、教科書・副読本、学校以外の施設が多かった。よって琵琶湖博物館に来館する以外にも琵琶湖を関連づけた学習をしていることが分かった。「琵琶湖を関連づけた学習を中学校・高校でもすべきか」はとても思う、やや思うは85.4%であった。なぜ中学校教員の約半分は授業の中で琵琶湖を関連づけた学習（授業）を行いたいのかについて原因を探ることにした。

琵琶湖を関連づけた授業を毎年している教員、今まで琵琶湖を関連づけた授業をしたことがない教員を比較し、琵琶湖を関連づけた授業がやりづらい原因を探ることにした。「勤務校では琵琶湖を関連づけた教育に関する方針があるか」について大きな差が生じた。琵琶湖を関連づけた授業で活用できる資料を比べても大きな差が生じた。

「琵琶湖に関する学習を中学校・高校でもすべきだと思いますか」の質問ではあまり差が生じなかった。このことより、琵琶湖を関連づけた学習を授業の中で行いたいのは、学校の琵琶湖を関連づけた教育に関する方針の有無、教員が琵琶湖を関連づけた学習の資料を知っているかが大きな原因ではないかと考えられる。また授業で琵琶湖を関連づけた学習をしたいと思っていても、どのようなことをすればよいのか、どの資料を用いたらよいのかが分からないことも示唆される。

琵琶湖を関連づけた授業を行いたい原因でさらに考えないといけないことがある。「教員歴」と「勤務校から琵琶湖までの距離」の2つである。教員歴が長いほど経験値や知識が増えていく。滋賀県は広いので琵琶湖からの距離が遠ければ琵琶湖を身近に感じることはなく、身近にある山、川などの学習をするため、琵琶湖を関連づけた授業は行われにくい可能性が高い。では教員歴と琵琶湖から勤務校までの距離が琵琶湖を関連づけた授業の行いにくさに影響があるのかを探ることにした。

琵琶湖を関連づけた授業を毎年している教員は教員歴が長いほど増えている。また今までしたことがない教員をみると教員歴が短いほど多く、教員歴が長いほど少ない。「あおい琵琶湖」は教員歴が長いほど知っていることが分かった。「琵琶湖ハンドブック」、「MLGs」に関しては教員歴の影響がないことも分かった。琵琶湖からの距離と各質問を比較して大きく影響している部分が見られず、琵琶湖を関連づけた学習に琵琶湖からの距離は影響が少ないと考えられる。

琵琶湖を関連づけた授業をしづらい原因は「学校に琵琶湖を関連づけた教育に関する方針があるか」「教員が琵琶湖を関連づけた学習の資料があることを知っているか」「教員歴」であることが示唆された。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

渡邊俊洋（2025年3月21日）. 滋賀県内中学校教員における琵琶湖を関連づけた学習の実態調査について、琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「滋賀県内中学校教員における琵琶湖を関連づけた学習の実態調査について」，（2024年度）.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年度博物館実習，交流事業学校連携について，講師，琵琶湖博物館（2024年8月23日）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2024年5月, 6月, 7月, 12月, 2025年1月, 2月, 3月, 「春の草花でしおりをつくろう!」「水草で青写真をつくろう!」「骨にふてみよう!」「プランクトンを見よう!」「岩石標本をつくろう!」「綿に触れてみよう!」「水鳥を観察しよう!」「ミニ水族展示をつくろう!」7講座, 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業, 琵琶湖博物館, 企画運営, 5件, (はしかけグループ「びわたん」「森人」「ほねほねクラブ」「近江はたおり探検隊」「大津の岩石調査隊」と共催・桑原康一と共同).

自然調査ゼミナール, 担当.

2024年7月30日, 「昆虫班」「植物班」「琵琶湖岸班」「プランクトン班」「魚類」「貝類」に分かれて, 学芸員・県内中学校教諭・県内中学生と琵琶湖博物館周辺の自然を調査して結果をまとめて発表(今田舜介, 大槻達郎, 鈴木隆仁, 菅原巧太郎, 渡邊俊洋と滋賀県内中学校教諭との共同).

他の博物館・機関等主催行事(地域連携を含む)

2024年4月~2025年3月, 学校団体向け体験学習, 県内県外小中高等特別支援学校, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, (桑原康一と共同).

2024年6月5日, 琵琶湖の概要, 滋賀県立伊香高等学校2年生, オンライン講義, 講師.

2024年8月2日, びわ湖学習講義 プランクトン観察実習, フローティングスクール参加教員, 琵琶湖博物館, 講師, (桑原康一と共同).

2024年9月24日~9月26日, 琵琶湖博物館を活用した学習の在り方(実習), 滋賀県総合教育センター, 初任者研修(特別支援学校), 琵琶湖博物館, 講師, 2件, (桑原康一と共同).

2024年10月17日, 琵琶湖の概要講義, 大津市立打出中学校1年生, 大津市立打出中学校, 講師.

2024年11月5日~16日, 琵琶湖博物館を活用した学習の在り方(実習), 滋賀県総合教育センター, 初任者研修(小学校), 琵琶湖博物館, 講師, 4件, (桑原康一と共同).

2024年11月6日, 琵琶湖の概要講義, 枚方市立五常小学校4年生, 枚方市立五常小学校, 講師.

2025年1月20日, 琵琶湖の概要講義 化石レプリカに関する講義, 近江八幡市立八幡西中学校1年生, 近江八幡市立八幡西中学校, 講師.

2025年3月11日, 琵琶湖学習に関する講評, 立命館守山中学校1年生, 立命館守山中学校1年生, 講師.

2025年3月12日, 高等学校の博物館の使い方について, 滋賀県高等学校理科教育研究会生物部会(動物研究部門)兼環境教育研究会教員研修会, 講師.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル, びわこのちからチャンネル, 「【徹底解説】びわ博の体験学習って何があるの?各エリア紹介と団体利用について」, 1件, (桑原康一と共同).

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル, びわこのちからチャンネル, 「【お知らせ】琵琶湖博物館「学校団体利用のお申し込みについてご案内」」, 1件, (桑原康一と共同).

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル, びわこのちからチャンネル, 「【お知らせ】琵琶湖博物館「学校団体利用のお申し込みについてご案内」」, 1件.

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル, びわこのちからチャンネル, ショート動画公開, 1件, (桑原康一と共同).
博物館高度利用に関わる事前打ち合わせ・コーディネート, 担当, 9件, (桑原康一と共同).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2024年4月~2025年3月, 学校等標本貸出事業, 担当, 7件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，1回(4日)。

質問コーナー・フロアトーク，3回。

ゾウムシを中心とした植食性昆虫の多様性と進化、ゾウムシの寄主利用の解明、滋賀県の昆虫相の解明とその成り立ちの3つに興味を持って研究を進めている。今年度は事業部業務や各種共催等との兼ね合いから研究を中心に据えることができなかったが、研究に関しては専門研究「沖島における甲虫相の解明」およびサブテーマ「ゾウムシを中心とした陸上昆虫の分類、分布、生態に関する研究」を進めた。

専門研究に関して、「資料発見の旅」の撮影中に偶然、これまで寄主利用がよくわかっていなかったアカアシヒゲナガゾウムシが枯れたビワの種子を利用することを発見し、ちょうど寄稿依頼のあった商業誌「月刊むし」のゾウムシ特集号④においてその知見を公表することができた。しかしながら、フィールド調査時間の確保やトラップの引継ぎが上手くいかず、肝心の標本の収集はあまり進まなかった。それでも、当館のコレクションになかった種をいくつか増やすことができた。

サブテーマに関して、京都市で開催された国際昆虫学会議において、日本産メナガヒゲナガゾウムシ族の分類体系に関するポスター発表をした。また、ゾウムシの寄主利用に関する英文が日本甲虫学会欧文誌に受理された。

滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会が中心となって、2018年の公開以来となる滋賀県昆虫目録の改訂作業を行い、最も種数の多いコウチュウ目を分担したほか、事務局の一員として各所の支援に駆け回った。滋賀県自然環境保全課が管理しているインターネットホームページに公開される予定であるが、諸般の事情により遅れている。滋賀県の昆虫相を理解する上で礎となる資料であり、琵琶湖集水域たる滋賀県の自然環境への理解の一助となると考えている。

事業部の業務として、収蔵施設等の防虫防バイ対策（清掃を含む）に関すること、くん蒸に関することを担当した。いずれも資料の保存に関わる業務であり、収蔵資料を如何にして未来に引継ぐか、その大変さを身をもって理解した一年となった。とりわけ今年度は、文化財用くん蒸ガスとして長年使用されてきたエキヒュームSが、業者都合によって販売終了を迎える文化財IPMの大きな転換期となっており、来年度以降の方針を決める必要に迫られた。他館の昆虫担当学芸員に標本調査の折に聞くことや、当館の歴史民俗分野の学芸員らの力を借りて、本件に関する情報収集に努めることで、来年度以降の方針を決めることに至った。生物多様性びわ湖ネットワークが主催のトピック展示「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え！」を担当した。

研究部の業務として、滋賀県試験研究機関連絡会議の幹事を担当し、工業技術センター、畜産技術センターの担当者とともに研究発表会を企画運営した。2024年度日本トンボ学会大会（滋賀大会）、2025年度蜻蛉（トンボ）研究会総会・研究発表会を両団体と共催した。

印刷物

【学術論文】

Imada, S, Nozaki, T, Yoshitake, H, Lu, S-S. (2024) Additional collecting records of two species of *Derisemias* Jordan (Coleoptera, Anthribidae) from Japan and Taiwan. *Elytra, New Series*, 14(1): 18.

【専門分野の著作】

今田舜介・相馬 純 (2024) 滋賀県におけるルイスグンバイの記録. *Came 虫*, (216): 15.

今田舜介 (2024) 多賀町立博物館所蔵のコウチュウ類の若干の記録. *Came 虫*, (217): 14-15.

今田舜介 (2024) アカアシヒゲナガゾウムシの新寄主記録. *月刊むし*, (644): 2-6. [招待あり]

今田舜介・佐々木恵一 (2024) 北海道におけるシロオビクチボソヒゲナガゾウムシの追加採集例. *月刊むし*, (644): 54-55.

今田舜介・佐々木恵一 (2024) 北海道本土におけるオオメナガヒゲナガゾウムシの採集例. *月刊むし*, (646): 8-9.

今田舜介 (2025) 福岡県の有人島におけるハムシ・ゾウムシ上科の分布記録. *KORASANA*, (104): 106-108.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

今田舜介 (2024年6月21日) ワタミヒゲナガゾウムシ属の寄主利用の解明に向けて. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

Imada, Shunsuke (2024年8月27日) [P0393] Systematics of the tribe Platyrhinini Imhoff from Japan and taxonomic position of the European species *Ulorhinus bilineatus* (Coleoptera: Anthribidae). XXVII International Congress of Entomology, Kyoto. [ポスター発表].

今田舜介 (2024年11月9-10日) 2024年度日本トンボ学会大会 (滋賀大会), 琵琶湖博物館, [実行委員].

今田舜介 (2024年12月15日) 口頭発表. 第14回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, [座長].

今田舜介 (2025年1月19日) 2025年度蜻蛉 (トンボ) 研究会総会・研究発表会, 琵琶湖博物館, [運営].

今田舜介 (2025年3月14日) 資料を未来に引き継ぐ博物館のこれまでとこれから. 龍谷大学生物多様性科学研究センターシンポジウム「ネイチャーポジティブへの挑戦—生物多様性の喪失は誰の問題で誰がどう解くのか」, 龍谷大学大宮キャンパス (京都市), [招待講演].

今田舜介 (2025年3月16日) ヒゲナガゾウムシ科の研究の現状. 日本甲虫学会名古屋例会, 三重県環境学習情報センター (三重県四日市市), [招待講演].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「沖島における甲虫相の解明」, (2024年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本ゾウムシ情報ネットワーク, 編集委員, 2024年6月～.

Weevil Workers Meeting, Featured Researchers, 2024 Spring.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 10件.

電話・インターネットを通じた質問への対応, 50件.

はしかけ運営「虫架け」, 担当.

2024年5月11日, クラウドファンディング第1弾 C展ツアー, 副担当.

2024年7月7日, 里山の夏を楽しむ, 里山体験教室, 野洲市大篠原, 講師. <荒天のため中止>

2024年7月13-14日, 夏休み自由研究応援展, ワークショップ「虫博士と作ろう! 魅惑の昆虫標本」, 近鉄百貨店草津店, 講師.

2024年7月20日, 伊藤忠商事(株)社員親子環境学習ツアー, 荒天時における展示案内, 琵琶湖博物館, 講師. <晴天のため中止>.

2024年7月30日, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.

2024年11月20日, 第4回びわ博ラボ「びわ博秘蔵の昆虫・魚類標本」, ゲスト出演.

2025年2月22日, 令和6年度新琵琶湖学セミナー第2回, 照明係.

他の博物館・機関等の主催行事 (地域連携を含む)

2024年6月22, 24日, 田んぼの生きもの調査, ラ・コリーナ (近江八幡市), 講師 (鈴木隆仁と共同).

メディアへの協力

2025年1月29日, 毎日新聞, トピック展示「トンボ100大作戦」の取材対応.

2025年1月30日, 中日新聞, トピック展示「トンボ100大作戦」の取材対応 (BBN 対応).

2025年1月30日, びわ湖大津経済新聞, トピック展示「トンボ100大作戦」の取材対応 (BBN 対応).

2025年1月30日, びわ湖放送, トピック展示「トンボ100大作戦」の取材対応 (BBN 対応).

2025年2月1日, 読売新聞, トピック展示「トンボ100大作戦」の取材対応 (BBN 対応).

2025年2月7日, 京都新聞, トピック展示「トンボ100大作戦」の取材対応.

2025年2月19日, NHK 大阪「関西ラジオワイド」, トピック展示「トンボ100大作戦」の取材対応 (BBN 対応).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫乾燥標本データベース, 維持管理.

WEB 図鑑「里山のゴミムシ図鑑」, 維持管理.

学芸員個人ページ, 更新.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

動物収蔵庫維持管理, 主担当.
昆虫乾燥標本の収集・整理.
収蔵施設等の温湿度管理に関すること, 副担当.
収蔵施設等の防虫防バイ対策 (清掃を含む) に関すること, 主担当.
二酸化炭素燻蒸, 主担当.
エキヒュームS 燻蒸, 主担当.
資料の受入れ, 副担当.
資料の活用, 副担当.
資料データベースの管理, 副担当.
図書・文献資料の収集・整理, 副担当.
昆虫乾燥標本寄贈受入れ, 3 件.
昆虫乾燥標本特別観覧, 11 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C 展示室, 生きものコレクション, 主担当 (2023 年 10 月～).
C 展示室, 昆虫乾燥標本, 展示更新, 随時.
研究最前線, 展示更新, 随時.
C 展示室, 研究スタジアム, 展示 (2025 年 1 月～).
アトリウム展示「日本トンボ学会大会」, 2024 年 11 月 9 日～11 月 10 日, 展示担当.
アトリウム展示「びわ湖と人々を支える令和 6 年度滋賀県試験研究機関研究発表会」, 2024 年 11 月 23 日～12 月 15 日, 展示担当.
アトリウム展示「トンボ 100 大作戦～滋賀のトンボを救え!」, 2025 年 1 月 28 日～2 月 24 日, 展示担当.
モーニングレクチャー, 赤とんぼ, 1 件 (4 回).
展示交流員と話そう, 赤とんぼに関する内容指導, 1 件.
展示交流員と話そう, オオセンチコガネに関する内容指導, 1 件.

【企画調整活動】

新任職員研修, 動物収蔵庫, 2024 年 4 月 16 日.
新任職員研修, C 展示室生きものコレクション, 2024 年 4 月 18 日.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員 (八尋克郎氏), 受入担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2023 年 4 月～, 滋賀県試験研究機関連絡会議, 幹事.

【館外の活動】

滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会, 委員 (2023 年 4 月～).
滋賀県昆虫目録, 事務局 (2024 年 3 月～).
NPO 法人西日本自然史博物館ネットワーク, 「標本救済ネット」ケースワーカー (2024 年 2 月～).
九州大学総合研究博物館, 協力研究員 (2023 年 4 月～).

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

映像資料, 大橋洋コレクション (大橋 洋氏 撮影:平成時代) の画像整理業務 (35mmネガフィルム 170本 5,406枚分 とフォトCD 287枚 27,306枚分, 画像印刷冊子の製本製作 2冊).

映像資料, 澤田弘行氏撮影のトンボ/花植物/風景/鳥昆虫の スライド画像資料整理業務 (資料総数 9,126枚) (スライド画像資料の受入分類整理番号記入, トンボ/花植物/風景人/鳥昆虫のスライド資料の画像スキャンデータ取込/保存/確認, スライド画像データの再調査・検証).

映像資料, 根来健一郎氏寄贈の微小生物 (プランクトン・珪藻類) フィルム画像の取込・保存 (微小生物 35mmフィルム画像 5本, 英文報告書 35mmフィルム画像 1本のスキャンデータ取込完了・提供).

映像資料, 企画調整課・広報営業課保管の映像資料 (DVD,PCD, 約 130枚) データ入力・登録.

映像資料, 特別観覧対応.

映像資料, 館内館外利用・学芸員利用提供, 33件, 222点.

映像資料, 動画収集・新規動画登録, 3件, 131点.

映像資料, 映像収蔵庫の収蔵資料の整理・記録確認・維持管理.

映像資料整理室・映像収蔵庫・写場の電気安全・消防設備点検, 3回, 空調設備点検, 3回.

映像収蔵庫天井のLED照明取付工事・立会確認, 2回.

映像収蔵庫・写場の定期清掃, 12回.

映像収蔵庫前廊下の定期清掃, 6回.

IPM・生物環境調査:昆虫トラップ設置・回収, 3回.

避難訓練及び地震初期対応訓練, 2回.

印刷物

【専門分野の著作】

杉山紗南・妹尾裕介・細川真理子 (2024) 考古資料と 3D モデル ―博物館資料としての活用と課題―. *淡海文化財論叢*, 16, 9-14.

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

考古資料整備, 整理・燻蒸.

資料データベース (松原内湖遺跡・土器) の作成, 調査・準備・登録, 2,000 件.

歴史資料整備, 整理・写真撮影・燻蒸.

歴史資料管理台帳, 整備, 入力, 373 件.

資料データベース (絵図・絵画・典籍・文書) の作成, 調査・準備, 119 件.

定期収蔵庫清掃 (考古収蔵庫・特別収蔵庫・一時保管庫), 24 回.

定期清掃 (収蔵庫廊下), 6 回.

定期清掃・点検 (B 展示室), 40 回.

特別清掃 (トラックヤード), 3 回.

大掃除 (B 展示室・おとなのディスカバリールーム・歴史資料整理室), 1 回.

防虫防霉調査, トラップ設置回収, 3 回.

生物発生履歴の整備, 入力, 51 件.

虫発見報告ポスター製作, 掲示.

乳剤散布, 4 回.

ph 測定 (7 ヶ所), 2 回.

パッシブインジケータ (アンモニア・有機酸) 調査, 1 回.

収蔵庫の温湿度記録計用紙交換 (2 ヶ所), 12 回.

B 展示室のおんどとりデータ吸い上げ (3 ヶ所), 7 回.

企画展示室の温湿度記録計用紙交換 (2 ヶ所), 7 回.

企画展示室のおんどとりデータ吸い上げ (3 ヶ所), 2 回.

企画展示室の壁面ケースの簡易燻蒸 (8 ヶ所), 1 回.

トラックヤード大雨対策作業.

産業廃棄物処理作業.

博物館パンフレット一斉発送作業.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

企画展示「湖底探検Ⅱ―水草の草原を追う―」第 32 回 (2024 年 7 月 20 日～11 月 24 日), 展示協力.

収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示 重要文化財・琵琶湖博物館所蔵東寺文書展 室町時代のお手紙の作法―礼紙 (らいし) と封紙 (ふうし) ―」第 23 回 (2024 年 5 月 21 日～7 月 28 日), 展示補助.

収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示 唐橋遺跡と古銭」第 24 回 (2024 年 7 月 30 日～10 月 6 日), 展示補助.

収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示 汽船に乗って竹生島へ」第 25 回 (2024 年 10 月 8 日～11 月 24 日), 展示補助.

収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示 湖畔のにぎわい―「湊はん志やう画卷」の世界―」第 26 回 (2024 年 11 月 26 日～2025 年 1 月 19 日), 展示補助.

研究活動に関する業績

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年度博物館実習，資料活用係，準備・実習補助，琵琶湖博物館(2024年8月21日)。

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2024年6月22日，収蔵庫見学対応，博物館学について(京都文教大学)。

2024年7月12日，特別観覧対応，北比良石屋用具について(京都芸術大学)。

2024年8月22日，特別観覧対応，淡水真珠について。

2024年11月15日，特別観覧対応，石工道具について(滋賀県石材組合連合会)。

2024年7月26日，「今後の燻蒸に関するヒアリング」参加(於琵琶湖文化館)，1回。

研究会「滋賀民俗」準備，3回。

橋本鉄男旧蔵資料整理(日記のスキャン46冊・写真のチェック)。

民俗資料整備，整理・クリーニング・燻蒸。

民俗データベース(南小松の石工用具・山口家和竿コレクション・清定楼資料・売薬用具・小幡人形等)，作成・準備。

民俗データベースの登録内容の修正。

研究倫理研修打ち合わせテーブル起こし，1件

有形民俗文化財調査・資料受け取り(米原1回・東近江3回・彦根1回)。

無形民俗文化財調査(瀧樹神社ケンケト踊り・和邇祭り・流星・左義長祭り)。

野焼きの補助，1回。

LED化工事準備・立ち合い(民俗収蔵庫1・民俗収蔵庫2)，2回。

舟の包み込み燻蒸の補助，1回。

定期収蔵庫清掃(民俗収蔵庫1・民俗収蔵庫2)，11回。

定期収蔵庫清掃(環境収蔵庫)，1回。

定期清掃・点検(B展示室)，47回。

定期清掃(収蔵庫廊下)，7回。

大掃除(B展示室・大人のディスカバリー・歴史資料整理室)，1回。

特別清掃(トラックヤード・書庫・屋上・観察池)，1回。

産業廃棄物処理作業，2回。

生物環境調査，トラップ設置回収(民俗収蔵庫1・民俗収蔵庫2)，3回。

収蔵庫おんどとりデータ吸い上げ(2カ所)。

防災センターDVDデータ吸い上げ(週1回)。

収蔵庫担当者会議，報告，3回。

博物館パンフレット、ポスター等一斉発送作業，1回。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

トピック展示(B展示室収蔵品紹介コーナー)第27回学芸員のこだわり展示「驚き！琵琶湖で育った真珠」(2025年1月25日～3月16日)，展示補助。

トピック展示(B展示室収蔵品紹介コーナー)第28回学芸員のこだわり展示「民具を作る民具―初公開！八日市の柄屋用具―」(2025年3月18日～5月18日)，展示補助。

第32回企画展示「湖底探検Ⅱ―水中の草原を追う―」(2024年7月20日～11月24日)，展示補助。

第33回企画展示「埋もれた堤―古地図が語る村の治水史―」(仮)(2025年7月19日～11月24日)，ジャカゴ製作補助。

印刷物

【学術論文】

Takahashi, K., Pokharel, S. S., Kinoshita, K., Ishiwata, K. and Soeda, Y. (2024) A newly discovered woolly mammoth molar from off the Notsuke Peninsula in Hokkaido, Japan. *Journal of Fossil Research*, 57, 50-57.
山崎 健・高橋啓一・新美倫子・川田伸一郎・山口欧志・江田真毅・米田穰（2025）正倉院宝物特別調査 動物由来素材（牙甲角）調査報告. *正倉院紀要*, 第47号, 3-94.

【専門分野の著作】

高橋啓一（2024）地域社会の交流の場としての県立博物館の役割－琵琶湖博物館を例として. In: *特集 現代社会が求める博物館*. 日本の科学者, 59, 675-680.

【一般向けの著作】

高橋啓一（2025）古代湖としての琵琶湖“その思いもよらない世界”. *大津市医師会会誌*, Vol. 48, no. 2, 2-3.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

株式会社日立製作所研究開発グループ「非破壊 X線検査技術の研究」, 共同研究者（2024年10月9日～2025年3月31日）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

化石研究会 運営委員.

Book of Abstracts of the 5th Palaeontological Virtual Congress の査読, 1件.

茨城県親善博物館研究報告の査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事（地域連携を含む）

2024年5月18日, 「日本の哺乳類のおいちを考える－これまでの研究生活を振り返りながら－」, 高橋名誉館長退職記念講演会, キラリエ草津, 講師.

2024年6月2日, 「古代湖としての琵琶湖～400万年の歴史～」, 日本大学校友会滋賀県支部総会講演会（日本大学校友会滋賀県支部）, びわ湖大津プリンスホテル, 講師.

2025年1月18日, 「ナウマンゾウサミットの趣旨」, 全国ナウマンゾウサミット（第1回）（全国ナウマンゾウサミット委員会）, 日本橋浜町Fタワーホール, 講師.

2025年2月1日, 「古代湖としての琵琶湖～その思いもよらない世界～」, 大津市医師会創立150周年記念講演（大津市医師会）, びわ湖ホテル, 講師.

2025年3月15日、「アケボノゾウとナウマンゾウがいるデラックスなまち多賀町の魅力について」、シガタガゾウのサト実行委員会，講師。

視察等への対応

2024年7月18日，館内案内，東京都中央区議会行政施設。

2025年2月13日，館内案内，東京都千代田区地域振興部文化振興課，2名。

メディアへの協力

2024年10月24日～2025年3月31日，NHKエンタープライズ，ステゴテトラベロドンのCG制作監修。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

地学収蔵庫の収蔵品の整理 25回。

他の博物館・機関等の活動

別海町郷土資料館，別海町ゾウ臼歯化石鑑定・年代測定のための試料採取及び共同研究（2024年5月17日～2024年12月31日）。

多賀町立博物館，アケボノゾウ化石の記載（2024年5月～2025年3月）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県立琵琶湖博物館名誉館長（2024年4月1日～）。

雲南大学，客員教授（2019年6月13日～2024年6月12日）。

アケボノゾウ化石多賀標本保存活用計画策定委員会委員，委員長（2024年6月11～）。

正倉院宝物特別調査員 動物由来素材「牙甲角」報告書執筆（2024年4月1日～2025年3月31日）。

高島市指定管理者候補者選定委員会委員長（2022年10月1日～2027年9月30日）。

5th Palaeontological Virtual Congress, scientific committee（2025年3月10日～25日）。

全国ナウマンゾウサミットの開催（東京都中央区日本橋浜町） 世話人（2025年1月18日）。

印刷物

【一般向けの著作】

中島経夫 (2024) きっかけはコイの歯から 魚と米と人のかかわり. サンライズ出版, 彦根, 194 pp.

中島経夫・高橋啓一 (2025) 水棲動物の化石. In: 琵琶湖ハンドブック改訂検討チーム (編), 琵琶湖ハンドブック
四訂版, 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課, 大津, pp. 130-131.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2024 年度, 琵琶湖博物館名誉学芸員.

2024 年度, 琵琶湖博物館特別研究員.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2024 年度，琵琶湖博物館名誉学芸員.

2024 年度，琵琶湖博物館特別研究員.

【館外の活動】

滋賀県，滋賀県環境審議会，環境企画部会，委員（2022 年 6 月～2024 年 5 月）.

滋賀県，滋賀県環境審議会，自然環境部会，部会長（2022 年 6 月～2024 年 5 月）.

（独）水資源機構，近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会，委員（2024 年 9 月～2025 年 8 月）.

（独）水資源機構（関西・吉野川支社）河川水辺の国勢調査（ダム湖編），アドバイザー（2024 年 4 月～2025 年 5 月）.

国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所，瀬田川整備検討委員会，委員，（2024 年 3 月～2026 年 2 月）.

環境省自然環境局，希少野生動植物種保存推進員（2024 年 7 月～2027 年 6 月）.

印刷物

【学術論文】

用田政晴（2024）畿内外縁部の古墳時代首長一播磨と近江の結界と渡津・船津一．*淡海文化財論叢*（淡海文化財論叢刊行会），16：28-34.

用田政晴（2025）歴史教科書にみる五色塚古墳と明石海峡大橋写真の意義—舞子・松帆砲台との関係—．*人文学部紀要*（神戸学院大学人文学部），45:131-141.

【専門分野の著作】

用田政晴（2024）*現場の博物館学を楽しむ—人文知の発見と成長—*，神戸学院大学出版会，神戸，229 pp.

【一般向けの著作】

用田政晴（2025）湖上交通史．In: 琵琶湖ハンドブック改訂検討チーム（編），*琵琶湖ハンドブック四訂版*，滋賀県琵琶湖環境部環境政策課，大津，pp. 58-59.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

アジア考古学研究機構「アジアの考古と民俗」（研究代表者：用田政晴），研究代表者（2024年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構，代表.

日本民具学会，評議員.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

神戸学院大学人文学部，教授.

神戸学院大学博物館学芸員課程，主任.

神戸学院大学大学院人間文化学研究科人間行動論講座，

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2024年度，琵琶湖博物館名誉学芸員.

2024年度，琵琶湖博物館特別研究員.

印刷物

【学術論文】

Olesen, J., Grygier, M. J., Palero, F., Dreyer, N., Eibye-Jacobsen, D. and Fujita, Y. (2025) Abundance survey of crustacean “y-larvae” (Thecostraca: Facetotecta) over a fringing reef in Okinawa, Japan, with special reference to the two dominant planktotrophic and lecithotrophic naupliar types. *Marine Biodiversity*, 55, Springer & Senckenberg Gesellschaft für Naturforschung, 9,

【一般向けの著作】

Grygier, M. J., Olesen, J. & Dreyer, N. (2024) Y 幼體: 遍布沖繩與臺灣的神祕浮游生物, 但卻沒人知道牠們會長成什麼! Y-larvae: abundant planktonic crustaceans in Okinawa and Taiwan. Nobody knows what they grow up to be! *奧秘海洋 The Omics in the Ocean*, 124, 國立海洋生物博物館 National Museum of Marine Biology & Aquarium: 48-57.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Olesen, J. and Grygier, M. J. (2024年5月30日) Extraordinary taxonomic diversity of marine planktonic “y-larvae” (Crustacea: Facetotecta) from Sesoko Island, Okinawa, Japan, illustrated with videos of many forms. The Crustacean Society Summer Meeting 2024, 中央研究院 Academia Sinica (台湾台北市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

(デンマーク) Carlsberg Foundation, 『Global diversity of “y-larvae” — a 100+ year old enigma in marine biology』 (研究代表者 Jørgen Olesen), 共同研究者 (2023年1月~2025年12月).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

The Crustacean Society, *Journal of Crustacean Biology*, Associate Editor, 査読, 6件.

Springer, *Systematic Parasitology*, Editorial Board Member, 査読, 1件.

Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, *Zoosystematica Rossica*, Editorial Board.

(2024年4月1日更新) 国立科学博物館, *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology)*, 編集委員.

(2024年8月21日任期満了) 動物命名法国際審議会, *Bulletin of Zoological Nomenclature*, Assistant Editor.

Bulletin of Zoological Nomenclature (動物命名法国際審議会), 査読, 1件.

Diversity (MDPI), 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示「琵琶湖博物館研究最前線」, パネル更新, 1件.

館内人事、館外活動等に関すること

【館内の人事】

2024 年度，琵琶湖博物館名誉学芸員.

2024 年度，琵琶湖博物館特別研究員.

【館外の活動】

(台湾) 国立海洋生物博物館，特聘講座 (Distinguished Researcher)，(2024 年 5 月 1 日更新).

(米国) スミソニアン研究所国立自然史博物館，協力研究員，(2021 年 5 月 14 日～2024 年 5 月 14 日).

(米国) ロサンゼルス郡立自然史博物館 研究・資料部 (甲殻類研究科)，協力研究員，(2024 年 6 月 21 日更新).

動物命名法国際審議会，委員，(2006 年 8 月 21 日～2024 年 8 月 21 日).

動物命名法国際審議会，分子データタスクフォース，メンバー，(2024 年 7 月 3 日～2024 年 9 月 6 日).

(独立行政法人) 日本学術振興会，第 40 回国際生物学賞，審査委員会，委員，(2024 年 1 月 4 日～2024 年 9 月 3 日).

(米国) ロサンゼルス郡立自然史博物館 研究・資料部 (棘皮動物研究科)，協力研究員，(2024 年 10 月 15 日更新).

特別研究員 (研究テーマ : 外来鳥類の生態)

印刷物

【学術論文】

Masunaga, K. & Amano, H.E. (2024) First discovery in Japan of a dolichopodid fly of the genus *Hypocharassus*, a genus with a disjunct distribution in East Asia and eastern North America. *XXVII International Congress of Entomology*, Abstract Book. 2417-2418.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

Masunaga, K. & Amano, H. E. (2024年8月28日) First discovery in Japan of a dolichopodid fly of the genus *Hypocharassus*, a genus with a disjunct distribution in East Asia and eastern North America. XXVII International Congress of Entomolog, 京都市, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

文部科学省科学研究費 基礎研究(C)「希少な塩性湿地の水生双翅目昆虫の種多様性の解明と生態系保全に向けた環境指標種化」(研究代表者: 榎永一宏), 研究協力者(2022年度~2024年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, 琵琶湖博物館, 鳥類の同定 5件.

他の博物館・機関等主催行事 (地域連携を含む)

2024年6月1日, ホタルの生態について, 環境講座「ホタル観察学習会」, 栗東市教育委員会生涯学習課, コミュニティセンター金勝 (栗東市), 講師.

2024年6月7日, ホタルの生態について, 環境講座「ホタル観察学習会」, 栗東市教育委員会生涯学習課, コミュニティセンター葉山 (栗東市), 講師.

2024年11月17日, 「ソウシチョウの生態研究に基づく特定外来生物指定への経緯 なぜソウシチョウは特定外来生物に指定されたの?」, 大阪自然史フェスティバル2024シンポジウム「四国のサンジャク対策を事例に、外来種問題の抜本的な解決に向けた意見交換を」, 大阪市立自然史博物館 (大阪府), パネリスト.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県, 生きもの総合調査委員会鳥類部会, 専門委員 (2021年4月~).

生態学会, 外来種対策作業部会, 部会員 (2023年3月~).

日本鳥学会, 選挙システム検討ワーキンググループ, 構成員(2024年7~8月).

項目に該当するものなし

印刷物

【一般向けの著作】

池田 勝（2024～2025）ちこあそ（ちっちゃなこどもの自然あそび）. はしかけニューズレター, 琵琶湖博物館, 176 : 11-12, 177 : 10-11, 178 : 11-12, 179 : 8-9, 180 : 12, 181 : 9.

池田 勝（2024）地元も流域も学びの場に. *Mother Lake Goals Evaluation Report シン・びわ湖なう 2024* (マザーレイクゴールズ学術フォーラム), 29-30.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2024年4月17日～2025年3月19日, ちっちゃなこどもの自然あそび「ちこあそ」, はしかけ活動, 琵琶湖博物館, 企画広報運営, 12件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2024年4月1日～2025年3月30日, 実習「自然体験型教育」, スキニシー学校, 子どもと大人のフリースクール, 運営, 123件.

2024年4月14日～2025年3月16日, にちようの森, せた♪森のようちえん, 小学生の自然体験活動, 運営, 23件.

2024年4月27日, 実習「志津いきもの自然学校」, 志津里山自然学校, 志津まちづくり協議会・草津市, 馬場町奥村但馬守館跡周辺の山林（草津市）, 講師.

2024年4月28日, 実習「Treeing」, 希望ヶ丘自然体験フェスティバル, 木登りクラブグリーンデイ, 希望ヶ丘公園（蒲生郡竜王町）, 講師.

2024年6月7日, 実習「おおかみ川探検隊」, 総合学習（草津市立南笠東小学校3年生）, 狼川（草津市）, 講師.

2024年6月7日, 実習「十禅寺川の生き物探し」, ESDつながり学習（草津市立玉川中学校2年生）, 十禅師川（草津市）, 講師.

2024年6月12日, 実習「琵琶湖のプランクトン」, 大垣市立上石津中1年生, megumi号（琵琶湖上）, 講師.

2024年6月14日, 実習「十禅寺川の再現ビオトープづくり」, ESDつながり学習（草津市立玉川中学校3年生）, 草津市立玉川中学校（草津市）, 講師.

2024年6月20日, 実習「ネイチャーゲーム」, 生活科（草津市立志津南小学校1年生）, 若草中央児童公園（草津市）, 講師.

2024年6月20日, 講義「琵琶湖概論」, 総合学習（大津市立真野北小学校5年生）, 大津市立真野北小学校（大津市）, 講師.

2024年6月21日, 実習「川の生物観察」, ESDつながり学習（草津市立玉川中学校2年生）, 草津市立玉川中学校（草津市）, 講師.

2024年6月22日, 実習「第1回森でやさしい自然あそびをしよう」, 県営都市公園びわこ地球市民の森（守山市）, 講師.

2024年6月29日, 実習「狼川探検」, 南笠東地域協働合校, 狼川(草津市), 講師.

2024年7月3日, 講義「琵琶湖の葦と湖魚料理」, 総合学習(大津市立下阪本小学校5年生), 大津市立下阪本小学校, 講師.

2024年7月19日, 実習「ネイチャークラフト」, やってみようみとっこ(湖南省立水戸小学校), 湖南省立水戸小学校, 講師.

2024年7月28日~7月29日, 実習「徳之島エコツアー」, NPO法人かごしま子どもと自然研究所, 大島郡徳之島町(鹿児島県), 運営.

2024年8月8日~8月9日, 実習「じゅらくの里キャンプ」, 三幸株式会社, 湖南省じゅらくの里(湖南省), 講師.

2024年8月11日, 実習「川遊び」, NPO法人かごしま子どもと自然研究所, 郡山町八重山(鹿児島県), 運営.

2024年8月22日, 実習「水質調査」, 龍谷大学附属平安中学校1年生, megumi号(琵琶湖上), 講師.

2024年9月6日, 実習「水質調査」, 日本理科教育学会, megumi号(琵琶湖上), 講師.

2024年9月27日, 実習「自然観察」, 生活科(大津市立下阪本小学校2年生), 比良げんき村(大津市), 講師.

2024年10月11日, 実習「外来魚の解剖」, ESDつながり学習(草津市立玉川中学校2年生), 草津市立玉川中学校(草津市), 講師.

2024年10月12日, 実習「竹細工」, ティーチャーインキャブ, スキニシー学校(栗東市), 講師.

2024年10月25日, 実習「水質調査」, 大阪府立住吉高校1年生, megumi号(琵琶湖上), 講師.

2024年11月1日, 実習「体験のまとめ」, ESDつながり学習(草津市立玉川中学校2年生), 草津市立玉川中学校(草津市), 講師.

2024年11月12日, 実習「ネイチャーゲーム」, 生活科(大津市立富士見小学校1年生), 大津市立富士見小学校(大津市), 講師.

2024年11月14日, 実習「ネイチャーゲーム」, 生活科(大津市立富士見小学校2年生), 大津市立富士見小学校(大津市), 講師.

2024年11月15日, 実習「ネイチャーゲーム」, 生活科(草津市立志津南小学校1年生), 若草中央児童公園(草津市), 講師.

2024年11月23日, 実習「第2回森で楽しい自然あそびをしよう」, 県営都市公園びわこ地球市民の森(守山市), 講師.

2024年12月24日~12月28日, 実習「西表島エコツアー」, NPO法人かごしま子どもと自然研究所, 八重山郡西表島(沖縄県), 運営.

2025年1月18日, 実習「森遊びの楽しさ講座」, 森づくり指導者講座(応用編), 県営都市公園びわこ地球市民の森(守山市), 講師.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 岩木真穂 (2024年7月6日) 湖の水位変動から見えてくるものとは?—琵琶湖とその集水域における降水滞留時間の推定, 諏訪臨湖実験所一般施設公開 (長野県諏訪市), [ポスター発表].
- 岩木真穂 (2024年7月13日) どれほど前の降水が現在の湖の水位に影響を及ぼすのか?, 信州大学理学部物質循環学科座談会 (長野県松本市), [ポスター発表].
- 岩木真穂 (2024年10月19–20日) 琵琶湖とその集水域における降水滞留時間の推定, 日本陸水学会 88回大会熊本大会, 熊本大学 (熊本市), [口頭発表].
- 岩木真穂・岩田拓記 (2024年10月19–20日) 諏訪湖の静振, 日本陸水学会 88回大会熊本大会 (熊本市), [ポスター発表].
- 岩木真穂・岩田拓記 (2024年12月7–8日) 湖の静振について—諏訪湖の地震静振の事例, 日本陸水学会甲信越支部会第50回研究発表会 (山梨県鳴沢村), [ポスター発表].
- 岩木真穂・岩田拓記・宮原裕一 (2025年2月21日) 諏訪湖の地震静振と木崎湖の内部静振について, 2024年度山岳科学年次報告会, 信州大学松本キャンパス (長野県松本市), [ポスター発表].
- 岩木真穂・岩田拓記. (2025年2月27日) 諏訪湖の静振, 諏訪湖連絡会, 諏訪湖環境研究センター (長野県岡谷市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明 (研究代表者: 亀田佳代子), 共同研究者, 琵琶湖班 (2024年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- Inland Waters (International Society of Limnology), Associate Editor.
Scientific Reports, 査読, 1件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2024年8月6–8日, 信州大学理学部, 全国公開臨湖実習③.
2024年8月18–20日, 信州大学理学部, 全国公開臨湖実習①.
2024年8月26–30日, 信州大学理学部, 全国公開臨湖実習②.

印刷物

【専門分野の著作】

上中央子（2025）植物遺体からみた古代都城・都城周辺の植生景観 - 植物遺体分類群リスト -. 京都府立大学文化遺産叢書, 34:351 - 356.

上中央子（2024）遺跡花粉データベースからみた奈良盆地の植生と木材利用の関わり. 琵琶湖博物館研究調査報告, 37:33-42.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業（基盤 C）「植物遺体群からみた古代都城における草本植物相に関する基礎的研究」（研究代表者：滋賀県立琵琶湖博物館・上中央子），研究代表者（2022 年度～2024 年度）.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024 年 7 月 24 日、8 月 21 日，守山市在住小学生対象，植物採集とさく葉標本の作製（弥生の草花標本づくり），守山市下之郷史跡公園.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

大阪市文化財協会，共同研究員（2023 年度～2024 年度）.

印刷物

【学術論文】

池谷透, 石田卓也, 易容, 伴修平, 大久保卓也, 奥田昇 (2024) 琵琶湖周辺内湖の再生と保全 (第1報): 平湖・柳平湖の水質改善と滞留時間調整の検討. *自然環境復元研究*, 14(1), 17-29.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/nrcs/14/1/14_17/_article/-char/ja/

【一般向けの著作】

大久保卓也 (2024) 第3部 濁水の状態および原因にかかる調査 (滋賀県立大学による調査), 「高時川における長期濁水の原因調査及び対策に関する報告書」, *高時川濁水対策連絡調整会議*, 22-28.
<https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5462206.pdf>

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

大久保卓也 (2025年3月29日) 2022年8月豪雨後の高時川の長期濁水に関する調査の経緯. 水資源・環境学会 冬季研究会「高時川濁水問題解決のための展望」, 長浜バイオ大学 (滋賀県長浜市), [口頭発表・パネリスト].

大久保卓也 (2024年8月16日) 湖の貧栄養化に伴う生態系の変化. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

印刷物

【学術論文】

近藤紀明・柏尾珠紀・松本邦彦 (2025) 琵琶湖の漁獲高データは文化的景観の変化を示す指標となりうるか?, 都市計画報告集, 23(4): 625-631.

【専門分野の著作】

柏尾珠紀 (2024) 青森県下北地域の食となれずしー森林鉄道のあった昭和時代の聞き取りからー. 滋賀の食事文化研究会年報, 33: 9-13.

近藤紀明・柏尾珠紀・松本邦彦 (2024) 湖魚の消費と流通の実態解明ー琵琶湖の固有種に着目してー. 滋賀大学環境総合研究センター年報, 21(1): 65-66.

【一般向けの著作】

柏尾珠紀 (2024) 2023年度第2回調査近江のナレズシ県民大調査結果報告. フィールドレポーターだより!!, 通巻58号: 1.

柏尾珠紀 (2025) フナズシのいまーフィールドレポーターの「近江のナレズシ県民大調査」をふまえてー. 江戸時代のフナズシに、挑戦する. 研究報告会発表要旨, 10-11.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

岩佐光広・赤池慎吾・柏尾珠紀 (2023) 下北半島における国有林森林鉄道の住民利用に関する予備的考察ー川内森林鉄道を事例にー. 高知大学学術研究報告, 72: 1-16.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業「森林鉄道のインフォーマルな生活利用の民衆史: 高知・青森・秋田の女性の語りをもとに」(研究代表者: 高知大学・岩佐光弘), 研究分担者 (2021年度~2024年度).

滋賀大学環境総合研究センタープロジェクト「滋賀県における製菓業からみた菓子の地域的特徴と変容過程」(研究代表者: 滋賀大学 DS・AI イノベーション研究推進センター・近藤紀章), 研究分担者 (2024年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本村落研究学会, 村落社会研究ジャーナル編集委員, 2024年4月~.

季刊学術誌農業と経済, 責任編集者, 2024年10月~.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年10月~2025年2月, 滋賀大学経済学部, 近江とびわ湖.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2024年6月1日、フィールドレポーター交流会、「近江のナレズシ県民大調査」、琵琶湖博物館、[コメンテーター].
2025年3月15日、研究報告会「江戸時代のフナズシに、挑戦する」、琵琶湖博物館、「フナズシのいまーフィールドレポーターの「近江のナレズシ県民大調査」をふまえてー」、[口頭発表].

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

京都府農村振興課日本型直接支払制度、支援委員(2015年4月～).
滋賀県緑化推進会、委員(2015年10月～).
滋賀県流域治水推進審議会、委員(2023年10月～).
滋賀県農村振興交付金制度審議会、委員(2023年10月～).
認定NPO法人びわこ豊穰の郷、理事(2016年6月～).
近畿農政局女性農業委員座談会、オブザーバー(2023年10月～).

印刷物

【学術論文】

- Kashiwaya, K., Liu, S. H., Ochiai, S., Lin, J.C., Fukushi, K. (2024) Hydro-geomorphological changes in an artificial modified lake-catchment system inferred from lacustrine sediments of Ri-Yue Tan (Sun Moon Lake), central Taiwan. *Environmental Earth Sciences*, 83:405.
- Fukumoto, Y., Ochiai, S., Kashiwaya, K. (2024) Response of diatom and cladoceran assemblages to artificial modifications on Sun-Moon Lake over the past century. *Journal of National Taiwan Museum*, 77 (3):19-36.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- Kashiwaya, K. (2024) Lacustrine sediment information and estimation of erosional force: 18th EETW, October, Matsue, Japan.
- J. Novak, A. Prokopenko, P. E. Tarasov, J. M. Russell, E. R. Lindemuth, K. Shichi, K. Kashiwaya, J. Peck, R. S. Vachula, G. E. A. Swann, P. J. Polissar (2024) Records of Late Neogene Cooling, Ecosystem Turnover, and Permafrost Expansion from Lake Baikal, Russia: GU24 Meeting, Washington, D.C., USA.

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費助成事業 (基盤B) 「近過去の豪雨・地震・火山活動に伴う土砂流出イベント履歴の推定」 (研究代表者: 落合伸也), 研究分担者(2022年度~2024年度).

印刷物

【一般向けの著作】

- 桑原雅之 (2024) 水の循環と命のつながり～アユの記録的な不漁から. *湖国と文化* ((公財)びわ湖芸術文化財団), (188): 40-41.
- 桑原雅之 (2024) びわ湖からの手紙～ビワマスの食生活～. *びわ湖トラストたより 2024 年春号* (認定 NPO 法人びわ湖トラスト), (188): 6.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 桑原雅之 (2024 年 11 月 16 日) ビワマスを追って!. 海洋研究所 UWA45 周年記念研究会, 愛媛大学, [口頭発表].
- 桑原雅之 (2024 年 12 月 11 日) 水中ドローンを使った湖底生物定量調査の試み. 第 1 回フィールドサイエンス・リトリート, 京大大学生態学研究センター(滋賀県大津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 公益財団法人日本生命財団 2023 年度若手研究・奨励研究助成「琵琶湖の底層貧酸素化が底生生物 3 種に与える影響を可視化する」(研究代表者: 龍谷大学・山中裕樹), 共同研究者 (2023 年 10 月～2024 年 9 月).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 10th International Charr Symposium in Japan, 幹事.
- Fisheries Science (日本水産学会) の投稿論文の査読, 1 件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2024 年度, 大阪 ECO 動物海洋専門学校 (ドルフィントレーナー専攻, 1 年), アニマルベーシック.
- 2024 年度, 大阪 ECO 動物海洋専門学校 (ドルフィントレーナー専攻, 水族館・アクアリスト専攻, 1 年), 水族館研究.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の主催行事 (地域連携を含む)

- 認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト, 2024 年度ジュニアドクター育成塾船上講座および座学, 講師, 9 件.
- 2024 年 8 月 25 日, 奥琵琶湖の絶景の中での漁業体験 (滋賀大学教育学部 教授 石川俊之), 尾上漁港(朝日漁業協同組合) (長浜市湖北町尾上), 実施協力・講師.
- 2024 年 9 月 28 日, アユの産卵場所の見学 (滋賀大学教育学部 教授 石川俊之), 安曇川人工河川 (高島市安曇川町北船木), 実施協力・講師.
- 2024 年 10 月 27 日, 琵琶湖固有種ビワマスの増殖事業の見学会 (滋賀大学教育学部 教授 石川俊之), 滋賀びわ湖漁業協同組合三和支所 (高島市安曇川町四津川), 滋賀県漁業協同組合連合会高島事業場 (高島市マキノ町知内), 百瀬漁業協同組合 (高島市マキノ町知内), 実施協力・講師.
- 2025 年 3 月 23 日, ジュニアドクター育成塾研究成果発表会, 審査委員.

メディアへの協力

- 2024 年 12 月 13 日, NHK 「ギョギョッとサカナ★スター～ビワマス～」, 監修, (2024 年 6 月～10 月).
- 2025 年 3 月 24 日, MBS 「よんちゃん TV 憤まん」, 取材, (2025 年 3 月 13 日).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト，理事.

認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト，はっけん号補修委員会委員.

認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト，ブルーパール賞選定委員会委員.

印刷物

【学術論文】

新海拓郎（2025）大和平野における金魚のため池養殖の展開と再編成—ため池を管理する地域社会との関係性からの考察—（上）. *近畿民俗*, 191号：1-22.

【一般向けの著作】

新海拓郎（2024）金魚救い. *月刊みんぱく*, 48巻7号 p. 7.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

島田 康人, 市川 俊輔, 新海 拓郎, 中井 美早, 臧 黎清, 深田 一剛, 勝崎 裕隆, 西村 訓弘（2025年3月18日）ゼブラフィッシュ新規水槽試験を用いた天然物由来抗不安成分の探索. 第130回日本解剖学会/第102回日本生理学会/第98回日本薬理学会合同大会（APPW2025）, 幕張メッセ（千葉市）, [ポスター発表].

新海拓郎, 井上愛, 中井美早, 盛田健人, 島田康人（2025年3月17日）確率モデルと機械学習を用いたゼブラフィッシュの不安行動解析の精度向上. 第130回日本解剖学会/第102回日本生理学会/第98回日本薬理学会合同大会（APPW2025）, 幕張メッセ（千葉市）, [ポスター発表].

新海拓郎（2025年2月16日）奈良県大和郡山の金魚養殖をめぐる民俗誌——養殖池・生産技術・販売と流通. 日本文化人類学会近畿地区研究懇談会 2024年度修士論文・博士論文発表会, 国立民族学博物館（大阪府吹田市）, [口頭発表].

新海拓郎（2025年1月25日）ため池で金魚を養殖することの難しさ. 近畿民俗学会第47回年次研究大会, 国立民族学博物館（大阪府吹田市）, [口頭発表].

T. Shinkai, L. Zang, N. Nishimura, Y. Shimada, (2024.8.13). The history of ornamental fish Breeding in Japan: Goldfish, Nishikigoi, and Medaka. The 18th International Zebrafish conference, Kyoto, Japan, [Poster presentation].

印刷物

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- Kobayashi, R. & Nakai, T. (2024) Contribution to bryology at the Kyoto Botanical Gardens, celebrating its 100th anniversary. *The Bryological Times* 158: 38-39.
- 小林亮平・秋山弘之 (2024) マゴメゴケ (キブネゴケ科キブネゴケ属) は京都府にも産す. *自然環境科学研究*, 37: 15-17.
- Kobayashi, R., Yamamoto, H., Ishibashi, K. & Shikanai, T. (2024) Critical role of cyclic electron transport around photosystem I in the maintenance of photosystem I activity. *Plant J*, 118(6): 2141-2153.
- 小林亮平・中井貞 (2024) 京都府立植物園のセン類. *日本植物園協会誌* 58: 35-51.
- Basso, Leonardo, Kazuma Sakoda, Ryouhei Kobayashi, Wataru Yamori & Toshiharu Shikanai (2019) Flavodiiron proteins enhance the rate of CO₂ assimilation in Arabidopsis under fluctuating light intensity. *Plant Physiology*, 189(1): 375-387.
- 小林亮平・鈴木直 (2019) ヒトヨシゴケが滋賀県で見つかる. *蘚苔類研究*, 12(2): 56-57.
- 小林亮平 (2019) ホソバノキンチャクゴケが国内2番目の産地として岡山県で新たに見つかる. *蘚苔類研究*, 12(2): 59.
- 畦浩二・道盛正樹・今川邦彦・狩野登之助・佐伯雄史・小林亮平・木村正邦 (2014) 大阪府蘚苔類資料3: 万博記念公園 (吹田市) の蘚苔類. *大阪市立自然史博物館研究報告*, 68: 53-66.
- 小林亮平 (2012) ミヤマウロコゴケが鳥取県で見つかる. *蘚苔類研究*, 10(8): 266-267.
- 小林亮平 (2012) ノコギリコオイゴケが鳥取県で見つかる. *蘚苔類研究*, 10(8): 267.
- 小林亮平 (2012) 白山 (石川県) で見つかったキヌシツポゴケモドキ属の蘚類2種. *蘚苔類研究*, 10(5): 135.
- 小林亮平 (2011) 屋久島 (鹿児島県) で新たに見つかった絶滅危惧蘚類2種. *蘚苔類研究*, 10(2): 56.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 小林亮平・鹿内利治 (2025年3月15日) Photosynthetic control の pH 感受性を調節するシトクロム b6f 複合体 Rieske ISP サブユニットの2つのアミノ酸残基. 第66回日本植物生理学会年会 (日本植物生理学会), 金沢大学 (石川県金沢市) [ポスター発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

メディアへの協力

- 2025年1月16日, 京都新聞 16面「マゴメゴケ関西初確認 一希少で謎多く 府立植物園に自生」, [1月9日, 京都府立植物園にて取材].

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2025年2月12日, 収蔵資料データベース「植物パケット標本」公開, 植物資料整理 (新洲職員) としてデータベース登録～検索結果画面の設定等を担当.

2025年2月25日，英語版収蔵資料データベース公開，植物資料整理（新洲職員）として検索画面の構成等を担当．

館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県生きもの総合調査委員会蘚苔類部会，調査担当者（2023年～）．

印刷物

【学術論文】

小松原琢・本郷美佐緒・古澤 明(2024) 北上山地北部・外山川上流部(大石川)の最終氷期前期堆積段丘. *第四紀研究*, 63 : 127-146.

【専門分野の著作】

内野隆之・小松原琢 (2024) 外山地域の地質. In: 地質調査所(編) *地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)*. 産業技術総合研究所地質情報基盤センター, 茨城県, pp. 111-118.

榎本 祐嗣・小松原 琢 (2024) 天然ガス噴出・火災被害が発生した地震とその地質環境—1923年関東大震災: それ以前の歴史地震そして2024年能登半島地震. *月刊地球*, 海洋出版株式会社, 46 : 842-859.

小松原琢 (2024) 沈降卓越逆断層を起震断層とする地震に伴う地殻変動—ひずみ集中帯における3つの歴史地震—. *月刊地球*, 海洋出版株式会社, 46 : 880-896.

小松原琢 (2025) 三重県津市を襲った2つの地震津波—1498年明応地震と1707年宝永地震の津波—. *月刊地球*, 海洋出版株式会社, 47 : 31-43.

小松原琢 (2025) 地震断層・地表変位を生み出した未知・未認定の活構造に伴う歴史地震. *月刊地球*, 海洋出版株式会社, 47 : 103-115.

【一般向けの著作】

小松原琢 (2025) 滋賀県・近江国の歴史地震. In: 改定検討チーム(編), *琵琶湖ハンドブック 4訂版*, 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課, 滋賀県, p72-73.

小松原琢 (2025) 地形. In: 改定検討チーム(編), *琵琶湖ハンドブック 4訂版*, 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課, 滋賀県, p116-117.

【インターネットページでの公表】

産業技術総合研究所地質調査総合センター (2025年3月31日) S-8. 海陸シームレス地質情報集「伊勢湾・三河湾沿岸域」. <https://www.gsj.jp/researches/project/coastal-geology/results/s-8.html>, 産業技術総合研究所地質調査総合センター.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

小松原琢 (2024年4月20日) 流入土砂量と沖積層の容積, 河道形態からみた沖積平野の分類. 日本堆積学会研究発表会, 熊本大学(熊本市), [口頭発表].

小松原琢・佐藤善輝・佐藤智之 (2024年9月23日) 伊勢湾沿岸域の活構造—最終間氷期海成泥層上面を基準とする傾動運動認定と断層活動度評価—. 日本地理学会 2024年度秋季学術大会, 南山大学(名古屋市), [ポスター発表].

小松原琢 (2024年11月3日) 花崗岩山地における隆起速度と崩壊準備過程の関係. 日本地形学連合 2024年大会, 鳥取大学(鳥取市), [口頭発表].

小松原琢 (2025年2月9日) 東海層群堆積盆地の第四紀地殻変動の特異性. 琵琶湖博物館地学研究発表会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

小松原琢 (2025年3月19日) 熱田面と碧海面の2分案. 日本地理学会 2024年度春季大会, 駒澤大学, [口頭発表].

小松原琢 (2025年3月20日) 日本地理学会 2024年度春季大会 (地形) 座長. 日本地理学会 2024年度春季大会, 駒澤大学, [座長].

小松原琢 (2024年5月17日) 「琵琶湖はなぜ北進するのか?—近畿三角地帯周辺のプレート運動の特異性について—」, 琵琶湖博物館 2024年度第2回研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【学会等の役職・運営，論文の査読など】

東北地理学会，評議員，2021年度～2025年度。
東京地学協会，総務委員会委員，2021年度～2024年度。
東京地学協会，専門家紹介委員会委員，2023年度～2024年度。
歴史地震研究会，編集出版委員会委員，2014年度～2025年度。

【大学・学校の講義・実習，学生・生徒の指導など】

2024年9月～2025年3月 流通経済大学非常勤講師（全学共通一般教養科目 地球科学Ⅱ）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2024年8月27日「歴史に学ぶ防災の知恵と歴史地震研究の楽しみ」川口市市民大学講座，埼玉県川口市朝日公民館，[口頭発表]。
2025年2月11日，「寛文近江・若狭地震と小浜藩による復興」，福井ライフアカデミー ふるさと未来講座「歴史」，福井県生涯学習センター，[口頭発表]。
2025年2月15日「庄内平野東縁断層帯は「普通の」活断層なのか？～この活断層の特異性と一般性～」東北ジオパーク学術研究者会議，鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会，酒田市市民文化センター，[口頭発表]。
2025年2月16日「庄内平野東縁断層帯巡検」東北ジオパーク学術研究者会議，鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会，山形県遊佐町・酒田市，[巡検現地説明]。

研究活動に関する業績

【学術論文】

井上（辻川）智代（2025）二尊院所蔵の位牌についての一考察. *考古学と文化史 2* 同志社大学考古学シリーズX
IV : 565-576.

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業（基盤研究（C））「広葉樹利用に関する広域民俗誌の研究一籠を中心に一」（研究代表者：辻川
智代），研究代表者（2024年度～2027年度）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営，近江はたおり探検隊，担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

高島市文化遺産活用実行委員会，朽木の知恵と技発見・復活プロジェクト，講師（2015年4月～）.

印刷物

【専門分野の著作】

寺本憲之（2024）滋賀県における農林業・里山の生物多様性を脅かすニホンジカ被害と対策. In: 石井実・平井規央・上田昇平・平田慎一郎・那須義次（編）環境動物昆虫学のすゝめー生物多様性保全の科学ー, 大阪公立大学出版会, 大阪, pp. 315-328.

寺本憲之（2024）ヤママユの森林内の生息分布調査の新手法. 野蚕ー新素材シルクと野蚕機能の研究開発ー, 94: 3-5.

寺本憲之（2024）ヤママユ（天蚕）の寄生蜂, コンボウアメバチ（ヒメバチ科）について. 野蚕ー新素材シルクと野蚕機能の研究開発ー, 95: 9-11.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

寺本憲之（2024年5月11日）ヤママユの系統継代飼育とバージンメスを使った生息分布調査方法. 日本鱗翅学会第168回近畿支部例会, 大阪公立大学 I-site なんば（大阪市）, [口頭発表].

寺本憲之（2024年9月11日）東近江市の自然 動物編ー昆虫・哺乳類ー. 森里川湖エコツアーリズムガイド養成講座（東近江市エコツアーリズム推進協議会・東近江市, 森と水政策課）, 東近江市布引の森（滋賀県）, [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本野蚕学会, 委員, 2003年～現在.

日本鱗翅学会, 近畿支部幹事, 役員会1回（2024年度）, 2004年～現在（本部評議員期間を除く）.

（農林水産省）生物系特定産業技術研究支援センター オープンイノベーション研究・実用化推進事業, 評議員, 審査1件（2024年度）, 2018年～現在.

（公財）衣笠繊維研究所, 衣笠繊維賞「教育部門」, 外部審査委員, 審査1件（2024年度）, 2022・2021・2024年度.

滋賀県ニホンザル第二種特定鳥獣管理計画検討会, 委員, 第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル（第5次（案）））検討3件（2024年度）, 2003年～現在.

東近江市森の文化資源（自然分野）連絡調整（東近江市森の文化博物館構想推進）会議2回, 調査員（鈴鹿山脈の昆虫類の調査5～1月）（2024年度）, 2022年～現在.

滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会, 専門委員, チョウ目（ガ類）滋賀県昆虫目録改訂版を編集（2024年度）, 2003年～現在.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事（地域連携を含む）

2024年5月～6月, 養蚕（桑栽培, 邦楽器糸・真綿原料生産）, 大音 養蚕の里づくり協議会・いをぎ まゆっこ倶楽部, 大音集落・岩脇集落（長浜市・米原市）, 指導.

2024年4月～10月、天蚕飼育（クヌギ栽培，繭生産），守山市，指導.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県立大学 環境科学部，客員研究員.

日本昆虫学会，会員.

日本応用動物昆虫学会，会員.

日本鱗翅学会，会員（近畿支部幹事）.

日本蛾類学会，会員.

日本野蚕学会，会員（委員）.

日本蚕糸学会，会員.

誘蛾会，会員.

民俗文化生物学研究会，会員.

環境省，鳥獣保護管理プランナー.

農林水産省，農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー.

農林水産省，生物系特定産業技術研究支援センター オープンイノベーション研究・実用化推進事業，評議委員.

（公財）衣笠繊維研究所，衣笠繊維賞「教育部門」，外部審査委員.

滋賀県，第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル）検討会，委員.

滋賀県，総合生きもの調査専門委員会，専門委員（昆虫：チョウ目ガ類）.

東近江市，企画部 森の文化博物館整備室，森の文化資源調査員（昆虫）.

東近江市，エコツーリズム推進協議会，エコツーリズムアドバイザー.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

戸田 孝（2024年6月29日）総合博物館とは何か—理工系と自然史系の境界領域について考えるために. 全日本博物館学会第50回研究大会（全日本博物館学会）, 野外博物館北海道開拓の村（札幌市）, [口頭発表].

戸田 孝（2024年9月14日）自然系博物館の「館種」の教育学的意味. 日本科学教育学会第48回年会（日本科学教育学会）, 函館工業高等専門学校（北海道函館市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業基盤研究(C)「地域博物館での科学館活動で抽象的科学原理を扱う方法論の開発」（研究代表者：戸田孝）, 研究代表者（2021～2024年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

陸水物理学会, 運営委員, 2005年～.

陸水学雑誌（日本陸水学会）の投稿論文の査読, 1件.

陸水物理学会誌（陸水物理学会）の投稿論文の査読, 1件.

博物館学雑誌（全日本博物館学会）の投稿論文の査読, 1件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年4月8日～8月5日, 滋賀県立大学環境科学部, 環境物理学II（電磁気学）・講義.

2024年4月11日～7月18日, 滋賀県立大学環境科学部, 環境物理学実験・実験指導.

2024年4月16日～2025年1月14日, びわこ成蹊スポーツ大学, 琵琶湖の環境と科学・講義.

2024年10月3日～10月24日, 滋賀県立大学環境科学部, 人間文化学部, 博物館資料保存論・講義（序論部分）.

印刷物

【学術論文】

- Li, G. -Y., Li, R. -W., Yonezawa, T., Wu, J. -Q., Nishihiro, J., Nakai, K., Wang, G., Gu, Q. and Geng, Y. (2024) Conserved genetic background but geographically differentiated DNA methylation patterns in invasive alligator weed (*Althernanthera philoxeroides*) populations in China and Japan. *Biological Invasions*, 26(7); 1-15.
- Ueno, K., Urabe, M., Nakai, K. and Miura, O. (2024) Genomic evidence of reproductive isolation among the *Semisulcospira* snails radiated in the ancient Lake Biwa. *Journal of Evolutionary Biology*, 20: 1-9.
- 藤田朝彦・細谷和海・中井克樹・向井貴彦・谷口義則・森誠一 (2025) 岐阜県徳山ダム貯水池で生息が確認されたロングイヤーサンフィッシュ (新称) *Lepomis megalotis*. *魚類学雑誌*.

【一般向けの著作】

- 中井克樹 (2024) 陸貝の名産地. ヒメボタルも育む伊吹山. *湖国と文化*, (187): 26-29.
- 中井克樹 (2025) 外来魚. In: 琵琶湖ハンドブック改訂検討チーム (編), *琵琶湖ハンドブック四訂版*, 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課 大津, pp.176-177.
- 自然環境保全課 (2025) 外来生物. In: 琵琶湖ハンドブック改訂検討チーム (編), *琵琶湖ハンドブック四訂版*, 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課 大津, pp.174-175.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 中井克樹 (2024年4月19日) 外来種対策の最近の話題: 外来生物法改正と残された課題. 令和6年度 (2024年度) 第1回琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館 [口頭発表].
- 中井克樹 (2024年7月6日) 第32回研究発表会座長. 滋賀自然環境研究会 2024年度総会および研究発表会, アクティ近江八幡 (近江八幡市), [座長].
- 北川忠生・中井克樹 (2024年7月7日) コンビナー. 日本魚類学会市民公開講座「どう止める? 『バケツ放流』 ~自己満足な放流で魚たちを減らさないために~」, オンライン.
- 中井克樹 (2024年7月7日) 第二部: どう止める? 「バケツ放流」の司会・進行および第三部: パネルディスカッション「『バケツ放流』は止められるのか?」のコーディネーター, 同上.
- 中井克樹 (2024年7月13日) 講演「オオバナミズキンバイの水域生態系への影響と対策」. 第33回環境アセスメント動物調査手法講演会 (日本環境動物昆虫学会), 大阪公立大学 I-site なんば (大阪市), 口頭発表 [依頼講演].
- Nakai, K. (2024年8月10日) Conflicts between emotions and logic, case of releasing fish and its regulation in Japan and other East Asian countries. The 7th Asia Future Conference “Revitalization and Reconnection” (Atsumi International Foundation Sekiguchi Global Research Association) Roundtable Discussion “Animal release problems in Asia: harm caused by introduction of animals into natural environments, with special reference to fish. Faculty of Arts, Chulalongkorn University (Bangkok, Thailand), 口頭発表 [招待講演].
- 中井克樹 (2024年8月24日) 特定外来生物オオバナミズキンバイに対する淀川式除去手法の琵琶湖における適用例. 水草研究会第46回全国集会 (草津), 琵琶湖博物館 [口頭発表].

中井克樹 (2024 年 9 月 18 日) コメント「外来生物法公布 20 年, “違法行為の撲滅” が求められる外来魚をめぐる課題」. 自由集会 10 「ダム湖における外来魚対策の現状と今後の展望—積極的駆除から低密度管理に向けて—」. 応用生態工学会第 27 回さいたま大会, 埼玉会館 (埼玉県さいたま市). [口頭発表].

久保星・山下博康・佐貫方城・白神義章・笹田直樹・村松清・中井克樹 (同上) 苫田ダムにおけるオオクチバスの低密度管理の現状と今後の展開. 同上. [口頭発表].

大杉奉功・笹田直樹・山下博康・坂本正吾・稲川崇史・沖津二郎・中井克樹 (同上) 自由集会 10 「ダム湖における外来魚対策の現状と今後の展望—積極的駆除から低密度管理に向けて—」. 同上. [企画者].

中井克樹 (2024 年 11 月 3 日) 講演「水辺の外来種問題: 昨今の動向と考え方」. 全国フィールドシンポジウム in 沖縄 (応用生態工学会普及連携委員会), ネイチャー未来館 (沖縄県金武町), [企画・講演者].

中井克樹 (2024 年 11 月 3 日) パネルディスカッション「外来種対策の技術, 官民学・地域連携の重要性について」. 同上, [コーディネーター].

中井克樹 (2024 年 11 月 15 日) 特別講演「水辺の外来種問題のいま: 福井・滋賀の事例から考える」. 応用生態工学会第 22 回北信越現地ワークショップ in 福井「福井の水辺の外来種対策の現状と課題」, 福井県立大学交流センター講堂 (福井県永平寺町) [招待講演].

中井克樹 (2024 年 11 月 17 日) 報告「生きものを動かしてしまう私たち: 外来種問題のこれまでとこれから」. シンポジウム「四国のサンジャク対策等を事例に外来種問題の根本的な解決に向けた意見交換を (日本野鳥の会大阪支部・公益社団法人生態系トラスト協会)」, 大阪自然史フェスティバル 2024 (大阪市立自然史博物館), 大阪市立自然史博物館 (大阪市), [招待講演].

中井克樹 (2024 年 12 月 15 日) 講演「水田まわりで進む“南米化”～地球の反対側からつれてこられた“あかんやつ”」. ミニシンポジウム「水田地帯の外来生物に立ち向かう」. 第 15 回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館.

中井克樹 (2025 年 2 月 1 日) 発表「外来魚対策, 法律が変わり, 行動計画・防除指針が見直し中」. 第 20 回外来魚情報交換会 (琵琶湖を戻す会), 琵琶湖博物館.

中井克樹 (2025 年 2 月 2 日) 話題提供「法施行 20 年の効果と課題—オオクチバス指針改定」. 外来生物法施行 20 年直前シンポジウム (全国ブラックバス防除市民ネットワーク・琵琶湖を戻す会), 琵琶湖博物館.

中井克樹 (2025 年 2 月 15 日) 基調講演「外来種対策のための法律, 作ってみた, 変えてみた」. 中池見湿地の今をシェア 子どももおとなもみんなで報告会 (NPO 法人中池見ねっと), 東郷公民館 (福井県敦賀市).

中井克樹 (2025 年 2 月 23 日) 環境変化とカタツムリ. NPO 法人自然観察指導員京都連絡会総会, 京都教育文化センター (京都市), [招待講演].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業 (基盤 C) (一般)「侵略的外来生物対応における不適合メカニズムと政策革新の社会的要因の解明」(研究代表者: 滋賀県立大学環境科学部・上河原献二), 研究分担者 (2024 年度～2026 年度).

環境省特定外来生物防除等対策事業交付金および滋賀県侵略的外来水生植物戦略的防除事業費による琵琶湖外来水生植物対策協議会事業, 事務局担当者 (2023 年度～2025 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本生態学会自然保護専門委員会 外来種問題検討作業部会, 委員, 2001 年 3 月～.

日本生態学会自然保護専門委員会, 近畿地区選出委員, 2013 年 1 月～.

日本生態学会, 生態学琵琶湖賞選考委員・運営委員, 2016 年 11 月～ (第 19 回～).

日本生態学会近畿地区会, 委員 (滋賀県選出), 2024 年 1 月～.

日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員会, 委員, 1998 年～; 委員長, 2021 年 2 月～.

日本魚類学会自然保護委員会, 委員, 2001 年 2 月～.

日本魚類学会自然保護委員会外来魚部会, 部会長, 2014 年 1 月～.

日本貝類学会, 評議員, 2011 年 1 月～.

応用生態工学会普及・連係委員会, 委員, 2009 年 10 月～.

滋賀自然環境研究会, 事務局および会誌編集委員, 2016 年 7 月～.

阪神貝類同好会，理事，2000年1月～。

生物多様性ネットワーク新潟，顧問，2004年10月～。

全国ブラックバス防除市民ネットワーク，理事，2005年11月～；副会長 2023年3月～。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年9月13日，三大学連携オンライン講座「琵琶湖の環境保全ー琵琶湖ツーリズム！大学生が考える環境ボランティアの未来」(関西大学・法政大学・明治大学)における講義「琵琶湖の環境保全：特に侵略的外来種への対策」，オンライン，講師(自然環境保全課職員として)。

2024年10月3日，びわ湖学習・授業「今津の湖岸で学ぶ生きもののかかわりかた」および環境学習I～III(ナガエツルノゲイトウの駆除，ハマヒルガオの保全，湖岸清掃)。今津の自然を学び守る事業(高島市今津地域住民自治協議会・高島市・環境を守るいまづの会ほか)，高島市立今津中学校，今津東小学校，今津北小学校，および今津周遊基地(高島市)，講師(自然環境保全課職員として)。

2024年10月10日，関西大学ボランティア活動支援グループ活動予定地の下見，湖岸緑地北山田1(草津市)での現場確認および関係者との打合せ，案内者(自然環境保全課職員として)。

2024年11月10日，関西大学ボランティア活動支援グループ「琵琶湖ツーリズム！大学生が考える環境ボランティアの未来～滋賀県琵琶湖での外来植物駆除活動～」，湖岸緑地北山田1(草津市)における開会あいさつ，駆除作業指導および活動の講評，講師(自然環境保全課職員として)。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の主催行事(地域連携を含む)

2024年5月26日，開会時あいさつ，駆除活動の支援・指導，および閉会時の講評。第1回瀬田川流域クリーン作戦，瀬田川(大津市)，担当者(自然環境保全課職員として)。

2024年5月18日，解説「琵琶湖の外来種問題の現状」，JAF会員イベント「びわ湖で外来魚を釣り上げよう！」(一社)日本自動車連盟滋賀支部，湖岸緑地志那2(草津市)，講師。

2024年5月29日，水生生物の同定および調査結果の講評。湖南企業いきもの応援団第49回調査会，狼川および郷インテックス株式会社(草津市)，講師[菅原巧太朗と共同]

2024年6月16日，講演「特定外来生物ナガエツルノゲイトウ等の発見時注意事項とその駆除」，水土里ネット滋賀令和6年度湖東支部協議会研修会，マリアージュ彦根(彦根市)，講師。

2024年6月26日，第7回鴨川オオバナミズキンバイ駆除活動の下見および講義「鴨川でのオオバナミズキンバイの駆除活動に向けて」。(京都府自然環境保全課・鴨川を美しくする会・(一社)鴨川流域ネットワーク)，鴨川(京都市下京区・東山区)および京都府京都土木事務所(京都市上京区)，講師(自然環境保全課職員として)。

2024年6月30日，開会時あいさつ，および閉会時の講評。第2回瀬田川流域クリーン作戦，瀬田川(大津市)，担当者(自然環境保全課職員として)。

2024年6月30日，開会時あいさつ，およびオオバナミズキンバイの特徴と駆除方法に関する解説・駆除作業現場での指導。第7回鴨川オオバナミズキンバイ駆除活動(京都府・鴨川を美しくする会・(一社)鴨川流域ネットワーク)，鴨川(京都市下京区)，協力者(自然環境保全課職員として)。

2024年6月30日，「琵琶湖外来水生植物除去大作戦2024」の実施候補地の事前調査(国際ボランティア学生協会)，新旭町のヨシ植栽地(高島市)，指導者(自然環境保全課職員として)。

2024年7月9日，水生生物の同定および調査結果の講評。湖南企業いきもの応援団第50回調査会，狼川および南笠東まちづくりセンター(草津市)，講師[菅原巧太朗と共同]

2024年7月14日，講義「農地・水路における『特定外来水生植物』の影響と対策」および湖岸・寺川・農業水路における特定外来水生植物の観察と除去方法の解説。特定外来水生植物の研修会(法秀院の郷宇賀野環境保全会)，宇賀野会館(米原市)，講師。

- 2024年8月20日、オオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウ除去活動の指導・支援、「琵琶湖外来水生植物除去大作戦 2024」準備のための事前活動（国際ボランティア学生協会）、新旭町のヨシ植栽地（高島市）、指導者（自然環境保全課職員として）。
- 2024年8月30日、講義「北大東島における特定外来生物・ボタンウキクサの防除の考え方」。特定外来生物防除専門家派遣事業（沖縄県北大東村・ボタンウキクサ）（環境省）、北大東村役場（沖縄県北大東村）、講師〔ハイブリッド形式〕。
- 2024年9月4日、池干しで捕獲された魚類等の同定・選別、新名神高速道路橋脚等工事のための太田池の池干し（NEXCO西日本 新名神大津事務所甲賀東）、太田池（甲賀市甲南町）、助言者。
- 2024年9月13日～15日、オオバナミズキンバイ除去活動の支援・指導、「琵琶湖外来水生植物除去大作戦 2024」実施のための現場確認（国際ボランティア学生協会）、深溝・針江ヨシ植栽地（高島市）、協力者（自然環境保全課職員として）。
- 2024年10月15日、水生生物の同定・調査結果の講評。湖南企業いきもの応援団第47回調査会、狼川および郷インテックス株式会社（草津市）、講師〔川瀬正吾・菅原巧太朗と共同〕
- 2024年10月19日、湖南企業いきもの応援団による狼川の水生生物の水槽展示・解説。南笠東学区合同フェスタ2022（南笠東学区）、南笠東まちづくりセンター（草津市）、解説員。
- 2024年10月19日、ギャラリートーク「侘び寂びの螺旋に魅せられて。」「河野甲の立体造形とカタツムリミュージアム館展」、若王子倶楽部左右（京都市左京区）、話者。
- 2024年10月20日、開会時あいさつ、駆除活動の支援・指導、閉会時の講評。第4回瀬田川流域クリーン作戦、瀬田川（大津市）、担当者（自然環境保全課職員として）。
- 2024年10月22日、講演「ナガエツルノゲイトウの生態と被害状況及び防除事例。」令和6年度四国地方外来種対策ブロック会議策定に向けた勉強会（環境省中部四国環境事務所）、休暇村瀬戸内東予（愛媛県西条市）、講師。
- 2024年10月26日、魚類の捕獲および魚種の同定・解説、お魚里帰り大作戦2024。（独）水資源機構琵琶湖開発総合管理所）、新浜ビオトープ（草津市）、講師。〔中尾博行琵琶湖博物館うおの会会長と共同〕
- 2024年11月19日、外来水生植物の除去方法の解説・指導、2024年度県内イオン同友店クリーン活動（イオン湖南店同友店会）、烏丸半島東岸（草津市）、講師（自然環境保全課職員として、同課職員と共同）。
- 2024年12月12日、講義「外来種問題、何が困るの？」、令和5年度たかつき市民環境大学（高槻市）、五領公民館（大阪府高槻市）、講師。
- 2024年12月19日、講義「侵略的外来水生生物への対策（侵略的外来水生生物の琵琶湖や農地への影響、駆除、対策など）。滋賀県保険医協会学習会、滋賀県保険医協会事務所、講師（自然環境保全課職員として）。
- 2025年1月10日、講演「滋賀県における外来水生植物の防除と他地域での事例紹介」。令和6年度印旛沼水質保全協議会・手賀沼水環境保全協議会共催勉強会、千葉県教育会館新館（千葉市）、講師。
- 2025年1月21日、水生生物の同定・調査結果の講評。湖南企業いきもの応援団第48回調査会、狼川および郷インテックス株式会社（草津市）、講師〔川瀬正吾と共同〕。
- 2025年2月9日、講義「北大東島の外来種を知ろう」。第7回北大東村福祉まつり、北大東村立小中学校図書館（沖縄県北大東村）、講師。
- 2025年3月8日、モロコ情報発信および円卓会議、“MLGs②”エコノボイスリッスン「もう6ヶ 琵琶湖への愛を込めてモロコ！と叫ぼう」（エコノボイス滋賀）、講。〔米田一紀・中尾博行琵琶湖博物館うおの会会長と共同〕
- 2025年3月15日、講義「身近な水辺の外来種問題：考え方と最近の動向」。イトヨの里市民講座2025「生物多様性における外来生物の現状と最新情報～私たちが守ろう 身近な自然～」、本願清水イトヨの里（福井県大野市）、講師。

メディアへの協力

- 2024年5月31日、毎日新聞オンライン「梅雨なのにいない？ あの「陸の貝」はどこへ」、カタツムリが近年減少している現状やその原因、対策に関する解説、写真提供〔5月28日電話取材〕。

- 2024年6月18日, NHK ラジオ第一放送 マイあさ! 「外来種とどう向き合うか—外来生物法20年 現状と課題—」中井克樹(滋賀県立琵琶湖博物館 特別研究員), 条件付特定外来生物指定の効果, 琵琶湖の外来水生植物対策, コクチバス分布拡大, 外来種対策の課題等を解説 [生放送・電話インタビュー].
- 2024年6月24日, フジテレビ系全国ネット めざまし8 「田んぼやレンコン畑に “緑の侵略的植物” が大繁殖…米農家悲鳴 河川から侵入か? 茨城県・千葉県など25の都府県で確認」, 特定外来生物ナガエツルノゲイトウの生態的特徴と被害に関するコメント, 写真提供 [6月20日, Zoomによる取材].
- 2024年7月13日, 時事通信社 JIJI.COM 「カタツムリ、どこへ? 近畿では半数が絶滅危機—市街地化や乾燥原因と識者」, 近年の身近なカタツムリの減少要因に関するコメント, 写真提供 [6月10日対面取材].
- 2024年9月4日, 朝日新聞 「マングースの教訓第3回 18匹の子孫は九州各地へ 容易ではない『脱ブラックバス』事情」, 現状への対策の必要性をコメント [8月3日, Zoomによる取材].
- 2024年9月13日, NHK 総合(大津放送局ローカル) おうみ630 「びわ湖の生態系に懸念 外来種の水草を学生たちが駆除 高島」, 国際ボランティア学生協会による活動に関するコメント(自然環境保全課職員として) [9月13日現地取材].
- 2025年2月18日, フジテレビ系全国ネット めざまし8 「なぜ? 川が緑色に変色 カピバラが緑になる被害」, 川におけるシアノバクテリアの増殖に関するコメント [2月17日電話取材].
- 2025年2月20日, 山陽新聞 『地球上で最悪の侵略的植物』ナガエツルノゲイトウ/岡山で初確認/倉敷・小田川の9ヵ所 県など駆除へ」. ナガエツルノゲイトウの対策方針に関するコメント [2月19日電話取材].

【情報整備活動】

他の博物館・機関等の活動

- NHK, 関西ブログ 「2023年6月16日(金)カタツムリ 最近見ないの なんぞなん?」, 出演ニュース番組を基にブログ化. <https://www.nhk.or.jp/osaka-blog/nandenan/667373.html>
- 京都府ホームページ, 京都府外来種データブック(2020)(総合政策環境部自然環境保全課), 原稿執筆等(2024年2月公表). <https://www.pref.kyoto.jp/gairai/databook2020.html>
- Interlochen Public Radio(アメリカ合衆国ミシガン州)ウェブサイト, 「The Prince Fish」, Points Northで公開されたポッドキャストをテキストデータで公開. <https://www.interlochenpublicradio.org/2023-12-08/the-prince-fish>

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 滋賀県立琵琶湖博物館第32回企画展示「湖底探検Ⅱ—水中の草原を追う—」(2024年7月20日~11月24日), 琵琶湖における外来水生植物の生育面積の推移のグラフおよび駆除活動の写真の提供.

他の博物館・機関等の活動

- 狼川産魚類の水槽展示の製作. 南笠東学区合同フェスタ(南笠東まちづくりセンター・湖南企業いきもの応援団). 南笠東まちづくりセンター(草津市)(2024年10月15日).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 滋賀県生きもの総合調査委員会魚貝類部会, 専門委員(1997年~).
- 滋賀県野生動植物との共生に関する検討会, 外来種問題検討委員及び水生生態系部会員(2003年5月~).
- 京都府外来種実態調査専門委員会, 陸淡水産魚貝類担当委員(2016年~).
- 京都府希少野生生物保全推進員(2018年1月~).
- 京都府レッドデータ調査選定・評価委員会, 委員(無脊椎動物部会)(2019年6月~).
- 東京都外来種対策検討準備会, 委員(2023年2月~).
- 環境省希少野生動植物種保存推進員(1997年~).
- 環境省特定外来生物分類群専門家グループ(無脊椎動物), 委員(2004年~).
- 環境省特定外来生物分類群専門家グループ(魚類), 委員(2014年1月~).

環境省外来生物対策室「外来種被害防止行動計画」の見直しに関する検討会，委員（2023年8月～2025年3月）．
環境省外来生物対策室「生態系被害防止外来種リスト」の見直しに係る検討会，委員（2023年8月～）．
環境省外来生物対策室「生態系被害防止外来種リスト」の見直しに係る検討会 魚類ワーキンググループ会合，検討委員（2024年8月～）．
環境省外来生物対策室「オオクチバス等にかかる防除の指針」改定に係る検討会，委員（2024年8月～2025年3月）．
環境省中国四国地方環境事務所 外来タナゴ類対策ワーキンググループ，委員（2023年9月～）．
農林水産省東海農政局外来貝類被害防止対策検討調査連絡会，座長（2014年～）．
農林水産省「生物多様性と農業生産を脅かす侵略的外来種の根絶技術の開発」運営委員会，運営委員（2024年6月～2028年3月）．
国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所河川保全利用委員会，委員（2004年8月～）．
国土交通省東北地方整備局三春ダム管理所三春ダム外来魚研究会，座長（2012年1月～）．
（公財）リバーフロント研究所「河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，貝類担当委員（1999年2月～）．
（一財）水源地環境センター「河川水辺の国勢調査（ダム湖版）スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，貝類担当委員（1999年10月～）．
西宮市貝類館運営委員会，委員（2021年9月～）．
甲賀市みなくち子どもの森運営協議会，委員（2024年～）．

印刷物

【専門分野の著作】

大塚泰介・根来 健（2024）琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究. (公財) 令和 5 年度水質保全研究助成報告書, 琵琶湖・淀川水質保全機構, 10 pp. (published online).

http://www.byq.or.jp/josei/r05/accomplishment_report/1-3_report_ohtsuka.pdf

根来 健・大塚泰介（2025）滋賀県安曇川中流域で増殖を始めた外来性ミズワクチビルケイソウ. 陸水研究（日本陸水学会近畿支部会）, 12 (1), 52-53.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

畑中 顕・吉山浩平・根来 健・大塚泰介（2024年6月22日）基質の粗さが付着珪藻群集に及ぼす影響, 日本珪藻学会第45回大会, 酪農学園大学（北海道江別市）, [口頭発表].

根来 健（2024年6月23日）浄水処理（水道）と珪藻類, 日本珪藻学会第45回大会 公開シンポジウム「珪藻と社会」, 酪農学園大学（北海道江別市）, [口頭発表].

畑中 顕・吉山浩平・根来 健・大塚泰介（2024年10月19日）基質表面の粗さが付着珪藻群集動態に与える影響, 日本陸水学会第88回大会, 熊本大学（熊本市）, [口頭発表].

大塚泰介・根来 健（2024年9月27日）プランクトンの変動. 令和6年度日本水産学会秋期大会水産環境保全委員会企画研究会「琵琶湖における環境変動と漁業生産の変化：瀬戸内海と比較して考える」, 京都大学（京都市）, [口頭発表].

根来 健（2024年10月19-20日）日本珪藻学会第43回研究集会, 企画・運営, 琵琶湖博物館, [実行委員長].

根来 健（2024年10月20日）環境調査において過小評価される淡水産浮遊珪藻とその特性. 日本珪藻学会第43回研究集会 公開シンポジウム「珪藻が出ない!」, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

根来 健（2024年11月1-3日）日本水処理生物学会第60回兵庫大会の運営, 姫路市市民会館（兵庫県）, [運営委員].

根来 健（2024年11月1日）水道生物研究集会, 日本水処理生物学会第60回大会, 姫路市市民会館（兵庫県）, [コーディネーター, 基調講演].

一瀬 諭・根来 健・大塚泰介・辻 彰洋（2024年11月3日）琵琶湖南部・瀬田川に突然出現した *Coronia echeneis* (Ehrenberg ex Kützing) Ehrenberg について, 日本水処理生物学会第60回大会, 姫路市市民会館（兵庫県）, [口頭発表].

根来 健・大塚泰介（2024年11月3日）琵琶湖で再増殖し始めた直鎖型 *Aulacoseira ambigua*. 日本水処理生物学会第60回大会, 姫路市市民会館（兵庫県）, [口頭発表].

根来 健（2024年11月28-29日）日本水処理生物学会第39回水処理生物基礎講座「生ぐさ臭・淡水赤潮の原因となる黄金藻類等の冬のプランクトンの観察・同定・培養・評価技術」の運営, 琵琶湖博物館, [幹事長・司会].

根来 健（2024年11月28日）微細藻類の単離と培養, 日本水処理生物学会第39回水処理生物基礎講座, 琵琶湖博物館, [講演].

根来 健（2024年12月15日）第15回琵琶湖地域の水田生物研究会, [座長].

根来 健・大塚泰介（2025年3月8日）滋賀県安曇川中流域で増殖を始めた外来性ミズワタクチビルケイソウ。日本陸水学会近畿支部会第36回研究発表会，京都大学（京都市），[口頭発表]。

大塚泰介・根来 健（2025年3月14日）琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究，令和6年度水質保全研究助成成果報告会，（公財）琵琶湖・淀川水質保全機構，大阪府立男女共同参画・青少年センター（大阪市），[口頭発表]。

菅原巧太朗・鈴木隆仁・根来 健・川瀬成吾・岡野邦宏・芳賀芳樹（2025年3月17・18日）琵琶湖博物館屋外展示の生態観察池での池干しによる環境改善効果の評価，日本水環境学会第59回年会，北海道大学（札幌市），[ポスター発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変化」（研究代表者：亀田佳代子），共同研究者（2019年度～）。

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖のプランクトン電子図鑑の構築」（研究代表者：大塚泰介），共同研究者（2021年度～2024年度）。

琵琶湖博物館共同研究「池干し前後の水質・底質・食物網解析による適切なため池管理に関する研究」（研究代表者：菅原巧太朗），共同研究者（2023年度～2026年度）。

（公財）琵琶湖・淀川水質保全機構 水質保全研究助成「琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究」（研究代表者：大塚泰介），共同研究者（2022年度～2024年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

環境技術学会，理事，2015年～。

日本水処理生物学会，評議員，2017年～。

日本水処理生物学会，幹事長，2023年～。

（公財）日本水道協会 水質試験方法等調査専門委員会 微生物・生物部会，通知文（オンライン公開）査読，1件

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2024年5月14日～ 滋賀県立大学大学院環境科学研究科 修士課程2年生のSEM観察等実技指導，琵琶湖博物館電子顕微鏡室。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ「たんさいぼうの会」，副会長。

はしかけ「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」，会員。

2024年11月16-17日，びわはくフェス2024，マイクロアクアリウムを活用したワークショップ，琵琶湖博物館，解説員。

2025年1月9日，走査電子顕微鏡に係る水凍結乾燥法実技講習会，琵琶湖博物館，[企画運営]。

他博物館・機関の主催行事（地域連携を含む）

2024年9月5日，講演「琵琶湖のプランクトン（+微細藻類の産業利用）」，朝日新聞ひととき会（滋賀グループ）主催，朝日新聞大津総局5階会議室。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

プランクトン・琵琶湖の水質等について，展示交流員への解説・質疑応答・資料作成，多数。

マイクロバー訪問者（一般見学者）に対する，琵琶湖のプランクトンに関する解説・質問回答，多数。

プランクトンの顕微鏡写真，作成，マイクロバーへの設置.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県近江八幡市水道事業運営委員会，委員（副委員長）（2019年～）.

NPO法人 水道事業活性化懇話会，委員（2015年～）.

（一社）全国水道管内カメラ調査協会，専門委員（2017年～）.

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

マリンバイオテクノロジー学会, 評議員, 2003年4月～.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年4月16日～5月20日, 公立若狭高等看護学院, 「微生物学」, 非常勤講師.

2024年10月1日～2025年1月17日, 阪奈中央リハビリテーション専門学校作業療法学科, 「病理学」, 非常勤講師.

2024年9月30日～2025年2月3日, 青丹学園言語聴覚学科, 「病理学」, 非常勤講師.

2024年10月3日～2025年2月25日, 青丹学園看護学科, 「病理学」, 非常勤講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

福井県衛生環境研究センター, 調査研究等評価委員会, 委員長 (2024年9月26日).

福井県小浜市環境審議会, 議長 (2025年3月19日).

印刷物

【学術論文】

Fujioka, Y., T. Yoshioka and A. Ide (2024) Density and maturity size of Utsusemi-kazika *Cottus reinii* (Cottidae) in the middle course of the Ado River flowing into Lake Biwa, central Japan, *Biogeography*, 26: 55-64.

【専門分野の著作】

藤岡康弘・川瀬成吾・田畑諒一 (編) (2024), *琵琶湖の魚類図鑑*, サンライズ出版, 彦根, pp. 232.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 研究分担者 (2019 年度~).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Fisheries Science の論文査読, 1 件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024 年 5 月 25 日, 琵琶湖博物館うおの会第 8 回お魚研究者養成講座, 琵琶湖博物館実習室. 主催.

2024 年 9 月 1 日, 琵琶湖博物館うおの会第 9 回お魚研究者養成講座, 琵琶湖博物館実習室. 主催.

2024 年 11 月 30 日, 琵琶湖博物館うおの会第 10 回お魚研究者養成講座, 琵琶湖博物館実習室. 主催.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2024 年 4 月 21 日, 琵琶湖博物館うおの会のお魚調査, 米原市天野川周辺, 調査, 参加.

2024 年 5 月 1 日, (仮) 森の文化博物館協議会, 東近江市, 委員.

2024 年 5 月 17 日, (仮) 森の文化博物館協議会, 東近江市, 委員.

2024 年 5 月 19 日, 琵琶湖博物館うおの会のお魚調査, 守山市野洲川周辺, 調査, 参加.

2024 年 5 月 22 日, 「琵琶湖の環境と魚について」. 近江八幡市島小学校 3 年生, 近江八幡市長命寺 (近江八幡漁業協同組合会議室), 講演.

2024 年 6 月 3 日, 「琵琶湖淀川水系の形成と多様な生き物」. 人と自然の講座, シニア大阪自然大学校, (大阪市 NS21 ビル 9 階会議室), 講演.

2024 年 6 月 12 日, (仮) 森の文化博物館協議会, 東近江市, 委員.

2024 年 6 月 15 日, 「川のお魚から日野の自然について考える」. 日野文化協会総会, 講演.

2024 年 6 月 26 日, 「愛知川のアユについて考える」. 愛知川漁業協同組合主催研修会, 東近江市永源寺コミュニティーセンター, 講演.

2024 年 7 月 1 日, (仮) 森の文化博物館協議会, 東近江市, 委員.

2024 年 7 月 8 日, 米川のビワマスについての協議, 長浜市まちづくり協議会, 長浜市, 委員.

2024 年 7 月 23 日, 東近江市主催エコツアーガイド, 東近江市能登川の琵琶湖岸, 水生生物の観察会, 指導.

2024 年 8 月 3 日, 琵琶湖博物館うおの会の夜間お魚調査, 大津市志賀町, 調査, 参加.

2024 年 8 月 10 日, 「ビワマスの生態について」滋賀銀ケイブン主催, 講演.

2024 年 8 月 24 日, お魚調査隊, 東近江市環境課主催, 東近江市永源寺の愛知川支流, 講師.

2024年8月27日、野洲市・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト協議会、中主防災センター会議室、参加。

2024年9月22日、「米川のビワマスについて」の協議会、長浜市まちづくり協議会、長浜市、指導。

2024年9月29日、愛知川のアユ産卵場造成、愛知川漁業協同組合主催、東近江市能登川の愛知川、指導。

2024年10月3日、東近江市環境審議会、東近江市、委員。

2024年10月3日、「東近江の魚・漁・食とエコツーリズム」、東近江の森里川湖エコツーリズムガイド養成講座、東近江の森里川湖エコツーリズムガイド協会、東近江市、講演。

2024年10月8日、ビワマス産卵床の造成、野洲市家棟川ビワマスプロジェクト協議会、野洲市、参加。

2024年10月11日、ビワマス産卵床の造成、長浜市まちづくり協議会、長浜市、指導。

2024年10月19日、愛知川ビワマス簡易魚道設置、愛知川漁業協同組合、愛知川支流（東近江市）、参加。

2024年10月20日、琵琶湖博物館うおの会のお魚調査、竜王町周辺河川、調査、参加。

2024年10月28日、家の棟川ビワマスフォーラム打合せ、長浜市まちづくり協議会、長浜市、参加。

2024年11月7・8日、愛知川支流御池川の魚類調査、(仮)森の文化博物館協議会、東近江市、指導。

2024年11月9日、琵琶湖博物館うおの会のお魚調査（特別編）、佐久良川周辺、調査、主催。

2024年11月16日、琵琶湖フェスティバル参加、うおの会、琵琶湖博物館、参加。

2024年12月6日、愛知川支流御池川の魚類調査、(仮)森の文化博物館協議会、東近江市、指導。

2024年12月15日、琵琶湖博物館うおの会のお魚調査、守山市法竜河、調査、参加。

2024年12月23日、余呉湖漁業協同組合の調査、全内多面的機能発揮対策調査、長浜市余呉、調査。

2024年12月24日、(仮)森の文化博物館協議会、東近江市、委員。

2024年12月26日、東近江市環境審議会、東近江市、委員。

2025年1月15日、兵庫県寺前川漁業協同組合の調査、全内多面的機能発揮対策調査、兵庫県神河町、調査。

2025年1月19日、「ウツセミカジカの分布と生態」、琵琶湖博物館うおの会、琵琶湖博物館会議室、講演。

2025年1月26日、「ビワマスの生態」、長浜 MLG Café、近江淡水魚研究所主催、長浜市図書館会議室、講演。

2025年2月2日、「米川ビワマスフォーラム」、長浜市まちづくり協議会、長浜市、委員、コメンテーター。

2025年2月15日、「ビワマス保全の輪を広げよう！」(ビワマスフォーラム)、家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト、野洲市コミセン中里、コメンテーター。

2025年2月23日、沖曳網漁獲魚の同定、長浜 MLG Café、近江淡水魚研究所主催、長浜市まちづくりセンター会議室、指導。

2025年3月9日、愛知川ビワマス簡易魚道撤去、愛知川漁業協同組合、愛知川支流（東近江市）、参加。

2025年3月11日、ビワマス稚魚調査、家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト、野洲市、調査、指導。

2025年3月15日、ナレズシ研究報告会、琵琶湖博物館主催、琵琶湖博物館ホール、参加。

2025年3月23日、ビワマス稚魚調査、長浜市まちづくり協議会、長浜市、委員、調査、指導。

2025年3月24日、東近江市環境審議会、東近江市、委員。

2025年3月26日、令和7年度調査事業打合、(仮)森の文化博物館協議会、近畿大学農学部（奈良市）、委員。

2025年3月30日、うおの会総会、琵琶湖博物館うおの会、琵琶湖博物館会議室、運営委員。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

全国内水面漁業協同組合連合会水産多面的機能発揮対策支援事業、サポート専門家（2013年～）。

東近江市環境審議会、委員（2017年～）。

国営土地改良事業「近江東部地区」推進協議会環境配慮検討委員会、委員（2020年～）。

東近江市（仮）森の文化博物館専門委員（2022年～）。

日野町環境審議会、委員（2024年12月～）。

印刷物

【専門分野の著作】

- 増田敬祐 (2024) 環境にやさしい世界とは何か-環境における人間の位置づけの変化とエコの管理術. In: 水野友晴(編) 未来世界を哲学する 第1巻 環境と資源・エネルギーの哲学. 丸善出版, 東京都千代田区, 123-163.
- 増田敬祐 (2025), 書評『都市の緑は誰のものか』図書新聞, 2025年2月8日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 増田敬祐 (2025年1月17日) 『里山』における里と山のレジリエンスを考える-環境倫理学の視点から. 第10回研究セミナー (琵琶湖博物館), 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 共生社会システム学会, 理事, 2023年4月～.
- 「共生社会システム研究」(共生社会システム学会), 編集委員, 投稿論文, 編集, 2件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2024年4月～2024年9月, 東京農業大学, 講義「環境倫理」, 非常勤講師.
- 2024年4月～2024年9月, 大阪公立大学, 講義「環境・生命・倫理」, 非常勤講師.

印刷物

【学術論文】

八尋克郎・武田滋・大槻達郎 (2024) 佐波江浜における地表徘徊性甲虫の種類組成と季節消長. *日本生物地理学会会報*, 79: 1-8.

【専門分野の著作】

八尋克郎 (2025) 昆虫. In: 琵琶湖ハンドブック改訂検討チーム (編), *琵琶湖ハンドブック四訂版*, 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課, 大津, pp. 192-193.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

八尋克郎 (2024年7月13日) 第33回環境アセスメント動物調査手法講演会の司会・進行. 日本環境動物昆虫学会, 大阪公立大学 I-site なんば (大阪市), [座長].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本環境動物昆虫学会第13期環境アセスメント動物調査手法研究部会, 運営委員, 2010年2月～.
滋賀オサムシ研究会, 事務局, 1997年度～.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2024年4月～9月, 龍谷大学「環境の科学」, 講義.
2024年6月～7月, 龍谷大学「地域環境概論A」, 講義.
2024年10月～2025年3月, 龍谷大学「博物館情報・メディア論」, 講義.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2024年4月1日～2025年3月31日, はしかけ「虫架け」, はしかけ活動, 代表.
2024年4月13日, はしかけ「古琵琶湖発掘調査隊」, 多賀町で産出した昆虫化石, 講師.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2024年8月1日, 8月9日, 8月16日, 8月22日, 8月27日, 9月7日 昆虫乾燥標本 (オサムシ科甲虫) の整理, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，部会長（2011年4月1日～）．

野生動植物との共生に関する検討会，委員（2012年4月1日～）．

守山市ほたるの森資料館，館内展示監修（2024年4月1日～9月30日）．

研究活動に関する業績

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2024年5月8日，森林体験学習「やまのこ」事業指導員研修，近江富士花緑公園（滋賀県野洲市），講師。
- 2024年5月14日，森林体験学習「やまのこ」事業視察，葛川少年自然の家，（滋賀県大津市），講師。
- 2024年6月4日，総合学習授業「森の観察と森林資源利用体験」，日野町立南比都小学校（滋賀県日野町），講師。
- 2024年6月6日，森林体験学習「やまのこ」事業視察，河辺生き物の森（滋賀県東近江市），指導業務。
- 2024年6月12日，滋賀県立甲南高等学校「森林科学コース実習」，甲南高校実習農園（滋賀県甲賀市），講師。
- 2024年6月18日，滋賀もりづくりアカデミー前期「森林学講義および実習指導」。
- 2024年7月4日，滋賀もりづくりアカデミー前期，「林業機械実習」。
- 2024年6月～2024年9月，滋賀県森林組合連合会緑の雇用実習生，「林業技術に関する講義」。
- 2024年6月～2024年9月，滋賀県森林組合連合会緑の雇用実習生，「林業機械実習」。
- 2024年8月21日8月22日，8月27日，8月29日，9月2日，滋賀もりづくりアカデミー前期，「林業機械実習」。
- 2024年8月28日，森林体験学習「やまのこ」事業指導員研修，森林公園くつきの森（滋賀県高島市），講師。
- 2024年9月10日，森林体験学習「やまのこ」事業指導員研修，高山キャンプ場（滋賀県長浜市），講師。
- 2024年9月25日，滋賀県立伊香高校「自然環境コース実習」（森の探求科プレ授業），伊香高校隣学校林（滋賀県長浜市），講師
- 2024年10月3日，滋賀もりづくりアカデミー後期「森林学講義および実習指導」。
- 2024年12月2日，12月11日～13日，12月17日，滋賀もりづくりアカデミー後期，「林業機械実習」。
- 2024年10月15日，森林体験学習「やまのこ」事業視察，高取山ふれあい公園（滋賀県多賀町），指導業務。
- 2024年10月23日，滋賀県立甲南高等学校「森林科学コース実習」，甲南高校実習農園（滋賀県甲賀市），講師。
- 2024年10月30日，滋賀県立甲南高等学校「森林科学コース実習」，甲南高校実習農園（滋賀県甲賀市），講師。
- 2024年11月7日，森林体験学習「やまのこ」事業視察，栗東森の未来館（滋賀県栗東市），指導業務。
- 2024年12月25日，森林体験学習「やまのこ」事業指導員研修，みなくち子どもの森（滋賀県甲賀市），講師。
- 2025年1月15日，滋賀県立甲南高等学校「森林科学コース実習」，甲南高校実習農園（滋賀県甲賀市），講師。
- 2025年3月13日，森林体験学習「やまのこ」事業令和6年度第4回専任指導員研修，感想文を用いたプログラム効果測定各施設結果の報告会およびプログラム効果測定法についての検討会，滋賀県庁（滋賀県大津市），滋賀県森林政策課，講師。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の主催行事

- 2024年4月～2024年12月毎月1回，日野里山フリースクール自然体験の日，滋賀県日野町，講師。
- 2024年7月16日，令和6年度滋賀県立伊香高等学校第1回「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」運営指導委員会，滋賀県立伊香高等学校（滋賀県長浜市），運営指導委員。
- 2024年10月26日，「滋賀県甲賀市育樹活動」（イオンの森「あぶらひ」協働事業），森林政策課やまの健康推進係・びわ湖材流通推進課普及指導係（滋賀県甲賀市），企画制作運営及び講師。
- 2024年11月27日，令和6年度滋賀県立伊香高等学校第2回「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」運営指導委員会，滋賀県立伊香高等学校（滋賀県長浜市），運営指導委員。
- 2024年11月23日，大原自治振興会地域環境部会企画「里山で楽しむ一日」，大原自治振興会（滋賀県甲賀市），講師。
- 2024年11月30日，びわ森しが保育フォーラム2024，（一社）びわ湖の森のようちえんしが自然保育ネットワーク（滋賀県高島市），講師。
- 2024年12月24日，令和6年度甲賀市生産森林組合連絡協議会研修会，甲賀市林業振興課（滋賀県甲賀市），講師。
- 2025年3月23日，令和5年度滋賀県立伊香高等学校第3回「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」運営指導委員会，滋賀県立伊香高等学校（滋賀県長浜市），運営指導委員。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

甲賀愛林クラブ役員，女性部部長（2008年4月～）．

甲賀木の駅運営委員会，役員・事務局（2014年4月～）．

くでじゅう甲賀，役員（2014年4月～）．

くぬぎの森自然遊び広場&山の学校，代表（2012年4月～）．

巨木と水源の郷をまもる会，会員（2021年4月～）．

滋賀県植物研究会，会員．2019年4月～）．

滋賀もりづくりアカデミー，講師．（2021年6月～）．

林野庁補助事業「緑の雇用」事業，講師（2021年6月～）．

日野里山フリースクール，自然体験授業担当（2022年4月～）．

甲賀市甲賀町大原自治振興会，副会長（2024年4月～）．

滋賀県立伊香高等学校新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）運営指導委員会，運営委員（2023年4月～）．

里山実験室 HareMori，主催（2021年4月～）．

印刷物

【学術論文】

谷沢弘将・三浦正之・村井涼佑・竹内智洋・山本充孝・馬場真哉・増田賢嗣・坪井潤一（2024）ライトトラップによる外来魚仔稚魚の捕獲. *日本水産学会誌*, 90（3）：220-227.

【専門分野の著作】

山本充孝（2024）In: 藤岡康弘・川瀬成吾・田畑諒一（編）*琵琶湖の魚類図鑑* *琵琶湖の魚類図鑑* サンライズ出版, 彦根, pp. 152-154.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

加藤秀雄・山本充孝（2024年5月17日）琵琶湖のアユと人の関係をめぐる環境民俗学—ふえる／へる、ふやす／へらすという視点から—。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

山本充孝（2025年2月1日）外来魚駆除モデル水域 - 曾根沼における外来魚の現状，第20回「外来魚情報交換会」，琵琶湖博物館，[口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事（地域連携を含む）

2024年5月26日，第23回「琵琶湖外来魚駆除の日」（外来魚解剖教室），琵琶湖を戻す会，烏丸半島多目的広場（滋賀県草津市），講師.

2024年7月21日，赤野井湾探検会（ブラックバスの解剖），びわこ豊穰の郷，玉津小津漁業協同組合（滋賀県守山市），講師.

2024年8月22日，野洲川アユ産卵床造成，国交省，野洲川（滋賀県守山市），講師. 令和6年度・野洲川ミズベリング“川底の石を動かしてアユの産卵場をつくろう”.

メディアへの協力

2024年8月31日，読売新聞「アユ産卵床づくり挑戦」，取材対応（8月22日取材）.

【資料整備活動】

魚類資料収集，3件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

魚類防疫士連絡協議会，近畿中国ブロック理事（副会長）（2021年～）.

総合研究・共同研究による印刷物

- 市川秀之 (2024) フィールドワーク教育を通じた地域社会とのつながり. *日本民俗学*, 318:52-64.
- 大塚活美 (2024) 石の文化財から探る滋賀の歴史. サンライズ出版, 彦根, 1-220.
- 久保旭, 亀甲博貴, 原島純, 木村明日香, 関野樹, 森信介 (2024) 主観的な時間表現を含む時間区間アノテーションデータセットの構築. *研究報告自然言語処理*, (NL)2024-NL-261:1-7.
- 久保旭, 亀甲博貴, 原島純, 木村明日香, 後藤真, 関野樹, 森信介 (2024) 主観的な時間表現のアノテーションと可視化. *情報処理学会シンポジウムシリーズ じんもんこん 2024 論文集* pp. 125-132. Reviewed.
- Tatsuki Sekino (2024) Deriving temporal position of a period based on positional relationships between periods using linked data. *Proceedings of the 2024 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetings (PNC)*. doi:10.23919/PNC63053.2024.10697376 Reviewed.
- 田邊紘一 (2025) フナズシにおける優先微生物種の検討, *研究報告会「江戸時代のフナズシに、挑戦する」要旨集*, 8-9. 2.
- 関野 樹 (2024) Linked Data を使ったデータ間の時間的矛盾の検出. *情報処理学会シンポジウムシリーズ じんもんこん 2024 論文集* pp. 17-22. Reviewed.
- 関野 樹 (2025) デジタルヒューマニティーズのための時間情報基盤. In: 鄭炳浩・松田利彦・馬場幸栄 (編) *デジタルヒューマニティーズが拓く人文学—日韓研究者の対話*. 晃洋書房, 京都市, pp.191-201.
- 牧野厚史 (2024) 水から何をみるのか. In: 牧野厚史・藤村美穂・川田美紀 (編) *入門・環境社会学—現代的課題との関わりで*. 学文社, 目黒区, 9-28.
- 牧野厚史 (2024) 上流社会が抱える課題. In: 牧野厚史・藤村美穂・川田美紀編 (著) *入門・環境社会学—現代的課題との関わりで*. 学文社, 目黒区, 69-88.
- 矢田直樹 (2024) 長浜市余呉町下余呉の太鼓踊りからみる祭りの継承と変容. *帝塚山大学文学部紀要*, 45: 37-5
- 矢田直樹 (2024) 日野祭りの変遷と復興(全編). *日本文化史研究*, 55: 21-40 3.
- 吉山洋子 (2025) 江戸時代から現代へ フナズシ変遷の秘密を解き明かす, *研究報告会「江戸時代のフナズシに、挑戦する」要旨集*, 6-7.
- 渡部圭一 (2024) 近江における「柴山」の存在形態. In: 妹尾裕介(編) *森と人の関係史—人は森をどう利用してきたのか*. 琵琶湖博物館研究調査報告第37号, 滋賀県立琵琶湖博物館, 55-66pp. 6.
- 渡部圭一 (2025) 里山と林業の歴史. In: 琵琶湖ハンドブック改訂検討チーム (編), *琵琶湖ハンドブック四訂版*, 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課, 大津, (印刷中) .

*編集者注：学芸職員および特別研究員による印刷物については、各員のページを参照。

このリストでは、研究課題ごとに分けず、著者名のアルファベット順に並べた。

2024 年度の研究活動を振り返って

第三次中長期基本計画に基づき「世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進」「研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える」「研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化」を進め、博物館の研究事業である総合研究 1 件、共同研究 9 件、申請専門研究 3 件に加え、外部助成金を受けた研究として科研費 25 件（代表 11 件、分担者 14 件）、その他 7 件を実施した。これらの研究の成果は学術論文 23 件、専門向けの著述 31 件のほか、企画展示の開催、常設展示の更新、各種交流事業を通じて社会に還元した。また 2022 年度からは伊藤忠商事と実施している「琵琶湖地域の生物多様性総合保全に関する連携研究プロジェクト」では年ぶりに天然記念物アユモドキの繁殖に成功した。

研究成果の発信力の強化としては、過去に刊行した研究報告書のウェブ公開（J-Stage）を継続し、閲覧ページ数、ダウンロード数ともに順調に増加している。巻号一覧ページの閲覧数の約 1/4 は海外からのアクセスとみられ、国際的な情報発信にも寄与している。

外部機関との連携では、韓国洛東江生物資源館との機関長会議・合同セミナーを実施したこと、大阪府立環境農林水産総合研究所と新たに連携協定を結んだこと、伊藤忠商事との連携研究でアユモドキの繁殖に成功したことなどが大きなトピックである。

研究環境の整備、特に研究の遂行に必要な備品類の更新は相変わらず大きな課題である。これについては調達計画を再検討するべく準備を進めている。

研究部長 芳賀裕樹

琵琶湖博物館業績目録 第29号
2024年度

令和7年(2025年)6月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091
電話 077-568-4811(代)